

II 調査結果

1 政策の満足度、県政への要望調査

県の政策や県政運営に係る項目について、県民の満足度と要望を探った。

調査項目は、県の総合計画である「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー」の政策を中心に、計 74 項目を設定した。また、その 74 項目を「活力」、「未来」、「安心」、「人づくり」、「県政運営」の 5 区分に大別し、さらに分析にあたっては、「産業」、「交流・物流」、「まちづくり・観光」、「子育て・教育」、「県民活動」、「地域づくり」、「健康・福祉」、「環境」、「安全・安心」、「人づくり」、「県政」の 11 領域に編成した。

なお、分析では、満足度の評価は「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた数値を、反対に不満度の評価は「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた数値をそれぞれの評価の尺度（指標）としている。

(1) 政策の満足度[概要]

問1 あなたは県の政策に対してどの程度満足していますか。以下の項目それぞれについて、右の欄の1～5の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。

ア 満足度の高い政策

- 満足度の上位をみると、「14 北陸新幹線の整備促進」が46.0%と最も高く、次いで「54 水資源の保全と活用」30.2%、「50 食の安全確保と地産地消・食育の推進」28.1%の順となっている。(図表1)
- 前回調査と比べ、上位2項目は同じであるが、「50 食の安全確保と地産地消・食育の推進」が5位から3位、「25 子育て支援」が7位から4位、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が6位から5位、「16 利便性の高い道路ネットワークの整備」が12位から6位、「46 医療提供体制の充実」が17位から8位、「33 スポーツの振興」が13位から9位、「52 自然環境の保全」が14位から10位と順位を上げている。(図表1、2)

図表1 政策の満足度（上位10項目）

単位：%

順位	区分	領域	項目	満足度	前回調査 (H29)
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	46.0	52.8 (1位)
2	安心	環境	54 水資源の保全と活用	30.2	32.3 (2位)
3	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.1	26.7 (5位)
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	24.6	25.3 (7位)
5	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.5	26.1 (6位)
6	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.4	23.7 (12位)
7	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	24.2	30.6 (3位)
8	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	24.0	22.3 (17位)
9	未来	県民活動	33 スポーツの振興	23.9	23.6 (13位)
10	安心	環境	52 自然環境の保全	23.4	23.4 (14位)

<時系列比較>

図表2 政策の満足度（上位5項目の時系列比較）

単位：%

順位	H26	H27	H28	H29	H30
1	北陸新幹線の整備促進 51.7	北陸新幹線の整備促進 50.4	北陸新幹線の整備促進 52.0	北陸新幹線の整備促進 52.8	北陸新幹線の整備促進 46.0
2	水資源の保全と活用 34.2	水資源の保全と活用 35.2	水資源の保全と活用 35.2	水資源の保全と活用 32.3	水資源の保全と活用 30.2
3	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 29.2	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 29.0	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 28.6	芸術文化の振興 30.6	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 28.1
4	雪に強いまちづくり 30.1	雪に強いまちづくり 29.0	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 28.2	雪に強いまちづくり 27.9	子育て支援 24.6
5	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 27.9	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 28.2	雪に強いまちづくり 27.8	食の安全確保と地産 地消・食育の推進 26.7	新幹線駅を核とした 交流拠点づくり 24.5

イ 不満度の高い政策

- 不満度の上位をみると、「21 中心市街地の賑わいの創出」が 44.4%と最も高く、次いで「59 雪に強いまちづくり」41.4%、「20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」36.3%の順となっている。(図表 3)
- 前回調査と比べ、「59 雪に強いまちづくり」が 14 位から 2 位、「15 新幹線を核とした交流拠点づくり」が 11 位から 7 位、「61 生活交通の確保」が 18 位から 9 位と順位を上げている。(図表 3、4)

図表 3 政策の不満度（上位 10 項目）

単位：%

順位	区分	領域	項目	不満度	前回調査 (H29)
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	44.4	44.6 (1位)
2	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	41.4	28.1 (14位)
3	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.3	34.4 (4位)
4	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.0	35.6 (3位)
5	活力	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.8	36.5 (2位)
6	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	30.8	31.6 (7位)
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.8	29.5 (11位)
8	県政運営	県政	74 「とやまから日本を変える」改革と創造	29.3	31.5 (8位)
9	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	29.3	26.4 (18位)
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	29.1	32.9 (5位)

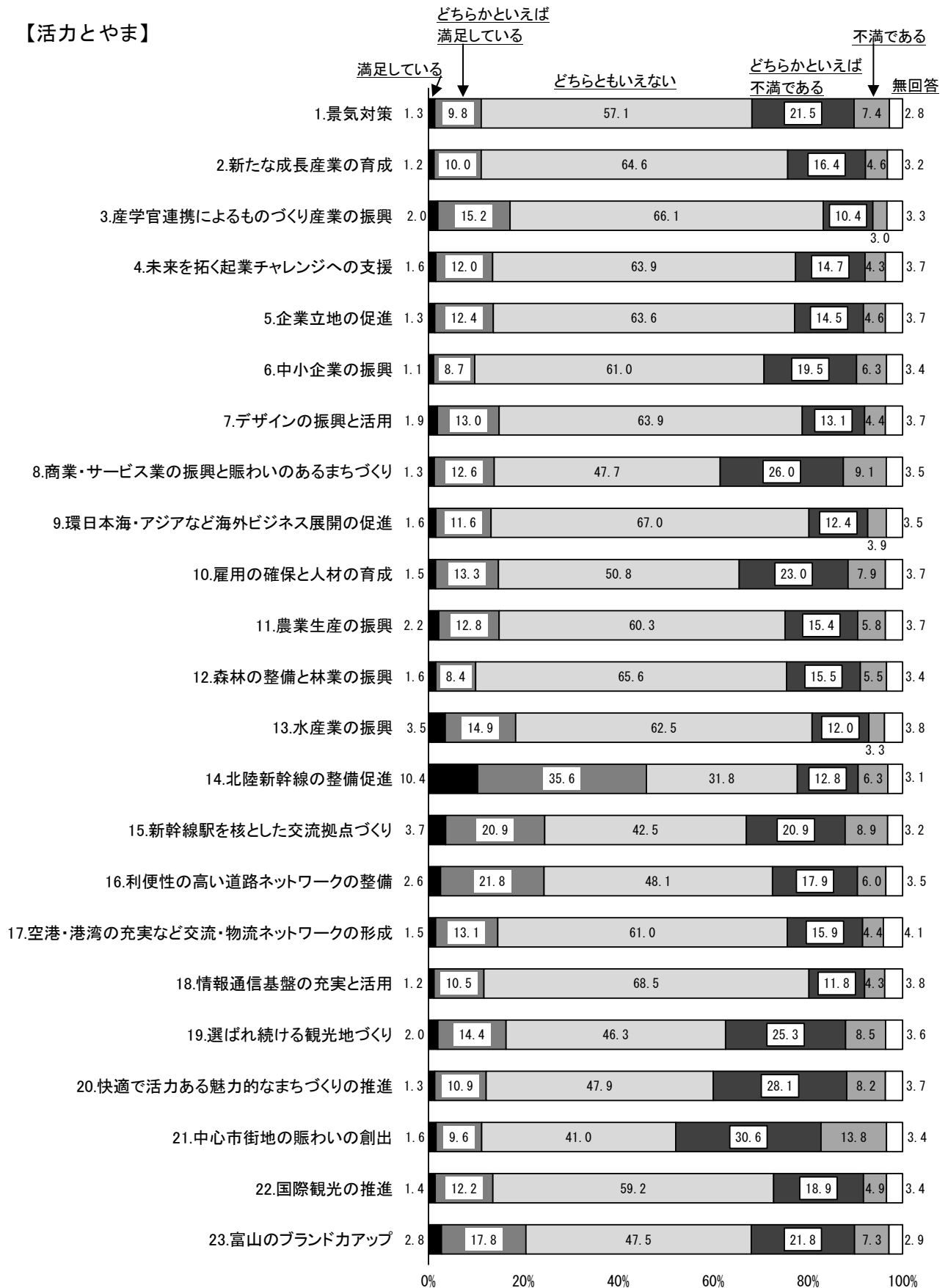
<時系列比較>

図表 4 政策の不満度（上位 5 項目の時系列比較）

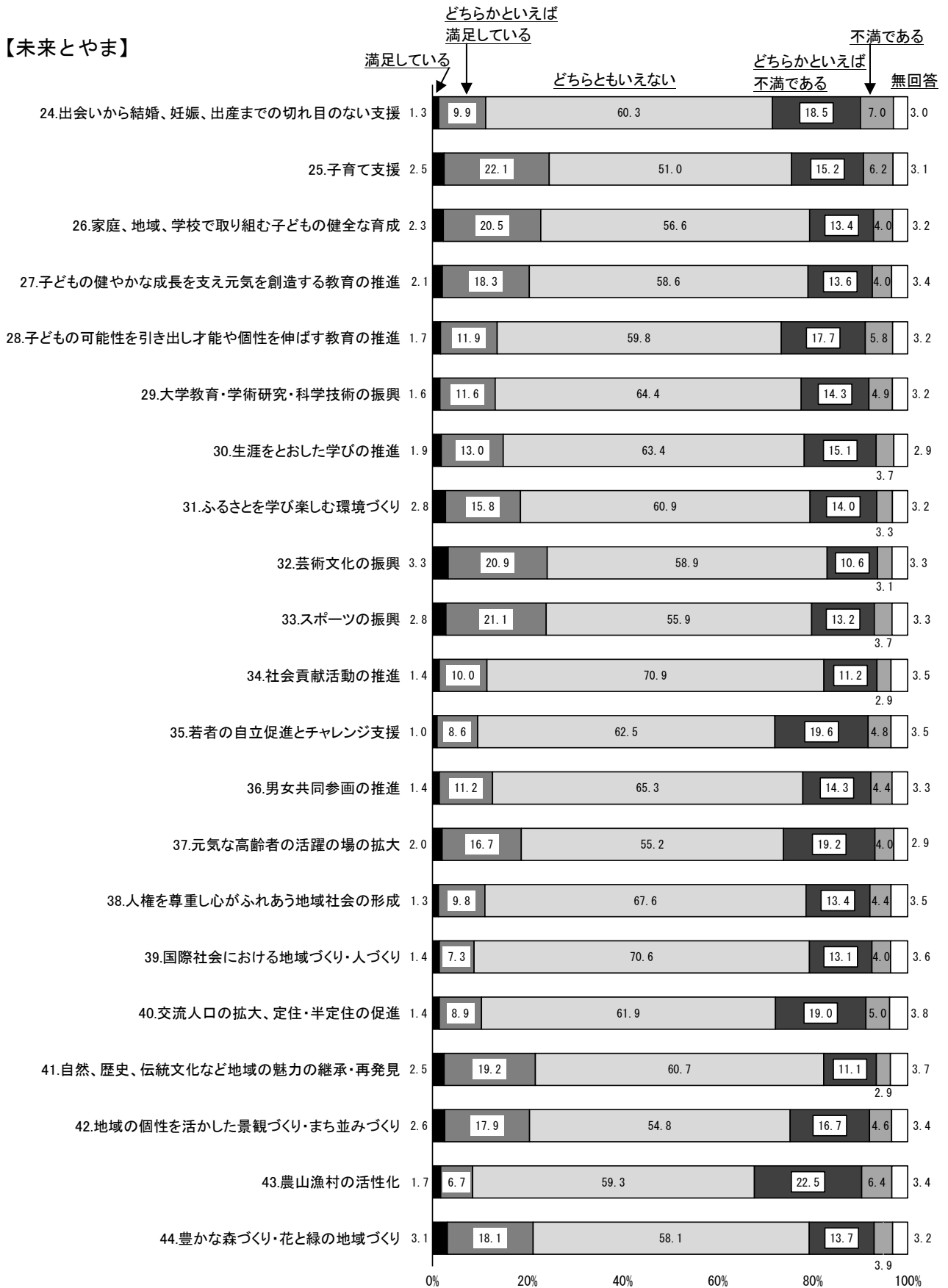
単位：%

順位	H26	H27	H28	H29	H30
1	中心市街地の賑わいの創出 43.6	中心市街地の賑わいの創出 45.6	中心市街地の賑わいの創出 46.9	中心市街地の賑わいの創出 44.6	中心市街地の賑わいの創出 44.4
2	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 37.6	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 36.2	オープンでわかりやすい県政 36.8	選ばれ続ける観光地づくり 36.5	雪に強いまちづくり 41.4
3	景気対策 36.2	選ばれ続ける観光地づくり 35.1	選ばれ続ける観光地づくり 35.2	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 35.6	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 36.3
4	雇用の確保と人材の育成 36.0	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 34.4	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 34.1	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 34.4	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 35.0
5	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 32.7	雇用の確保と人材の育成 33.3	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 33.8	富山のブランドカアップ 32.9	選ばれ続ける観光地づくり 33.8

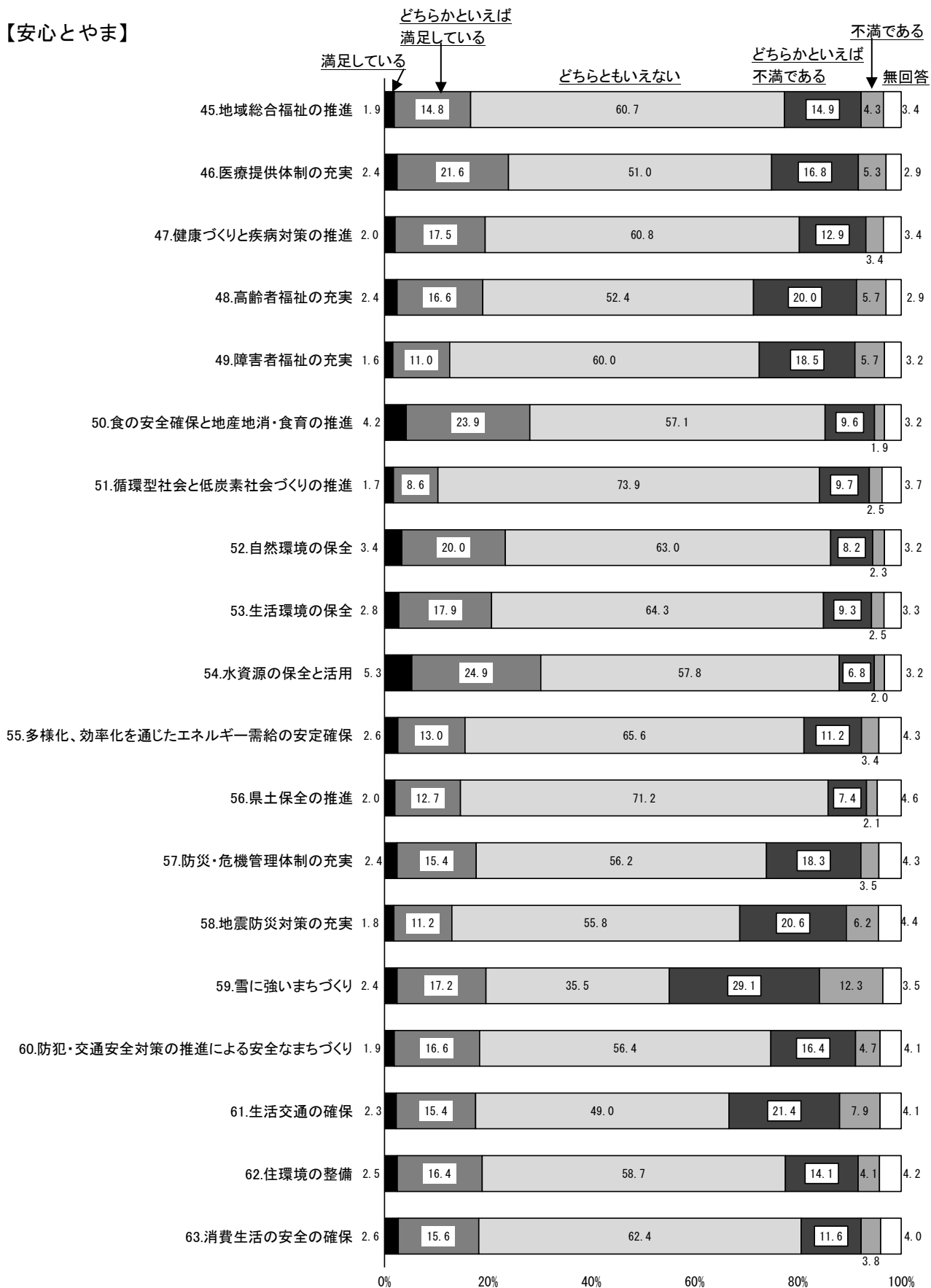
図表5 政策の満足度（分野別）



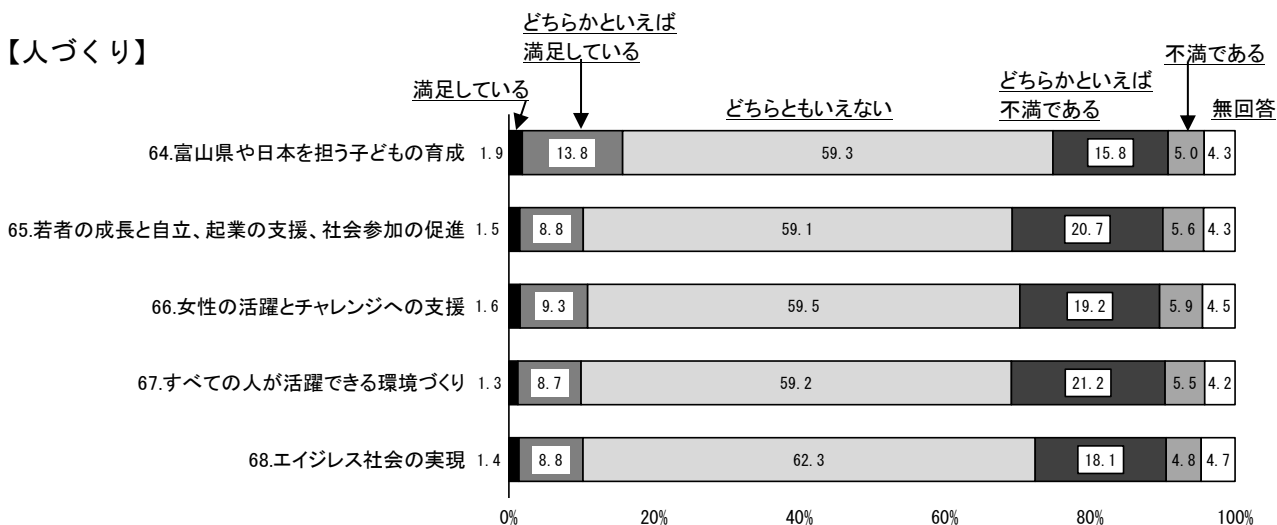
【未来とやま】



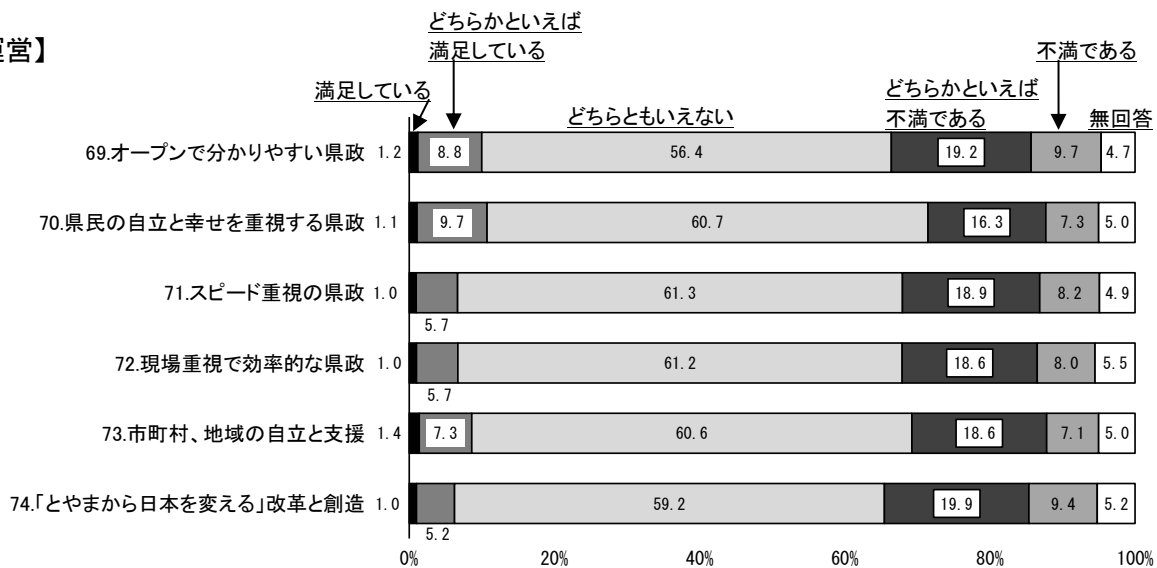
【安心とやま】



【人づくり】



【県政運営】



(2) 属性別にみる政策の満足度

ア 政策の満足度

(ア) 性別

- 男性は「14 北陸新幹線の整備促進」が48.1% (1位)、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が25.7% (4位)と女性と比べて高くなっている。女性は「50 食の安全確保と地産地消・食育の推進」が29.6% (3位)、「25 子育て支援」が28.8% (4位)、「32 芸術文化の振興」が26.0% (5位)と男性と比べて高くなっている。男女差は特に「25 子育て支援」で大きい。(図表6、7)
- 男性、女性ともに上位3項目は県平均(全体)と同じとなっているが、男性は「59 雪に強いまちづくり」が20.2% (10位)、女性は「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」が26.0% (5位)と県平均(全体)の上位10項目にないものが入っている。(図表7)

図表6 満足度(上位10項目)の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女-男)
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	46.0	48.1	44.2	▲ 3.9
2	安心	環境	54 水資源の保全と活用	30.2	30.2	30.2	0.0
3	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.1	26.4	29.6	3.2
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	24.6	19.7	28.8	9.1
5	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.5	25.7	23.6	▲ 2.1
6	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.4	23.3	25.3	2.0
7	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	24.2	22.0	26.0	4.0
8	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	24.0	24.1	23.9	▲ 0.2
9	未来	県民活動	33 スポーツの振興	23.9	23.5	24.3	0.9
10	安心	環境	52 自然環境の保全	23.4	22.8	23.9	1.1

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表7 男女別の政策の満足度(上位10項目)

順位	男性		順位	女性	
	項目	%		項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	48.1	1	14 北陸新幹線の整備促進	44.2
2	54 水資源の保全と活用	30.2	2	54 水資源の保全と活用	30.2
3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.4	3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.6
4	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.7	4	25 子育て支援	28.8
5	46 医療提供体制の充実	24.1	5	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	26.0
6	33 スポーツの振興	23.5		32 芸術文化の振興	26.0
7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.3	7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.3
8	52 自然環境の保全	22.8	8	33 スポーツの振興	24.3
9	32 芸術文化の振興	22.0	9	52 自然環境の保全	23.9
10	59 雪に強いまちづくり	20.2		46 医療提供体制の充実	23.9

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(イ) 年齢別

- すべての世代で「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が最も高くなっている。また、県平均（全体）の上位10項目すべてで「18、19歳」は数値がより高い。（図表8）
- 「18、19歳」は「52 自然環境の保全」が46.2%（2位）と他の年代に比べて高くなっている一方、県平均（全体）の上位10項目にないものが6項目と半数以上を占めており、中でも「53 生活環境の保全」は44.2%（3位）と高い。（以下、図表9）
- 「20～29歳」は県平均（全体）の上位10項目にない「13 水産業の振興」や「11 農業生産の振興」など4項目が入っている。
- 「30～39歳」は「50 食の安全確保と地産地消・食育の推進」が36.5%（2位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「40～49歳」は県平均（全体）の上位10項目にない、また他の年代にはない「23 富山のブランドカアアップ」が入っている。
- 「50～59歳」は「33 スポーツの振興」が24.5%で4位となっており、他の年代と比べて高くなっている。
- 「60～69歳」は「25 子育て支援」が28.3%（3位）、「32 芸術文化の振興」が25.4%（5位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「70歳以上」は「33 スポーツの振興」が30.8%（3位）、「46 医療体制の充実」が30.4%（4位）、「32 芸術文化の振興」が29.5%（5位）と他の年代と比べて高くなっている。

図表8 満足度（上位10項目）の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	46.0	51.9	49.7	42.6	47.1	46.3	45.0	44.3
2	安心	環境	54 水資源の保全と活用	30.2	44.2	31.7	26.1	26.1	30.7	31.5	33.3
3	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.1	44.2	33.3	36.5	22.2	26.4	25.7	26.2
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	24.6	32.7	16.4	23.5	23.7	24.2	28.3	27.0
5	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.5	32.7	29.5	21.3	25.2	23.3	23.5	24.1
6	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.4	26.9	25.1	25.2	26.1	24.2	23.8	21.1
7	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	24.2	26.9	22.4	20.4	22.5	23.9	25.4	29.5
8	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	24.0	30.8	23.0	23.5	18.2	23.9	25.1	30.4
9	未来	県民活動	33 スポーツの振興	23.9	26.9	19.7	20.9	21.6	24.5	24.8	30.8
10	安心	環境	52 自然環境の保全	23.4	46.2	21.3	23.9	18.8	23.3	23.2	26.2

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表9 年齢別の政策の満足度（上位10項目）

18、19歳			20～29歳			30～39歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	51.9	1	14 北陸新幹線の整備促進	49.7	1	14 北陸新幹線の整備促進	42.6
2	52 自然環境の保全	46.2	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	33.3	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	36.5
3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	44.2	3	54 水資源の保全と活用	31.7	3	54 水資源の保全と活用	26.1
	53 生活環境の保全	44.2	4	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.5	4	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.2
	54 水資源の保全と活用	44.2	5	13 水産業の振興	29.0	5	52 自然環境の保全	23.9
6	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	36.5	6	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.1	6	25 子育て支援	23.5
	59 雪に強いまちづくり	36.5	7	11 農業生産の振興	23.5		26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.5
8	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	34.6	7	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	23.5		41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	23.5
	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	34.6		44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	23.0		46 医療提供体制の充実	23.5
10	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	32.7	9	46 医療提供体制の充実	23.0	10	48 高齢者福祉の充実	22.2
	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	32.7						

40～49歳			50～59歳			60～69歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	47.1	1	14 北陸新幹線の整備促進	46.3	1	14 北陸新幹線の整備促進	45.0
2	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.1	2	54 水資源の保全と活用	30.7	2	54 水資源の保全と活用	31.5
	54 水資源の保全と活用	26.1	3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.4	3	25 子育て支援	28.3
4	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.2	4	33 スポーツの振興	24.5	4	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.7
5	25 子育て支援	23.7	5	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.2	5	32 芸術文化の振興	25.4
6	32 芸術文化の振興	22.5		25 子育て支援	24.2	6	46 医療提供体制の充実	25.1
7	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	22.2	7	46 医療提供体制の充実	23.9	7	33 スポーツの振興	24.8
8	33 スポーツの振興	21.6		32 芸術文化の振興	23.9	8	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.8
9	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	21.0	9	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	23.3	9	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	23.5
10	23 富山のブランド力アップ	19.8		52 自然環境の保全	23.3		59 雪に強いまちづくり	23.5

70歳以上		
順位	項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	44.3
2	54 水資源の保全と活用	33.3
3	33 スポーツの振興	30.8
4	46 医療提供体制の充実	30.4
5	32 芸術文化の振興	29.5
6	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	28.7
7	47 健康づくりと疾病対策の推進	27.9
8	25 子育て支援	27.0
9	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	26.2
	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.2
	52 自然環境の保全	26.2

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

(ウ) 地域別

- すべての地域で「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が最も高くなっている。(図表 10)
- 富山地域は「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が 29.6% (3 位)、「32 芸術文化の振興」が 25.6% (5 位) と他の地域と比べて高くなっている。(以下、図表 11)
- 高岡地域は上位 10 項目にないものが 4 項目と他の地域と比べて多くなっており、特に「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」が 26.0% (5 位) となっている。
- 魚津地域は「25 子育て支援」が 27.7% (4 位) と他の地域と比べて高くなっている。
- 砺波地域は「33 スポーツの振興」が 26.3% (2 位)、「16 利便性の高い道路ネットワークの整備」が 25.9% (3 位) と他の地域と比べて高くなっている。一方、県平均(全体)の上位 10 項目にないものが 4 項目となっており、特に「47 健康づくりと疾病対策の推進」が 24.4% (5 位) となっている。

図表 10 満足度(上位 10 項目)の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	46.0	51.6	37.2	49.4	43.9
2	安心	環境	54 水資源の保全と活用	30.2	31.1	29.5	32.7	25.4
3	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.1	26.8	31.7	28.9	22.4
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	24.6	21.7	26.8	27.7	23.4
5	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.5	29.6	18.5	27.4	18.5
6	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.4	23.1	24.2	26.4	25.9
7	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	24.2	25.6	24.4	23.3	20.5
8	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	24.0	25.0	25.6	21.4	21.0
9	未来	県民活動	33 スポーツの振興	23.9	21.9	24.8	25.2	26.3
10	安心	環境	52 自然環境の保全	23.4	23.1	23.6	26.4	19.0

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 11 地域別の政策の満足度(上位 10 項目)

順位	富山地域		順位	高岡地域		順位	魚津地域		順位	砺波地域	
	項目	%		項目	%		項目	%		項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	51.6	1	14 北陸新幹線の整備促進	37.2	1	14 北陸新幹線の整備促進	49.4	1	14 北陸新幹線の整備促進	43.9
2	54 水資源の保全と活用	31.1	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	31.7	2	54 水資源の保全と活用	32.7	2	33 スポーツの振興	26.3
3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.6	3	54 水資源の保全と活用	29.5	3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.9	3	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.9
4	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	26.8	4	25 子育て支援	26.8	4	25 子育て支援	27.7	4	54 水資源の保全と活用	25.4
5	32 芸術文化の振興	25.6	5	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	26.0	5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.4	5	47 健康づくりと疾病対策の推進	24.4
6	46 医療提供体制の充実	25.0	6	46 医療提供体制の充実	25.6	6	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.4	6	25 子育て支援	23.4
7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.1	7	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	25.0		52 自然環境の保全	26.4	7	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	22.4
8	52 自然環境の保全	23.1	8	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	24.8	8	59 雪に強いまちづくり	26.1	8	59 雪に強いまちづくり	22.0
9	33 スポーツの振興	21.9	9	33 スポーツの振興	24.8	9	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	25.8	9	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	21.0
10	25 子育て支援	21.7	10	32 芸術文化の振興	24.4	10	33 スポーツの振興	25.2		46 医療提供体制の充実	21.0
				42 地域の個性を活かした景観づくり・まちづくり	24.4				60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	21.0	

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

イ 政策の不満足度

(ア) 性別

- 男性は上位 10 項目のすべてで数値が高い。また、男女ともに「21 中心市街地の賑わいの創出」の不満足度が最も高く、次いで「59 雪に強いまちづくり」の順となっており、上位 5 項目は同じとなっている。(図表 12、13)
- 男性では「69 オープンで分かりやすい県政」が 33.6% (7 位)、「43 農山漁村の活性化」が 33.4% (8 位)、女性では「1 景気対策」が 27.8% (9 位)、「58 地震防災対策の充実」が 26.7%と県平均(全体)にない項目が上位となっている。(図表 13)

図表 12 不満足度(上位 10 項目)の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女-男)
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	44.4	46.3	42.9	▲ 3.4
2	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	41.4	42.2	40.6	▲ 1.6
3	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.3	36.5	36.1	▲ 0.5
4	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.0	37.6	32.8	▲ 4.8
5	活力	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.8	35.1	32.6	▲ 2.5
6	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	30.8	33.2	28.8	▲ 4.4
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.8	31.7	28.1	▲ 3.6
8	県政運営	県政	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	29.3	33.9	25.3	▲ 8.6
9	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	29.3	29.9	28.7	▲ 1.2
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアアップ	29.1	32.9	25.8	▲ 7.1

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 13 男女別の政策の不満足度(上位 10 項目)

順位	男性		順位	女性	
	項目	%		項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	46.3	1	21 中心市街地の賑わいの創出	42.9
2	59 雪に強いまちづくり	42.2	2	59 雪に強いまちづくり	40.6
3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.6	3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.1
4	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.5	4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	32.8
5	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.1	5	19 選ばれ続ける観光地づくり	32.6
6	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	33.9	6	10 雇用の確保と人材の育成	28.8
7	69 オープンで分かりやすい県政	33.6	7	61 生活交通の確保	28.7
8	43 農山漁村の活性化	33.4	8	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	28.1
9	10 雇用の確保と人材の育成	33.2	9	1 景気対策	27.8
10	23 富山のブランドカアアップ	32.9	10	58 地震防災対策の充実	26.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(イ) 年齢別

- 「50～59 歳」は上位 10 項目のすべてで県平均（全体）より数値が高い。（図表 14）
- 「20～29 歳」、「70 歳以上」は「59 雪に強いまちづくり」、それらを除くすべての年代で「21 中心市街地の賑わいの創出」の不満度が最も高くなっている。（以下、図表 15）
- 「18、19 歳」は県平均（全体）の上位 10 項目にないものが 5 項目と半数を占めており、「66 女性の活躍とチャレンジへの支援」が 34.6%（2 位）、「69 オープンで分かりやすい県政」が 30.8%（3 位）、「35 若者の自立促進とチャレンジ支援」が 28.8%（5 位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「20～29 歳」は県平均（全体）の上位 10 項目にない「65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進」が 35.0%（3 位）、「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が 31.2%（5 位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「30～39 歳」は「19 選ばれ続ける観光地づくり」が 38.7%（4 位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「40～49 歳」は「1 景気対策」が 32.8%（6 位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「50～59 歳」は「61 生活交通の確保」が 34.1%（6 位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「60～69 歳」は「8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり」が 40.2%（2 位）、県平均（全体）の上位 10 項目にない「43 農山漁村の活性化」が 38.9%（4 位）と他の年代と比べて高くなっている。
- 「70 歳以上」は県平均（全体）の上位 10 項目にない「48 高齢者福祉の充実」が 27.0%（5 位）、「37 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が 26.2%（7 位）と他の年代と比べて高くなっている。

図表 14 不満度（上位 10 項目）の年齢比較

単位：％

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	44.4	40.4	37.7	47.4	45.6	47.2	47.6	38.0
2	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	41.4	19.2	44.3	39.6	45.3	45.4	38.3	38.8
3	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.3	28.8	29.0	39.1	36.2	38.7	39.2	33.8
4	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.0	28.8	28.4	38.7	33.4	39.6	40.2	27.0
5	活力	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.8	28.8	33.9	38.7	34.3	36.8	32.8	26.2
6	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	30.8	13.5	30.1	35.7	32.5	31.9	33.1	23.6
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.8	23.1	25.7	35.7	28.9	31.6	32.8	23.6
8	県政運営	県政	74 「とやまから日本を変える」改革と創造	29.3	30.8	31.2	31.7	24.9	30.7	27.3	20.3
9	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	29.3	15.4	26.8	30.0	30.4	34.1	28.9	25.7
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランド力アップ	29.1	26.9	30.1	31.7	30.7	31.0	29.9	20.3

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 15 年齢別の政策の不満度（上位 10 項目）

18、19歳			20～29歳			30～39歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	40.4	1	59 雪に強いまちづくり	44.3	1	21 中心市街地の賑わいの創出	47.4
2	66 女性の活躍とチャレンジへの支援	34.6	2	21 中心市街地の賑わいの創出	37.7	2	59 雪に強いまちづくり	39.6
3	69 オープンで分かりやすい県政	30.8	3	65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	35.0	3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.1
	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	30.8	4	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.9	4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	38.7
5	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	28.8	5	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	31.2		19 選ばれ続ける観光地づくり	38.7
	19 選ばれ続ける観光地づくり	28.8		74 「とよまから日本を変える」改革と創造	31.2	6	10 雇用の確保と人材の育成	35.7
	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	28.8	7 71 スピード重視の県政	30.6	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり		35.7	
	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	28.8	8	1 景気対策	30.1	8 69 オープンで分かりやすい県政	34.3	
	35 若者の自立促進とチャレンジ支援	28.8		10 雇用の確保と人材の育成	30.1	9	23 富山のブランドカアップ	31.7
10	29 大学教育・学術研究・科学技術の振興	26.9	23 富山のブランドカアップ	30.1	74 「とよまから日本を変える」改革と創造		31.7	

40～49歳			50～59歳			60～69歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	45.6	1	21 中心市街地の賑わいの創出	47.2	1	21 中心市街地の賑わいの創出	47.6
2	59 雪に強いまちづくり	45.3	2	59 雪に強いまちづくり	45.4	2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.2
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.2	3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	39.6	3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.2
4	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.3	4	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.7	4	43 農山漁村の活性化	38.9
5	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	33.4	5	19 選ばれ続ける観光地づくり	36.8	5	59 雪に強いまちづくり	38.3
6	1 景気対策	32.8	6	61 生活交通の確保	34.1	6	1 景気対策	33.8
7	10 雇用の確保と人材の育成	32.5	7	10 雇用の確保と人材の育成	31.9	7	10 雇用の確保と人材の育成	33.1
	69 オープンで分かりやすい県政	32.5		69 オープンで分かりやすい県政	31.9	8	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	32.8
9	23 富山のブランドカアップ	30.7	9	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	31.6		19 選ばれ続ける観光地づくり	32.8
	71 スピード重視の県政	30.7	10	23 富山のブランドカアップ	31.0	10	6 中小企業の振興	31.8

70歳以上		
順位	項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	38.8
2	21 中心市街地の賑わいの創出	38.0
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	33.8
4	43 農山漁村の活性化	27.9
5	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	27.0
	48 高齢者福祉の充実	27.0
7	19 選ばれ続ける観光地づくり	26.2
	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	26.2
9	58 地震防災対策の充実	25.7
	61 生活交通の確保	25.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(ウ) 地域別

- 上位 10 項目のほぼすべてで、数値は富山、高岡地域で高く、魚津地域で低くなっている。
(図表 16)
- 高岡地域を除くすべての地域で「21 中心市街地の賑わいの創出」の不満度が最も高くなっているが、割合では高岡地域が最も高くなっている。(以下、図表 17)
- 富山地域は「20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」が 36.3% (3 位)、「19 選ばれ続ける観光地づくり」が 34.3% (5 位) と他の地域と比べて高くなっている。
- 高岡地域は「59 雪に強いまちづくり」が 51.4% (1 位)、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が 39.4% (3 位) と他の地域と比べて高くなっている。
- 魚津地域は県平均(全体)の上位 10 項目にない「43 農山漁村の活性化」が 28.9% (7 位) と他の地域と比べて高くなっている。
- 砺波地域は県平均(全体)の上位 10 項目にない「6 中小企業の振興」が 29.8% (8 位) と他の地域と比べて高くなっている。

図表 16 不満度(上位 10 項目)の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	44.4	45.3	49.4	36.8	41.5
2	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	41.4	39.1	51.4	32.7	38.1
3	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.3	36.3	39.2	33.3	33.7
4	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.0	35.2	36.2	32.7	35.1
5	活力	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.8	34.3	33.5	33.7	32.7
6	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	30.8	30.9	32.7	29.6	27.8
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.8	23.6	39.4	27.4	30.2
8	県政運営	県政	74 「とやまから日本を変える」改革と創造	29.3	30.2	29.5	27.1	29.8
9	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	29.3	30.2	32.3	25.8	24.4
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	29.1	31.4	25.8	28.3	30.7

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 17 地域別の政策の不満度(上位 10 項目)

順位	富山地域		順位	高岡地域		順位	魚津地域		順位	砺波地域	
	項目	%		項目	%		項目	%		項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	45.3	1	59 雪に強いまちづくり	51.4	1	21 中心市街地の賑わいの創出	36.8	1	21 中心市街地の賑わいの創出	41.5
2	59 雪に強いまちづくり	39.1	2	21 中心市街地の賑わいの創出	49.4	2	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.7	2	59 雪に強いまちづくり	38.1
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.3	3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	39.4	3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	33.3	3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.1
4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.2	4	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.2	4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	32.7	4	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	33.7
5	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.3	5	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	36.2		59 雪に強いまちづくり	32.7	5	19 選ばれ続ける観光地づくり	32.7
6	69 オープンで分かりやすい県政	32.0	6	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.5	6	10 雇用の確保と人材の育成	29.6	6	23 富山のブランドカアップ	30.7
7	23 富山のブランドカアップ	31.4	7	10 雇用の確保と人材の育成	32.7	7	43 農山漁村の活性化	28.9	7	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.2
8	10 雇用の確保と人材の育成	30.9	8	1 景気対策	32.3	8	23 富山のブランドカアップ	28.3	8	6 中小企業の振興	29.8
9	61 生活交通の確保	30.2		61 生活交通の確保	32.3	9	69 オープンで分かりやすい県政	28.0		74 「とやまから日本を変える」改革と創造	29.8
	71 スピード重視の県政	30.2	10	58 地震防災対策の充実	29.9	10	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.4	10	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	29.3

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

(3) 県政への要望[概要]

問2 問1の項目の1番～68番のうち(※69番～74番の〈県政運営〉は除きます)、いま、あなたがもっと力をいれてほしいと思っている県の政策はどれですか。5つ以内で選んでください。

- 県政への要望の上位をみると、「59 雪に強いまちづくり」が29.6%と最も高く、次いで「1 景気対策」17.2%、「48 高齢者福祉の充実」14.5%の順となっている。(図表18)
- 前回調査と比べ、「59 雪に強いまちづくり」が5位から1位と順位を上げている。また、前回調査にはなかった「64 富山県や日本を担う子どもの育成」が9位、「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が10位と上位に入っている。(図表18、19)

図表18 県政への要望(上位10項目)

単位：%

順位	区分	領域	項目	比率	前回調査(H29)
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.6	14.5 (5位)
2	活力	産業	1 景気対策	17.2	23.2 (1位)
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.5	17.9 (3位)
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	14.0	20.3 (2位)
5	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	12.4	10.6 (11位)
6	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	11.7	15.7 (4位)
7	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	11.3	12.1 (8位)
8	安心	安全・安心	58 地震防災対策の充実	10.4	10.1 (13位)
9	人づくり	人づくり	64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.1	—
10	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.5	—

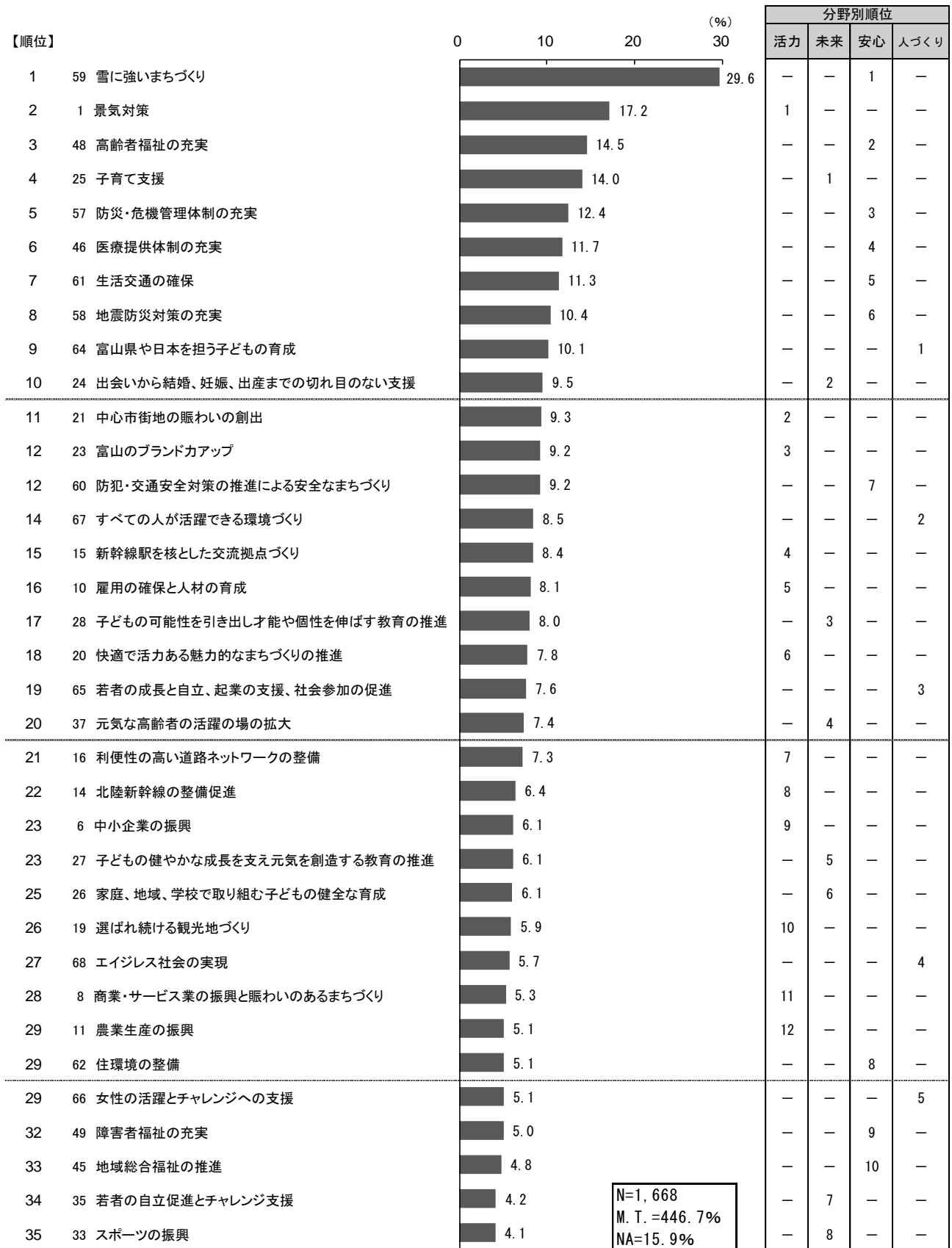
<時系列比較>

図表19 県政への要望(上位5項目の時系列比較)

単位：%

順位	H26	H27	H28	H29	H30
1	景気対策 28.5	景気対策 25.5	景気対策 25.2	景気対策 23.2	雪に強いまちづくり 29.6
2	子育て支援 21.3	子育て支援 21.1	子育て支援 19.2	子育て支援 20.3	景気対策 17.2
3	高齢者福祉の充実 20.6	高齢者福祉の充実 17.7	高齢者福祉の充実 18.9	高齢者福祉の充実 17.9	高齢者福祉の充実 14.5
4	医療提供体制の充実 16.3	雪に強いまちづくり 16.4	オープンでわかりやすい県政 16.4	医療提供体制の充実 15.7	子育て支援 14.0
5	雪に強いまちづくり 14.2	医療提供体制の充実 14.3	雪に強いまちづくり 15.8	雪に強いまちづくり 14.5	防災・危機管理体制の充実 12.4

図表 20 県政への要望



【順位】		0	10	20	30	分野別順位			
						活力	未来	安心	人づくり
36	43 農山漁村の活性化	■	4.0	—	9	—	—	—	
37	47 健康づくりと疾病対策の推進	■	3.5	—	—	11	—	—	
38	63 消費生活の安全の確保	■	3.4	—	—	12	—	—	
39	2 新たな成長産業の育成	■	3.2	13	—	—	—	—	
39	5 企業立地の促進	■	3.2	13	—	—	—	—	
41	40 交流人口の拡大、定住・半定住の促進	■	3.0	—	10	—	—	—	
42	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	■	2.9	—	—	13	—	—	
43	29 大学教育・学術研究・科学技術の振興	■	2.8	—	11	—	—	—	
43	30 生涯をととした学びの推進	■	2.8	—	11	—	—	—	
45	55 多様化、効率化を通じたエネルギー需給の安定確保	■	2.8	—	—	14	—	—	
46	32 芸術文化の振興	■	2.5	—	13	—	—	—	
46	38 人権を尊重し心がふれあう地域社会の形成	■	2.5	—	13	—	—	—	
48	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	■	2.5	—	15	—	—	—	
49	42 地域の個性を活かした景観づくり・まち並みづくり	■	2.3	—	16	—	—	—	
50	22 国際観光の推進	■	2.2	15	—	—	—	—	
50	52 自然環境の保全	■	2.2	—	—	15	—	—	
50	53 生活環境の保全	■	2.2	—	—	15	—	—	
53	4 未来を拓く起業チャレンジへの支援	■	2.2	16	—	—	—	—	
54	17 空港・港湾の充実など交流・物流ネットワークの形成	■	2.0	17	—	—	—	—	
55	12 森林の整備と林業の振興	■	1.7	18	—	—	—	—	
55	54 水資源の保全と活用	■	1.7	—	—	17	—	—	
57	31 ふるさとを学び楽しむ環境づくり	■	1.5	—	17	—	—	—	
57	36 男女共同参画の推進	■	1.5	—	17	—	—	—	
57	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	■	1.5	—	17	—	—	—	
60	3 産学官連携によるものづくり産業の振興	■	1.4	19	—	—	—	—	
61	9 環日本海・アジアなど海外ビジネス展開の促進	■	1.3	20	—	—	—	—	
61	18 情報通信基盤の充実と活用	■	1.3	20	—	—	—	—	
63	13 水産業の振興	■	1.0	22	—	—	—	—	
64	51 循環型社会と低炭素社会づくりの推進	■	1.0	—	—	18	—	—	
65	39 国際社会における地域づくり・人づくり	■	0.8	—	20	—	—	—	
66	7 デザインの振興と活用	■	0.7	23	—	—	—	—	
66	34 社会貢献活動の推進	■	0.7	—	21	—	—	—	
66	56 県土保全の推進	■	0.7	—	—	19	—	—	

(4) 属性別にみる県政への要望

ア 性別

- 男女ともに「59 雪に強いまちづくり」が最も要望が高く、次いで「1 景気対策」の順となっている。(図表 21)
- 男性は「1 景気対策」が 18.4% (2 位)、「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」10.6% (6 位) が女性と比べて高くなっている。(以下、図表 22)
- 女性は「25 子育て支援」が 15.4% (3 位)、「46 医療提供体制の充実」が 12.7% (5 位)、「61 生活交通の確保」が 12.5% (7 位)、「64 富山県や日本を担う子どもの育成」が 11.3% (8 位) と男性と比べて高くなっている。

図表 21 県政への要望（上位 10 項目）の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女-男)
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.6	30.1	29.2	▲ 0.8
2	活力	産業	1 景気対策	17.2	18.4	16.1	▲ 2.3
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.5	13.6	15.3	1.7
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	14.0	12.3	15.4	3.1
5	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	12.4	12.1	12.7	0.7
6	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	11.7	10.5	12.7	2.2
7	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	11.3	10.0	12.5	2.5
8	安心	安全・安心	58 地震防災対策の充実	10.4	10.1	10.6	0.5
9	人づくり	人づくり	64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.1	8.8	11.3	2.5
10	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.5	10.6	8.6	▲ 2.0

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 22 男女別の県政への要望（上位 10 項目）

順位	男性		順位	女性	
	項目	%		項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	30.1	1	59 雪に強いまちづくり	29.2
2	1 景気対策	18.4	2	1 景気対策	16.1
3	48 高齢者福祉の充実	13.6	3	25 子育て支援	15.4
4	25 子育て支援	12.3	4	48 高齢者福祉の充実	15.3
5	57 防災・危機管理体制の充実	12.1	5	46 医療提供体制の充実	12.7
6	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.6		57 防災・危機管理体制の充実	12.7
7	46 医療提供体制の充実	10.5	7	61 生活交通の確保	12.5
8	23 富山のブランド力アップ	10.1	8	64 富山県や日本を担う子どもの育成	11.3
	58 地震防災対策の充実	10.1	9	58 地震防災対策の充実	10.6
10	61 生活交通の確保	10.0	10	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	9.8

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

イ 年齢別

- すべての年代で「59 雪に強いまちづくり」に対する要望が最も高くなっている。(図表 23)
- 「18、19 歳」は「65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進」が 19.2% (2 位)、「28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進」が 15.4% (3 位) など県平均(全体)の上位 10 項目にない項目が他の年代と比べて高くなっている。(以下、図表 24)
- 「20～29 歳」は「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が 15.9% (4 位)、県平均(全体)の上位 10 項目にない「23 富山のブランド力アップ」が 13.1% (5 位) と他の年代と比べて高くなっている。
- 「30～39 歳」は「25 子育て支援」が 25.2% (2 位)、「64 富山県や日本を担う子どもの育成」が 13.0% (4 位) と他の年代と比べて高くなっている。
- 「40～49 歳」は「60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」が 12.2% (5 位) など県平均(全体)の上位 10 項目にない項目が他の年代と比べて高くなっている。
- 「50～59 歳」は「61 生活交通の確保」が 18.4% (3 位)、「46 医療提供体制の充実」が 16.3% (5 位) と他の年代と比べて高くなっている。
- 「60～69 歳」は「57 防災・危機管理体制の充実」が 16.7% (3 位)、「37 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が 13.5% (5 位) と他の年代と比べて高くなっている。
- 「70 歳以上」は「48 高齢者福祉の充実」が 21.9% (2 位) と他の年代と比べて高くなっている。

図表 23 県政への要望(上位 10 項目)の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.6	25.0	33.9	27.8	29.5	36.2	26.7	24.1
2	活力	産業	1 景気対策	17.2	9.6	19.7	17.0	19.8	17.2	16.4	14.4
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.5	3.9	7.7	8.3	12.5	18.7	17.0	21.9
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	14.0	9.6	16.4	25.2	14.6	10.4	13.2	7.2
5	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	12.4	13.5	12.0	11.3	10.9	11.7	16.7	11.0
6	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	11.7	7.7	10.9	9.6	10.3	16.3	12.5	9.7
7	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	11.3	9.6	7.7	9.6	6.4	18.4	11.6	13.1
8	安心	安全・安心	58 地震防災対策の充実	10.4	5.8	8.2	9.1	9.4	11.0	13.5	10.6
9	人づくり	人づくり	64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.1	11.5	8.7	13.0	9.7	9.2	10.6	9.3
10	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.5	3.9	15.9	10.4	7.0	5.8	12.2	10.1

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 24 年齢別の県政への要望（上位 10 項目）

順位	18、19歳		順位	20～29歳		順位	30～39歳	
	項目	%		項目	%		項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	25.0	1	59 雪に強いまちづくり	33.9	1	59 雪に強いまちづくり	27.8
2	65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	19.2	2	1 景気対策	19.7	2	25 子育て支援	25.2
3	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	15.4	3	25 子育て支援	16.4	3	1 景気対策	17.0
4	57 防災・危機管理体制の充実	13.5	4	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	15.9	4	64 富山県や日本を担う子どもの育成	13.0
	66 女性の活躍とチャレンジへの支援	13.5	5	23 富山のブランドカアップ	13.1	5	23 富山のブランドカアップ	11.7
6	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	11.5	6	21 中心市街地の賑わいの創出	12.0	6	57 防災・危機管理体制の充実	11.3
	64 富山県や日本を担う子どもの育成	11.5		57 防災・危機管理体制の充実	12.0		67 すべての人が活躍できる環境づくり	11.3
	67 すべての人が活躍できる環境づくり	11.5		65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	12.0	8	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	10.9
9	1 景気対策	9.6	9	46 医療提供体制の充実	10.9		28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.9
	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	9.6	10	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	10.4	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.4	
	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	9.6						
	21 中心市街地の賑わいの創出	9.6						
	25 子育て支援	9.6						
	29 大学教育・学術研究・科学技術の振興	9.6						
	33 スポーツの振興	9.6						
	61 生活交通の確保	9.6						

順位	40～49歳		順位	50～59歳		順位	60～69歳	
	項目	%		項目	%		項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	29.5	1	59 雪に強いまちづくり	36.2	1	59 雪に強いまちづくり	26.7
2	1 景気対策	19.8	2	48 高齢者福祉の充実	18.7	2	48 高齢者福祉の充実	17.0
3	25 子育て支援	14.6	3	61 生活交通の確保	18.4	3	57 防災・危機管理体制の充実	16.7
4	48 高齢者福祉の充実	12.5	4	1 景気対策	17.2	4	1 景気対策	16.4
5	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	12.2	5	46 医療提供体制の充実	16.3	5	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	13.5
6	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.9	6	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	12.3		58 地震防災対策の充実	13.5
	57 防災・危機管理体制の充実	10.9	7	57 防災・危機管理体制の充実	11.7	7	25 子育て支援	13.2
8	46 医療提供体制の充実	10.3	8	58 地震防災対策の充実	11.0	8	46 医療提供体制の充実	12.5
9	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.0	9	25 子育て支援	10.4	9	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.2
10	21 中心市街地の賑わいの創出	9.7	10	23 富山のブランドカアップ	10.1	10	61 生活交通の確保	11.6
	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	9.7						
	64 富山県や日本を担う子どもの育成	9.7						

順位	70歳以上	
	項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	24.1
2	48 高齢者福祉の充実	21.9
3	1 景気対策	14.4
4	61 生活交通の確保	13.1
5	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	12.7
6	57 防災・危機管理体制の充実	11.0
7	58 地震防災対策の充実	10.6
8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.1
	67 すべての人が活躍できる環境づくり	10.1
10	46 医療提供体制の充実	9.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

ウ 地域別

- すべての地域で「59 雪に強いまちづくり」に対する要望が最も高くなっている。(図表 25)
- 富山地域は「48 高齢者福祉の充実」が 15.5% (3 位)、「61 生活交通の確保」が 13.3% (5 位) と他の地域と比べて高くなっている。(以下、図表 26)
- 高岡地域は「59 雪に強いまちづくり」が 38.0% (1 位)、「1 景気対策」が 19.9% (2 位) と他の地域と比べて高くなっている。
- 魚津地域は「46 医療提供体制の充実」が 14.5% (3 位)、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」が 11.0% (5 位) と他の地域と比べて高くなっている。
- 砺波地域は「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が 12.2% (6 位)、「64 富山県や日本を担う子どもの育成」が 11.7% (7 位) と他の地域と比べて高くなっている。

図表 25 県政への要望（上位 10 項目）の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	29.6	25.7	38.0	24.8	29.3
2	活力	産業	1 景気対策	17.2	16.7	19.9	15.7	14.2
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	14.5	15.5	14.6	12.6	14.2
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	14.0	14.4	15.2	10.7	14.6
5	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	12.4	11.9	14.6	9.4	13.2
6	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	11.7	12.1	9.6	14.5	11.2
7	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	11.3	13.3	10.8	9.4	9.3
8	安心	安全・安心	58 地震防災対策の充実	10.4	10.1	11.2	10.4	9.3
9	人づくり	人づくり	64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.1	9.3	10.8	9.8	11.7
10	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	9.5	9.2	10.0	7.9	12.2

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 26 地域別の県政への要望（上位 10 項目）

順位	富山地域		順位	高岡地域		順位	魚津地域		順位	砺波地域	
	項目	%		項目	%		項目	%		項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	25.7	1	59 雪に強いまちづくり	38.0	1	59 雪に強いまちづくり	24.8	1	59 雪に強いまちづくり	29.3
2	1 景気対策	16.7	2	1 景気対策	19.9	2	1 景気対策	15.7	2	25 子育て支援	14.6
3	48 高齢者福祉の充実	15.5	3	25 子育て支援	15.2	3	46 医療提供体制の充実	14.5	3	1 景気対策	14.2
4	25 子育て支援	14.4	4	48 高齢者福祉の充実	14.6	4	48 高齢者福祉の充実	12.6		48 高齢者福祉の充実	14.2
5	61 生活交通の確保	13.3	5	57 防災・危機管理体制の充実	14.6	5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	11.0	5	57 防災・危機管理体制の充実	13.2
6	46 医療提供体制の充実	12.1	6	58 地震防災対策の充実	11.2	6	25 子育て支援	10.7	6	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.2
7	57 防災・危機管理体制の充実	11.9	7	61 生活交通の確保	10.8	7	58 地震防災対策の充実	10.4	7	64 富山県や日本を担う子どもの育成	11.7
8	21 中心市街地の賑わいの創出	10.6		64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.8	8	23 富山のブランドカアップ	9.8	23 富山のブランドカアップ	11.2	
9	58 地震防災対策の充実	10.1	9	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.0		64 富山県や日本を担う子どもの育成	9.8	46 医療提供体制の充実	11.2	
	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	10.1	10	21 中心市街地の賑わいの創出	9.8	10	57 防災・危機管理体制の充実	9.4	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.2	
					60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり		9.4	65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	10.2		
						61 生活交通の確保	9.4				

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

2 個別施策に係る調査

(1) 自転車の活用について

<いま>

自転車は、子どもから高齢者まで幅広い県民が利用できる、環境にも優しい身近な交通手段である。サイクリングを通じた健康づくりや余暇の充実等、人々の行動を広げ、地域とのふれあいや仲間とのつながりを取り持つなど、その活用は観光振興や地域活性化にも繋がるものであり、近年、自転車を活用した取組みへの関心が高まっているところである。

国においては、環境、交通、健康増進、観光振興等の重要な課題に対処するため、自転車活用の推進に関する施策の充実を図ることとし、平成 29 年 5 月に「自転車活用推進法」が施行されるとともに平成 30 年 6 月には法の基本方針に即した「自転車活用推進計画」が策定され、今後、各種の施策が総合的かつ計画的に推進されることとなっている。

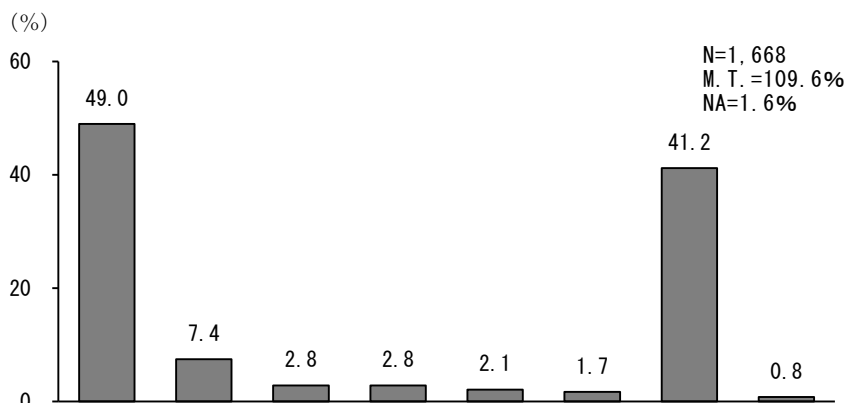
一方、本県では、これまで、富山湾や田園地域の美しい景観を楽しめる「富山湾岸サイクリングコース」や「田園サイクリングコース」等の整備や、コースを活用した「富山湾岸サイクリング」の開催など、自転車を活用した観光、地域振興の取組みのほか、市町村が行うパークアンドライド推進事業への支援を通じ、自転車を活用した地域公共交通活性化の取組みも積極的に展開してきたところである。

問3 あなたは、どんな自転車をお持ちですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

【 調査結果 】

- 所持する自転車の種類をみると、「一般車・シティサイクル（ママチャリなど）」が 49.0%と最も高く、次いで「折り畳み自転車・小径車」7.4%となっている。また、「持っていない」は 41.2%となっている。（以下、図表 27）
- 男女別にみると、すべての種類で男性のほうが自転車を所有する割合が高くなっている。また、女性は「持っていない」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19 歳」を除くすべての年代で「持っていない」が 4 割を超えている。一方、「18、19 歳」は「持っていない」が 3.9%、所持する自転車の種類は「一般車・シティサイクル（ママチャリなど）」が 9 割弱となっている。
- 地域別にみると、富山地域を除くすべての地域で「持っていない」が 4 割を超えている。

図表 27 所持する自転車の種類



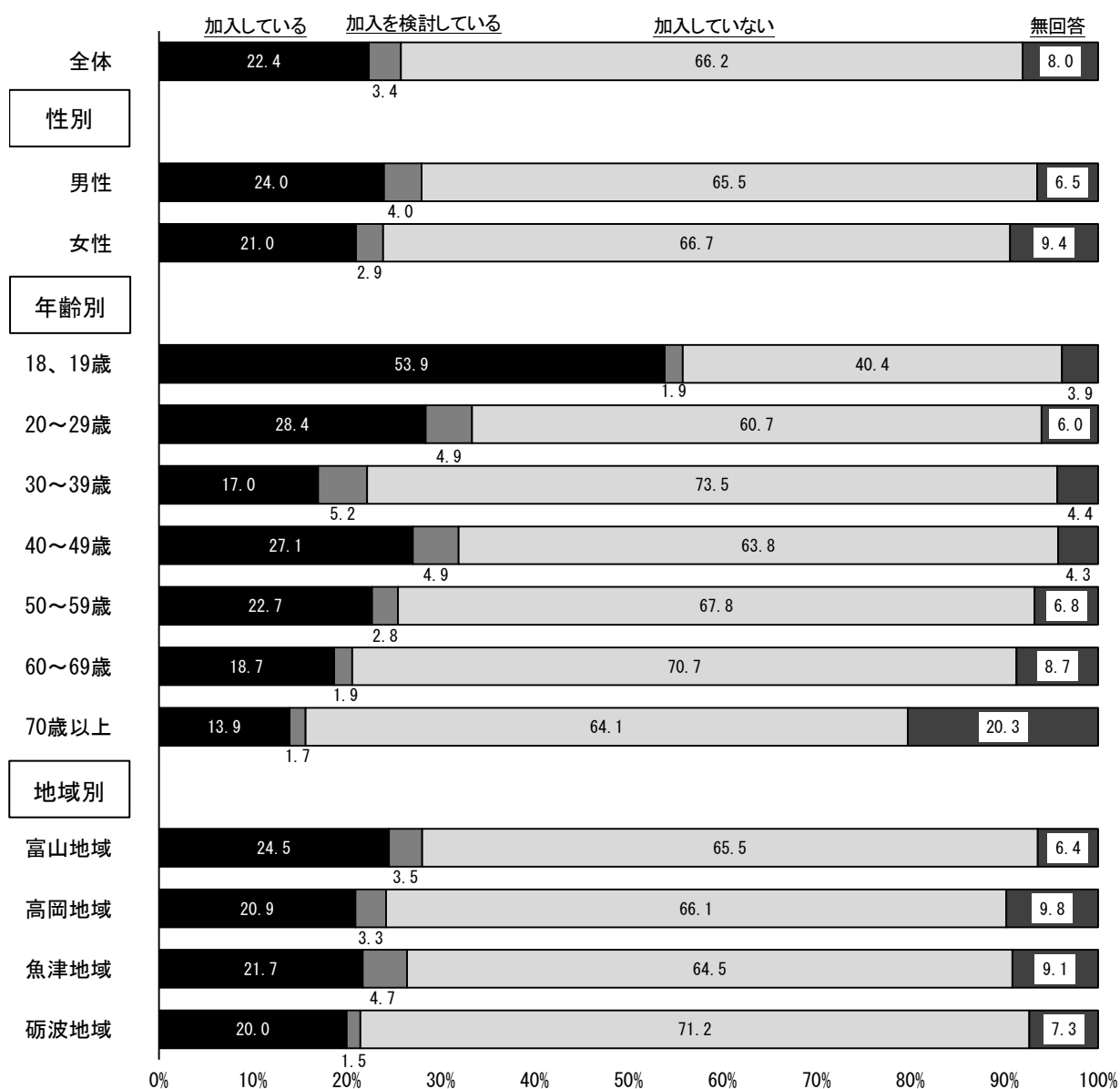
		一般車・シティサイクル (ママチャリなど)	折り畳み自転車・小径車	クロスバイク	ロードバイク	電動アシスト車	マウンテンバイク	持っていない	その他
性別	男性	51.3	9.7	4.8	4.7	2.3	3.0	36.7	1.3
	女性	47.0	5.5	1.1	1.2	1.9	0.6	45.1	0.3
年齢別	18、19歳	88.5	5.8	0.0	3.9	3.9	0.0	3.9	0.0
	20～29歳	46.5	5.5	3.3	4.4	2.7	0.6	41.0	1.6
	30～39歳	40.0	8.7	2.2	5.7	0.9	1.3	47.4	0.9
	40～49歳	49.2	10.6	4.0	2.1	1.2	3.0	40.1	1.2
	50～59歳	47.9	7.7	4.0	3.4	1.5	3.4	42.6	0.0
	60～69歳	51.8	7.1	2.3	1.6	3.2	0.3	40.5	0.6
70歳以上	48.5	3.8	1.3	0.4	3.0	0.8	43.9	0.8	
地域別	富山地域	54.1	7.7	3.2	3.1	1.7	1.7	36.6	0.8
	高岡地域	47.8	8.5	2.6	2.2	2.4	1.4	42.9	1.0
	魚津地域	41.2	7.6	3.1	3.1	2.2	2.5	45.3	0.9
	砺波地域	47.8	3.9	1.5	2.9	2.4	1.0	45.4	0.0

問4 あなたは、自転車を利用した際に発生した交通事故などによる損害を補償するための保険又は共済に加入していますか。

【 調査結果 】

- 保険又は共済の加入の有無についてみると、「加入していない」が6割半ばを占めている。(以下、図表28)
- 男女別にみると、男性は「加入している」、「加入を検討している」がともに女性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「加入している」は「18、19歳」が半数にのぼり、「30～39歳」が最も低くなっているが、年代が高くなるにつれ低い傾向がある。
- 地域別にみると、「加入している」は富山地域が最も高く、砺波地域が最も低くなっている。

図表28 保険又は共済への加入の有無

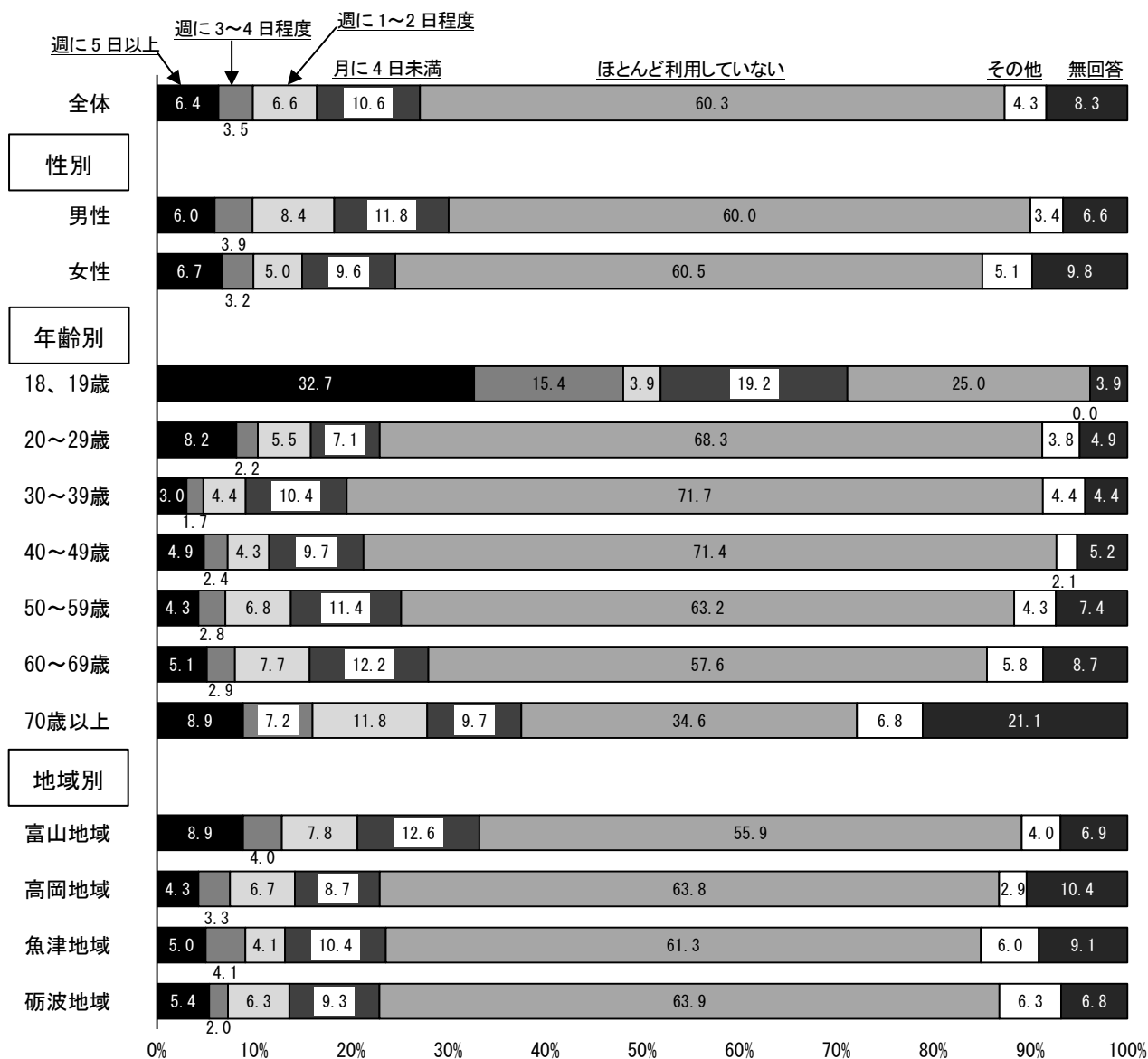


問5 あなたは、普段どのくらいの頻度で自転車を利用していますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

【調査結果】

- 自転車の利用頻度をみると、「ほとんど利用していない」が60.3%と最も高く、次いで「月に4日未満」10.6%、「週に1~2日程度」6.6%の順となっている。(以下、図表29)
- 男女別にみると、男性は自転車利用率(頻度に関わらず自転車を利用していると回答した割合)が女性と比べて高くなっているが、「週に5日以上」は女性の方が高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19歳」の自転車利用率が最も高くなっている。また、「30~39歳」から年代が高くなるにつれ、自転車利用率が高い傾向がある。
- 地域別にみると、自転車利用率は富山地域が最も高くなっている。

図表29 自転車の利用頻度

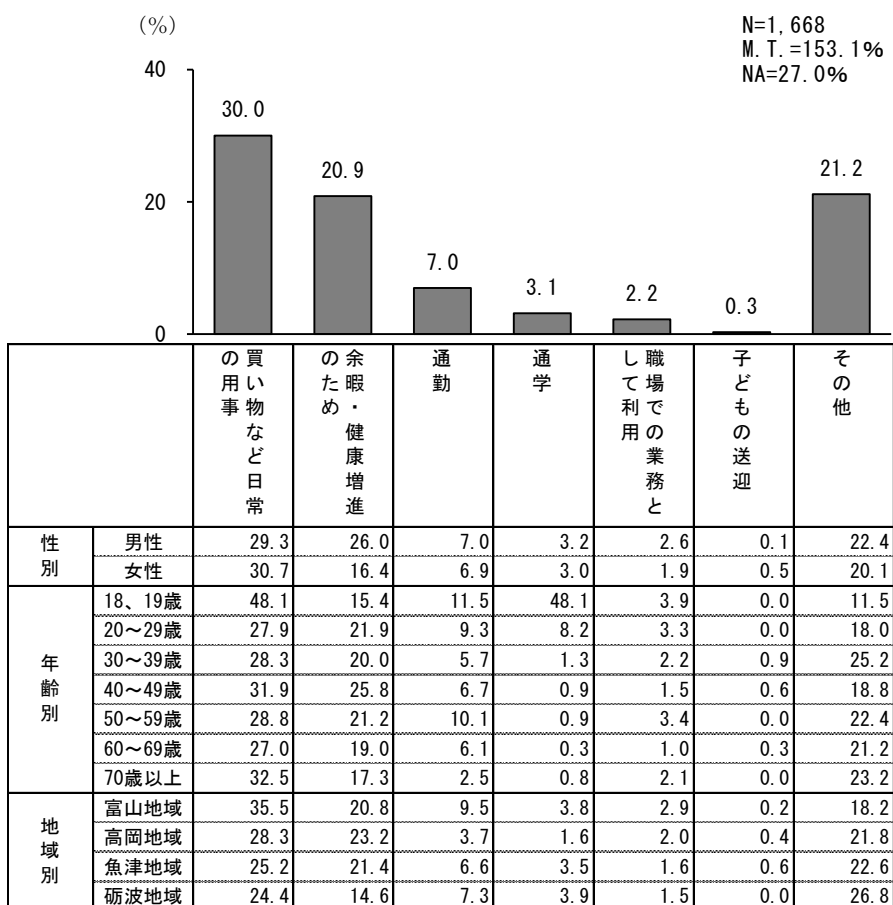


問6 あなたは、どのような目的で自転車を利用していますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

【 調査結果 】

- 自転車の利用目的をみると、「買い物など日常の用事」が 30.0%と最も高く、次いで「余暇・健康増進のため」20.9%、「通勤」7.0%の順となっている。(以下、図表 30)
- 男女別にみると、男性は「余暇・健康増進のため」が女性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「買い物など日常の用事」が最も高くなっており、「18、19歳」に次いで「70歳以上」、「40～49歳」の順となっている。
- 地域別にみると、富山地域は「買い物など日常の用事」、高岡地域は「余暇・健康増進のため」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 30 自転車の利用目的



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

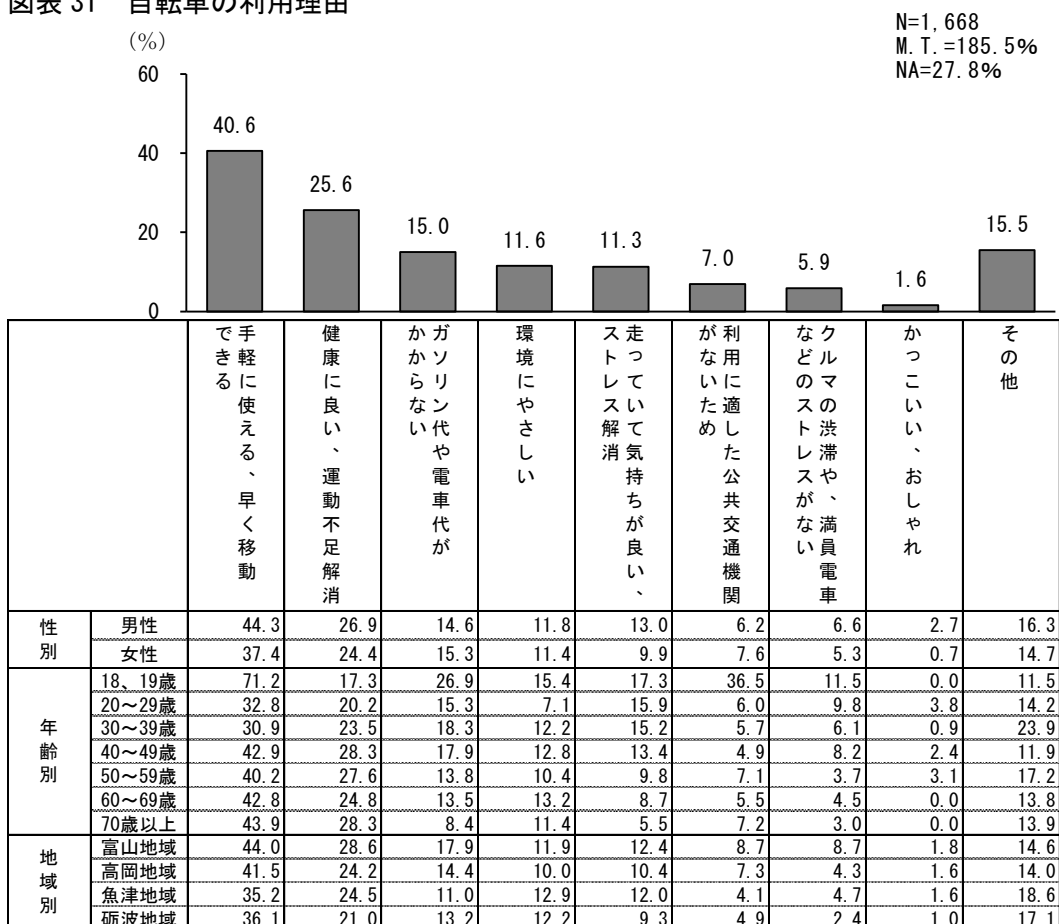
近所や地域（町村）内での用事（会合、配布物、行事等）（47）	
農作業での移動（20）	徒歩や自動車移動するのが不便な距離の移動（2）
子どもの学校行事に行くため。（6）	駐車スペースがない場所に行く時
自動車が利用できない時（2）	公共交通機関を利用する際の駅までの移手段（5）

問7 あなたは、どのような理由で自転車を利用していますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

【 調査結果 】

- 自転車の利用理由をみると、「手軽に使える、早く移動できる」が40.6%と最も高く、次いで「健康に良い、運動不足解消」25.6%、「ガソリン代や電車代がかからない」15.0%の順となっている。(以下、図表31)
- 年齢別にみると、すべての年代で「手軽に使える、早く移動できる」が最も高く、次いで「18、19歳」は「利用に適した公共交通機関がないため」、その他のすべての年代は「健康に良い、運動不足解消」の順となっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「手軽に使える、早く移動できる」が最も高く、次いで「健康に良い、運動不足解消」の順となっている。

図表31 自転車の利用理由



<その他意見 (主なもの)> (カッコ内の数字は同一意見の人数)

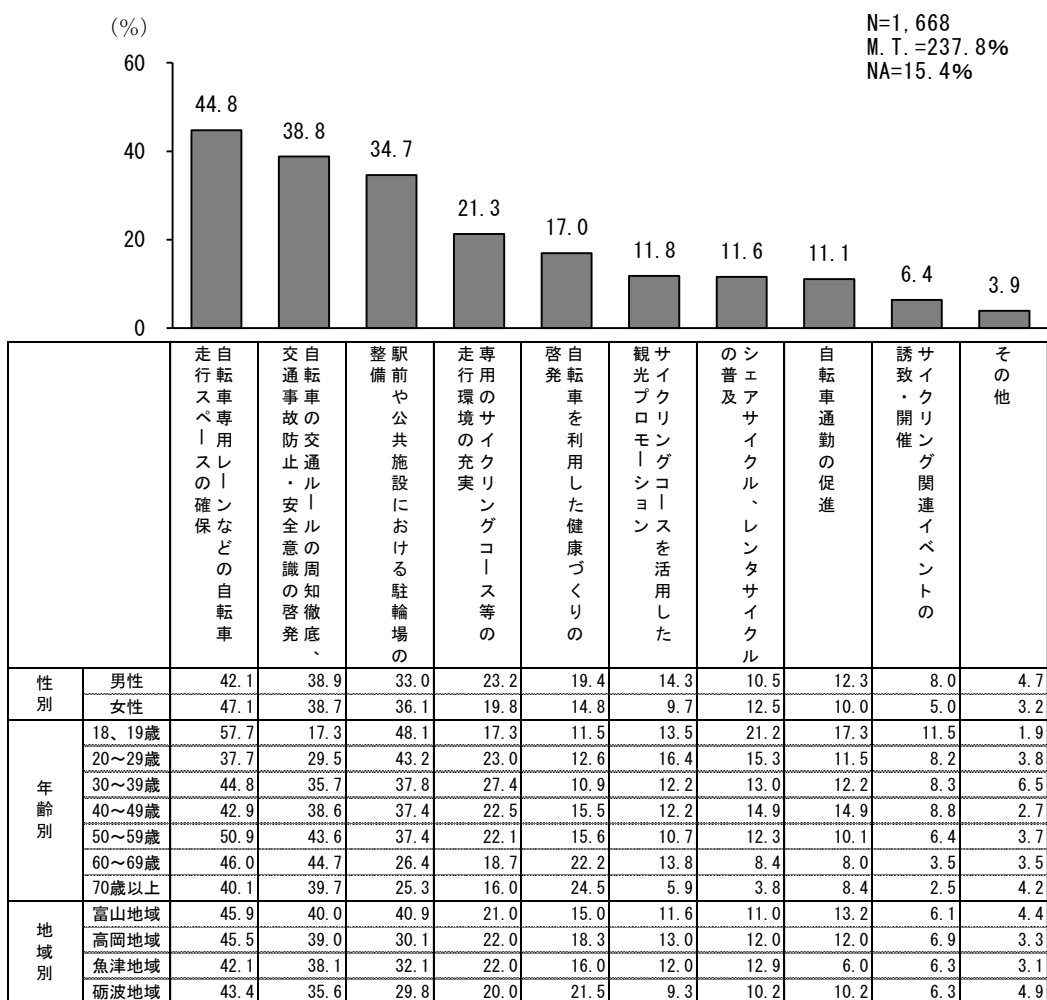
駐車スペースがない場所に行く時 (4)	自動車より小回りがきく。
自動車の運転ができない。(2)	学生だから。
自動車を持っていない(駐車場の確保等の理由で持てない)。(3)	
災害時に自転車が役にたった事例を知ったため。	夏場等は歩くと暑いから自転車で移動

問8 今後、自転車の活用を推進するために必要な行政の取組みとして当てはまると思うものを次の中から3つまで選んでください。

【 調査結果 】

- 自転車の活用を推進するために必要な行政の取組みをみると、「自転車専用レーンなどの自転車走行スペースの確保」が44.8%と最も高く、次いで「自転車の交通ルールへの周知徹底、交通事故防止・安全意識の啓発」38.8%、「駅前や公共施設における駐輪場の整備」34.7%の順となっている。これらに次いで、「専用のサイクリングコース等の走行環境の充実」や「自転車を利用した健康づくりの啓発」を求める回答もあった。(以下、図表 32)
- 男女別にみると、男性は「自転車を利用した健康づくりの啓発」、「サイクリングコースを活用した観光プロモーション」が女性と比べて高くなっており、女性は「自転車専用レーンなどの自転車走行スペースの確保」、「駅前や公共施設における駐輪場の整備」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「20～29 歳」を除くすべての年代で「自転車専用レーンなどの自転車走行スペースの確保」が最も高くなっている。一方、「20～29 歳」で最も高い「駅前や公共施設における駐輪場の整備」は、年代が高くなるにつれ低い傾向となっている。
- 地域別にみると、富山地域は「駅前や公共施設における駐輪場の整備」、砺波地域は「自転車を利用した健康づくりの啓発」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 32 自転車の活用を推進するために必要な行政の取組み



<その他意見（主なもの）>

「ながらスマホ」が危険と感じているので、禁止等の条例をつくってほしい。既に条例があるのなら、認知されていないので周知させる看板やテレビ等で知らせるようにしてほしい。
車道の脇の自転車専用レーンは恐くて乗れない。歩道に専用レーンがあると良い。
富山市内にあるレンタサイクルが活用されていないように感じるので、より使いやすくするか、それができないのであれば他の施策に税金を使ってほしい。
レンタサイクル利用料等の料金の値下げ
自転車割引
列車等に自転車を持ち込むことを可能にする（持ち込みやすくする）。
推進しなくてよい。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、どんな自転車を持っているかという問いに対し、「自転車を持っていない」と答えた人の割合が41.2%となった。また、普段どのくらいの頻度で自転車を利用しているかという問いに対し、「ほとんど利用していない」と答えた人の割合が60.3%にも上った。

なお、自転車の活用を推進するために必要な行政の取組みとして、どのようなものが当てはまるかとの問いに対し、「自転車専用レーンなどの自転車走行スペースの確保」が44.8%と最も高く、次いで「自転車の交通ルールの周知徹底、交通事故防止・安全意識の啓発」38.8%や「駅前や公共施設における駐輪場の整備」34.7%が挙げられた。

県では、自転車活用の推進に向けた取組みを検討するため、「富山県自転車活用推進検討委員会」を設置し、市町村や関係団体・事業者等の皆様のご意見を伺っているところであるが、今回の調査結果も踏まえ、今後、自転車活用の推進に向けた各種施策・事業を検討してまいりたい。

(2) 働き方改革について

<いま>

少子高齢化に伴い、生産年齢人口が減少するなか、社会が持続的に発展していくためには、誰もが意欲や能力に応じて活躍できる環境づくりを進めることが大変重要である。このため、国においては、平成 29 年 3 月に「働き方改革実行計画」が取りまとめられ、平成 30 年 7 月には残業時間の上限規制や年 5 日間の年次有給休暇の取得の義務付けなどを盛り込んだ働き方改革関連法が公布された。

本県においては、これまでも、特別保育や学童保育の充実を図るとともに、一般事業主行動計画の策定を義務付ける企業の範囲を、県条例で法律よりも大幅に拡大するなど、仕事と子育ての両立支援や働きやすい雇用環境の整備促進に取り組んできた。また、県民や企業等へ普及啓発を行う「働き方改革推進県民運動」を展開しているほか、平成 29 年 7 月に設立した「イクボス企業同盟とやま」の活動を通じ、企業経営者への働きかけや企業等の枠を超えたネットワーク構築の取組みを推進しているところである。

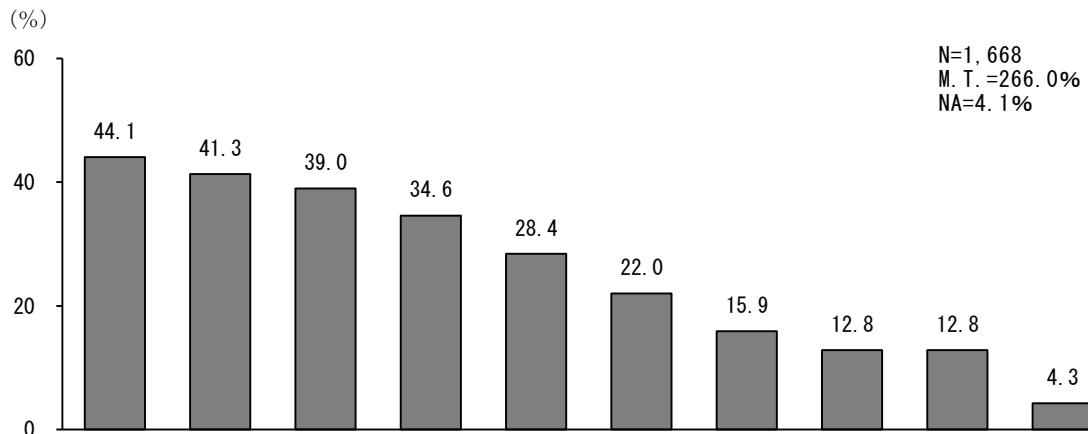
問 9 人口減少や少子高齢化の急速な進展により、労働力人口が減少する中、労働生産性の向上を図りながら、誰もが働きやすい職場環境づくりの推進が求められています。また、国では、時間外労働上限規制の導入などを盛り込んだ働き方改革関連法が成立しました。

あなたは、「働き方改革」を実現するためには、具体的にどのようなことに力を入れるべきだとお考えですか。次の中から3つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 「働き方改革」実現のために注力すべきことをみると、「休暇の取得促進（時間単位有給休暇の拡大、有給休暇取得促進など）」が 44.1%と最も高く、次いで「長時間労働の是正（時間外労働の縮減、勤務間インターバル制度の導入など）」41.3%、「職場の理解（休暇・休業を取得する際の上司や同僚の協力体制など）」39.0%の順となっている。（以下、図表 33）
- 男女別にみると、男性は「休暇の取得促進」、「長時間労働の是正」、「高齢者の就業促進（雇用推進、定年の引き上げなど）」が女性と比べて高くなっており、女性は「職場の理解」、「育児・介護支援（休暇・休業制度の充実、取得奨励など）」、「働く時間を選べる働き方（フレックス、短時間勤務など）」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、60 歳未満は「休暇の取得促進」が最も高く、60 歳以上は「高齢者の就業促進」が最も高くなっている。

図表 33 「働き方改革」実現のために注力すべきこと



		拡大、有給休暇取得促進(時間単位有給休暇の取得促進など)	長時間労働の是正(時間外労働の縮減、勤務間インターバル制度の導入など)	職場の理解(休暇・休業を取得する際の上司や同僚の協力体制など)	育児・介護支援(休暇・休業制度の充実、取得奨励など)	高齢者の就業促進(雇用推進、定年の引き上げなど)	働く時間を選べる働き方(フレックス、短時間勤務など)	仕事の進め方の見直し(業務プロセス改善、ITツール導入など)	働く場所を選べる働き方(在宅勤務、テレワークなど)	女性の活躍推進(女性管理職登用、再就職支援など)	その他
性別	男性	46.2	45.7	36.3	29.2	31.4	19.2	19.3	11.8	9.2	5.3
	女性	42.2	37.5	41.3	39.3	25.9	24.4	13.0	13.7	16.0	3.4
年齢別	18、19歳	53.9	51.9	42.3	44.2	13.5	19.2	13.5	5.8	23.1	0.0
	20～29歳	62.3	53.6	38.8	31.2	9.8	19.7	16.9	14.8	8.2	5.5
	30～39歳	50.0	40.4	43.0	29.1	16.1	27.8	17.8	18.3	10.4	7.8
	40～49歳	44.1	37.7	40.4	32.8	22.8	21.9	19.8	11.9	14.6	4.6
	50～59歳	46.6	43.6	41.4	29.8	31.0	22.7	15.6	10.7	13.2	4.6
	60～69歳	34.7	36.7	36.3	45.0	45.0	25.4	12.9	14.2	11.9	1.0
	70歳以上	30.8	38.4	32.5	35.9	40.5	13.5	12.7	10.1	14.8	4.2
地域別	富山地域	46.1	41.0	36.0	34.2	27.4	22.8	17.9	13.9	12.9	5.1
	高岡地域	43.1	43.5	39.8	36.2	30.9	19.9	14.6	12.2	11.2	3.9
	魚津地域	43.1	42.5	40.3	33.7	26.4	24.5	12.9	12.9	12.6	3.8
	砺波地域	41.5	35.1	44.4	33.7	28.8	20.5	17.1	10.7	17.1	3.4

<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

人材の確保、育成（10）
仕事の平準化
業務量の増減に対応できる体制づくり
契約社員と正社員の雇用比率を定める。
時間外労働の上限の設定
意識改革（3）
長期休暇の導入
男性の育児休暇取得
すべての事業所で週休2日制を導入
若者の就業支援（3）
賃金の底上げ（5）
小規模事業者の厚生年金加入
全国民を対象とした基礎的な生活保障
日本社会では正社員以外の働き方が軽視されているように思われる。少子高齢化で若い働き手が少ない今こそ正社員以外の働き方（パート、アルバイト、派遣、契約社員）でも安心して長く勤められ、老後を暮らせるようなシステムを作してほしい。
空調の完備
事業所への指導
休日や夜間でも対応してくれる相談所の開設
この改革がうまく進展するかが疑わしい。
「働き方改革」と言いだしてからもっと現場は大変になった。
やらされている感が強くなった。
改革なんていない。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、働き方改革の実現のために力を入れるべきこととして、「休暇の取得促進」、「長時間労働の是正」、「職場の理解」が上位となっていた。昨年調査では、「育児・介護支援」が1位となっていたが、「休暇の取得促進」、「長時間労働の是正」の項目が高くなっており、働き方改革関連法の成立などにより関心が高まっていることがうかがえる。

男女別では、「休暇の取得促進」と「職場の理解」は男女ともに上位になっているが、男性は「長時間労働の是正」の割合が45.7%で2位、女性は「育児・介護支援」が39.3%で3位となっており、男女で関心の高い項目に差が見られた。

長時間労働を前提とした従来型の労働慣行を見直し、男女がともに仕事と子育てや、今後増えると見込まれる介護との両立ができる職場環境を整備する必要があり、今回の調査結果を各種施策に反映させ、働き方改革の推進にさらに取り組んでまいりたい。

(3) 富山きときと空港の利用促進について

<いま>

富山きときと空港は北陸・飛騨・信越地域の空の玄関口として国内定期路線 2 都市間（東京、札幌）、国際定期路線 4 都市間（ソウル、大連、上海、台北）を運航している。

富山ー羽田便は、平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業後 1 日 6 往復から 4 往復の運航となり、平成 30 年 11 月からは全便が小型化となった。利用者は開業前と比べ半減し、厳しい状況が続いている。

しかしながら、富山ー羽田便は、富山きときと空港の基幹路線であり、本県と首都圏・全国・世界との交流、本県の未来創生を支える重要な交通基盤であることから、北陸・飛騨・信越地域への新たな旅客需要や羽田経由の国内外の乗継需要を取り込みながら、官民を挙げて富山ー羽田便の便数維持・利便性の向上に取り組んでいる。

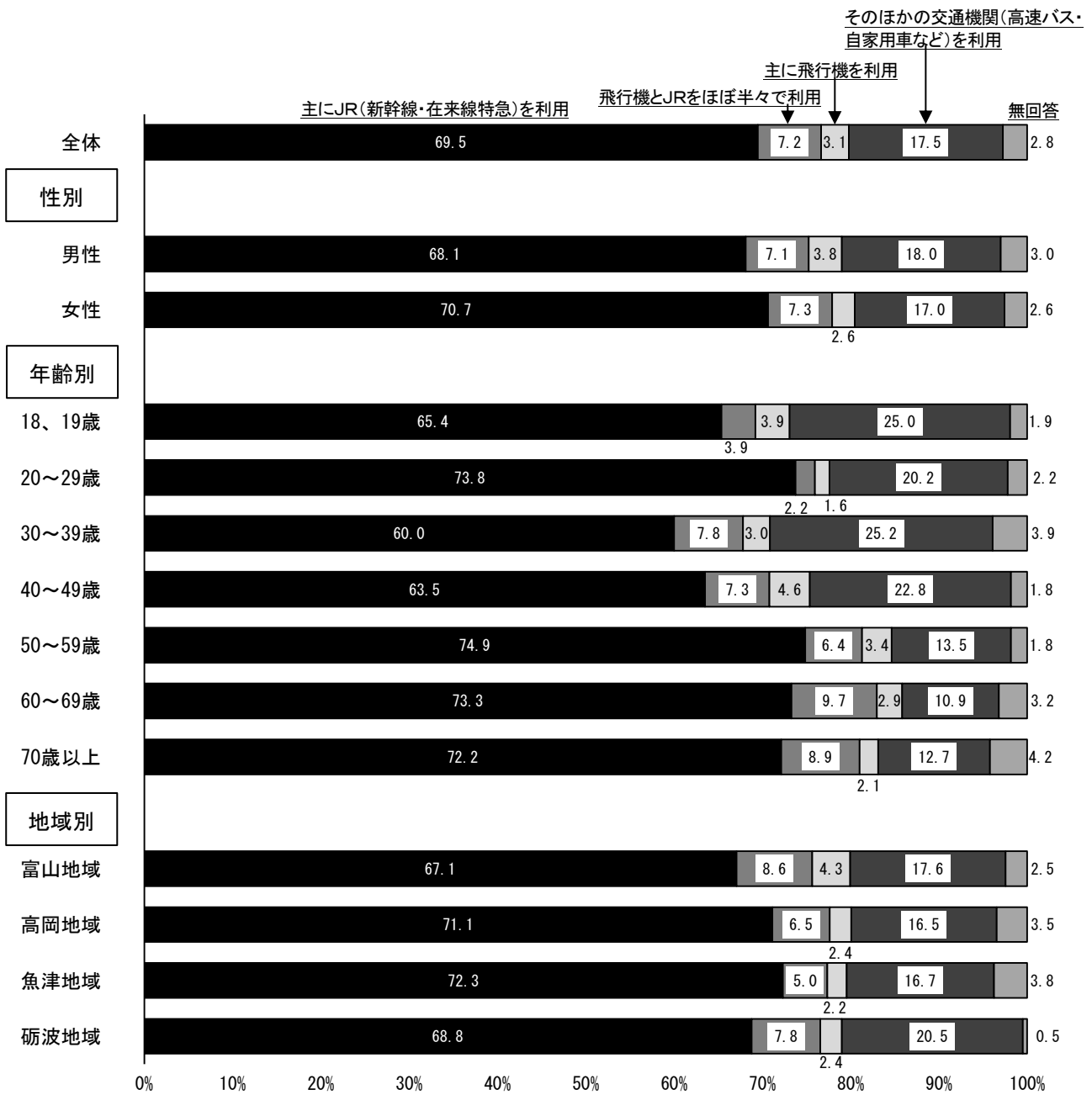
また、富山きときと空港の活性化のため、既存路線の拡充やチャーター便・新規路線の誘致など国内外の航空ネットワークの拡充に取り組むとともに、交通アクセスの改善を進めながら、インバウンドやアウトバウンド双方の利用拡大を図っている。

問 10 東京や首都圏方面に出かける場合の交通手段は何を利用されますか。当てはまるものに○をつけてください。

【 調査結果 】

- 東京や首都圏方面に出かける場合の交通手段をみると、「主に J R（新幹線・在来線特急）を利用」が 7 割弱を占めている。（以下、図表 34）
- 年齢別にみると、60 歳以上は「飛行機と J R をほぼ半々で利用」が他の年代と比べて高くなっており、「そのほかの交通機関（高速バス・自家用車など）を利用」が他の年代と比べて低くなっている。
- 地域別にみると、富山地域は『飛行機の利用』（「飛行機と J R をほぼ半々で利用」、「主に飛行機を利用」）が他の地域と比べて高くなっている。

図表 34 東京や首都圏方面に出かける場合の交通手段

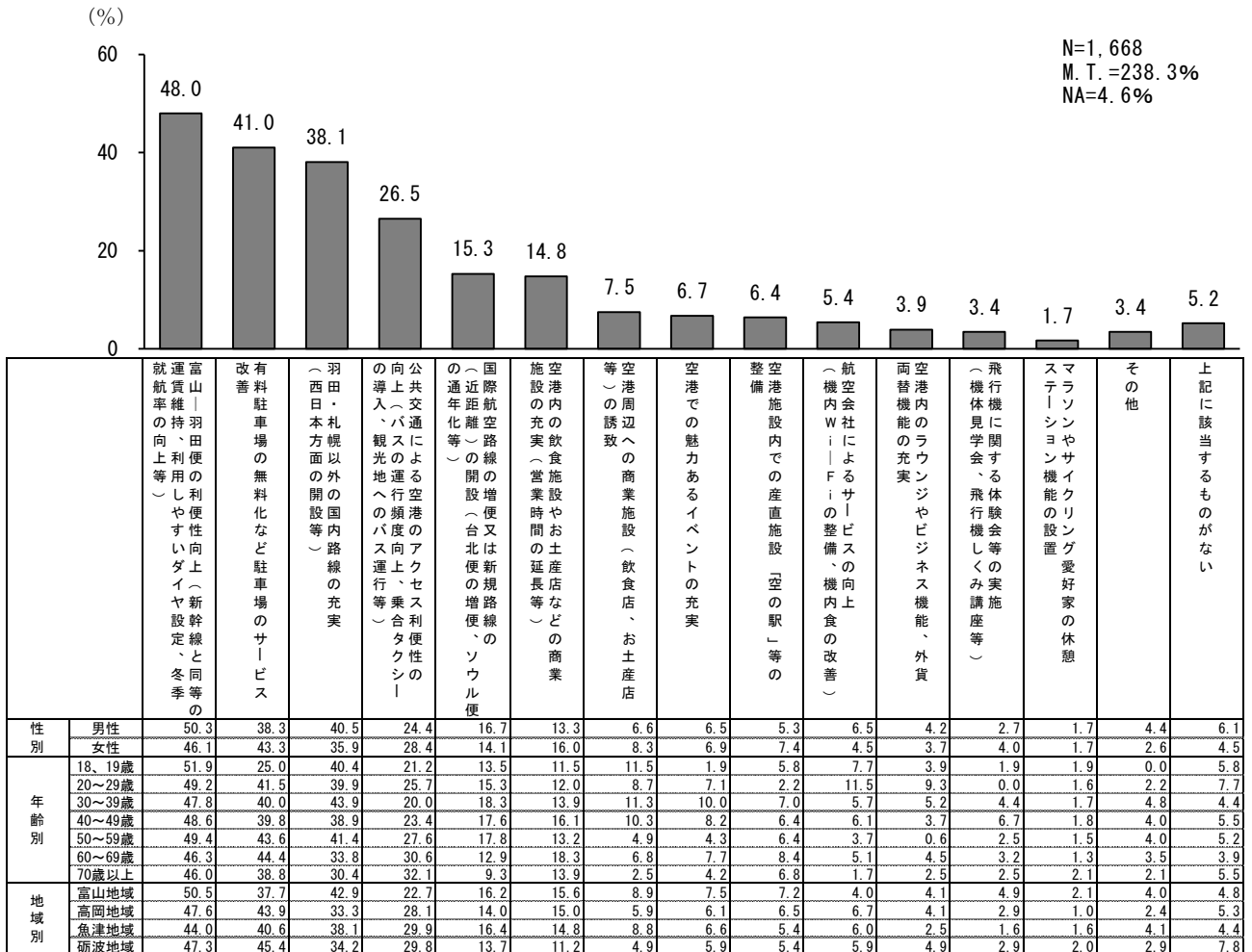


問 11 富山きときと空港の活性化のためには、「富山ー羽田便」をはじめ、空港の利用者を増やす必要がありますが、どのようなサービスがあれば富山きときと空港を利用しますか。（飛行機に乗る場合だけでなく、空港を来訪する場合も含まれます。）希望するサービスを3つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 富山きときと空港に希望するサービスについてみると、「富山ー羽田便の利便性向上（新幹線と同等の運賃維持、利用しやすいダイヤ設定、冬季就航率の向上等）」が 48.0%と最も高く、次いで「有料駐車場の無料化など駐車場のサービス改善」41.0%、「羽田・札幌以外の国内路線の充実（西日本方面の開設等）」38.1%の順となっている。（以下、図表 35）
- 男女別にみると、男性は「富山ー羽田便の利便性向上」、「羽田・札幌以外の国内路線の充実」が女性と比べて高くなっており、女性は「有料駐車場の無料化など駐車場のサービス改善」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「富山ー羽田便の利便性向上」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、富山地域は「羽田・札幌以外の国内路線の充実」、砺波地域は「有料駐車場の無料化など駐車場のサービス改善」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 35 富山きときと空港に希望するサービス



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

LCC（格安航空会社）の導入・推進（4）
料金の値下げ（11）
チケット購入手続きの簡素化
飲食施設の内容の質を上げる。
有料駐車場を多くする（長期駐車が多い）。
空港に関係のない駐車が多いことの改善
欠便を減らすための整備（2）
遅延便の解消
新幹線と飛行機の共存は難しいと思う。
シーズンに応じた路線開設
乗り継ぎ便の充実
周知が足りない、もっと知ってもらうことが大事

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、東京や首都圏に出かける場合の交通手段について、主に飛行機を利用する方の割合が3.1%で、昨年の調査結果に比べて1%低下している。

空港利用を増やすためのサービスについては「富山ー羽田便の利便性向上」、「有料駐車場の無料化など駐車場のサービス改善」、「羽田・札幌以外の国内路線の充実」、「公共交通による空港のアクセス利便性の向上」を求める声が多く、飛行機利用者の利便性向上、新規路線開拓などによる航空ネットワークの充実が求められている。

また、「18、19歳」と「30～39歳」で「その他の交通機関（高速バス・自家用車など）を利用」の割合が高く、今回の調査結果を踏まえ、これらの年代に対する飛行機を利用してもらう取組みや、若年者や高齢者を中心とした、自家用車による利用者以外に対して公共交通による空港のアクセス利便性向上、隣接地域への交通アクセスの改善など、各種施策に反映させ、富山きときと空港の活性化に取り組んでまいりたい。

(4) 富山県ホームページ等について

<いま>

オープンな県政の推進にあたり、富山県ホームページは情報発信の中核である。しかし、平成 17 年度に大幅なリニューアルを実施して以来、毎年、軽微な改修を続けて現在に至っているが、構築から数年が経過し、情報通信技術の急速な進展や利用者ニーズの多様化を受け、県民はもとより有識者や専門家からも次のような指摘がある。

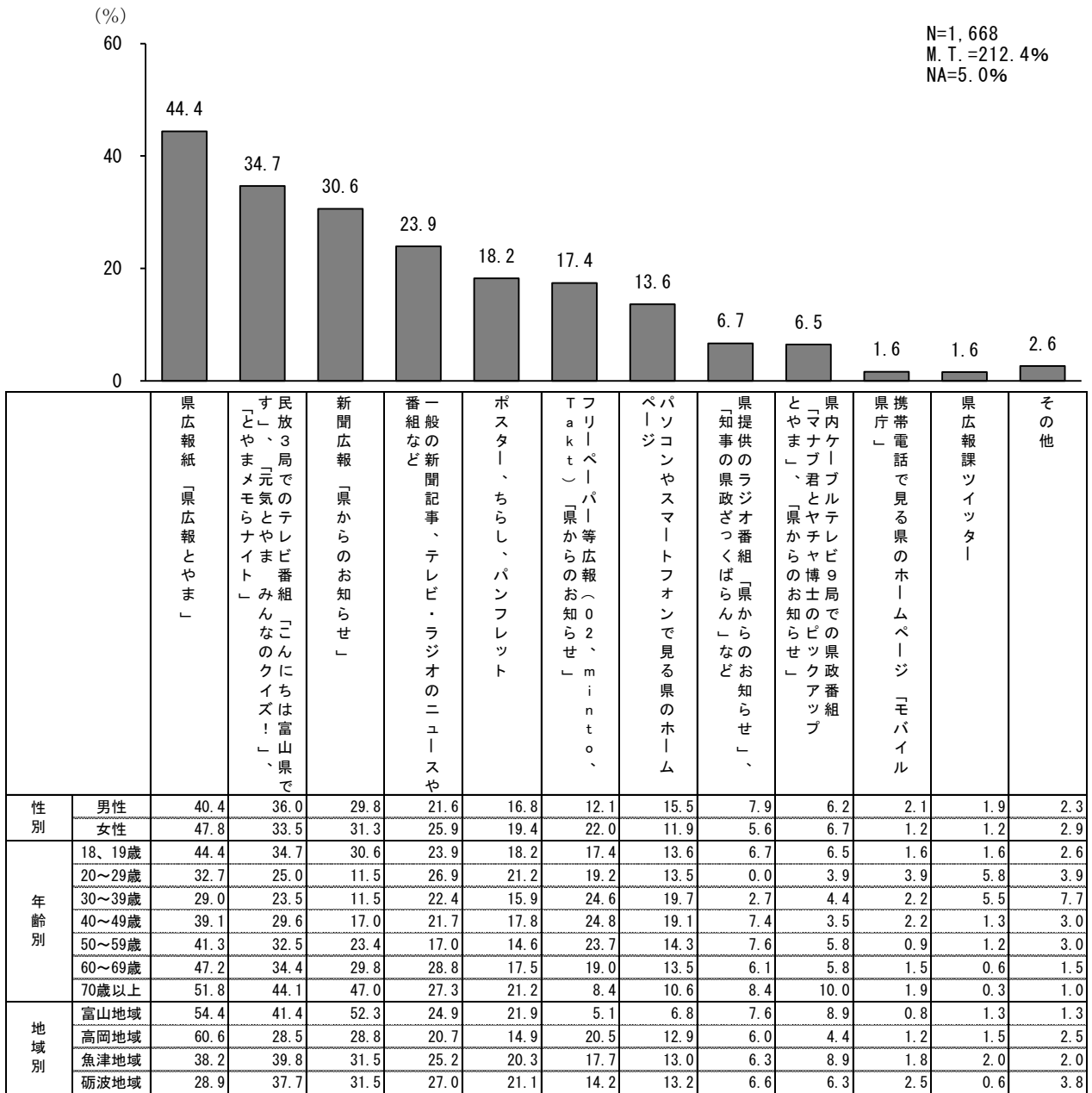
- ① デザインのアピール力に乏しく、県の魅力を発信しきれていない
- ② タブレットやスマートフォンなどのモバイル端末に対応していない
- ③ 災害情報サイトとの連携が不十分
- ④ 外国語の情報が不十分
- ⑤ アクセシビリティ（障害者や高齢者が情報通信技術を利用しやすいこと）の対応が不十分

問 12 富山県の動きや県が行っている施策、お知らせなどの情報を何から得ることが多いですか。
次の中から該当するものをいくつでも選んでください。

【 調査結果 】

- 富山県が行う施策やお知らせ等の情報の入手方法をみると、「県広報紙『県広報とやま』」が 44.4%と最も高く、次いで「民放3局でのテレビ番組『こんにちは富山県です』、『元気とやまみんなのクイズ!』、『とやまメモロナイト』」34.7%、「新聞広報『県からのお知らせ』」30.6%の順となっている。（以下、図表 36）
- 男女別にみると、女性は「県広報紙」、「一般の新聞記事、テレビ・ラジオのニュースや番組など」、「フリーペーパー等広報（02、minto、Takt）『県からのお知らせ』」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「県広報紙」が最も高くなっている。「新聞広報『県からのお知らせ』」は年代が高くなるにつれ高くなる傾向になっているが、「18、19 歳」が 30.6%と「70 歳以上」の 47.0%に次いで高くなっている。
- 地域別にみると、富山地域、高岡地域は「県広報紙」が、魚津地域、砺波地域は「民放3局でのテレビ番組」が最も高くなっている。

図表 36 富山県が行う施策やお知らせ等の情報の入手方法



<その他意見(主なもの)> (カッコ内の数字は同一意見の人数)

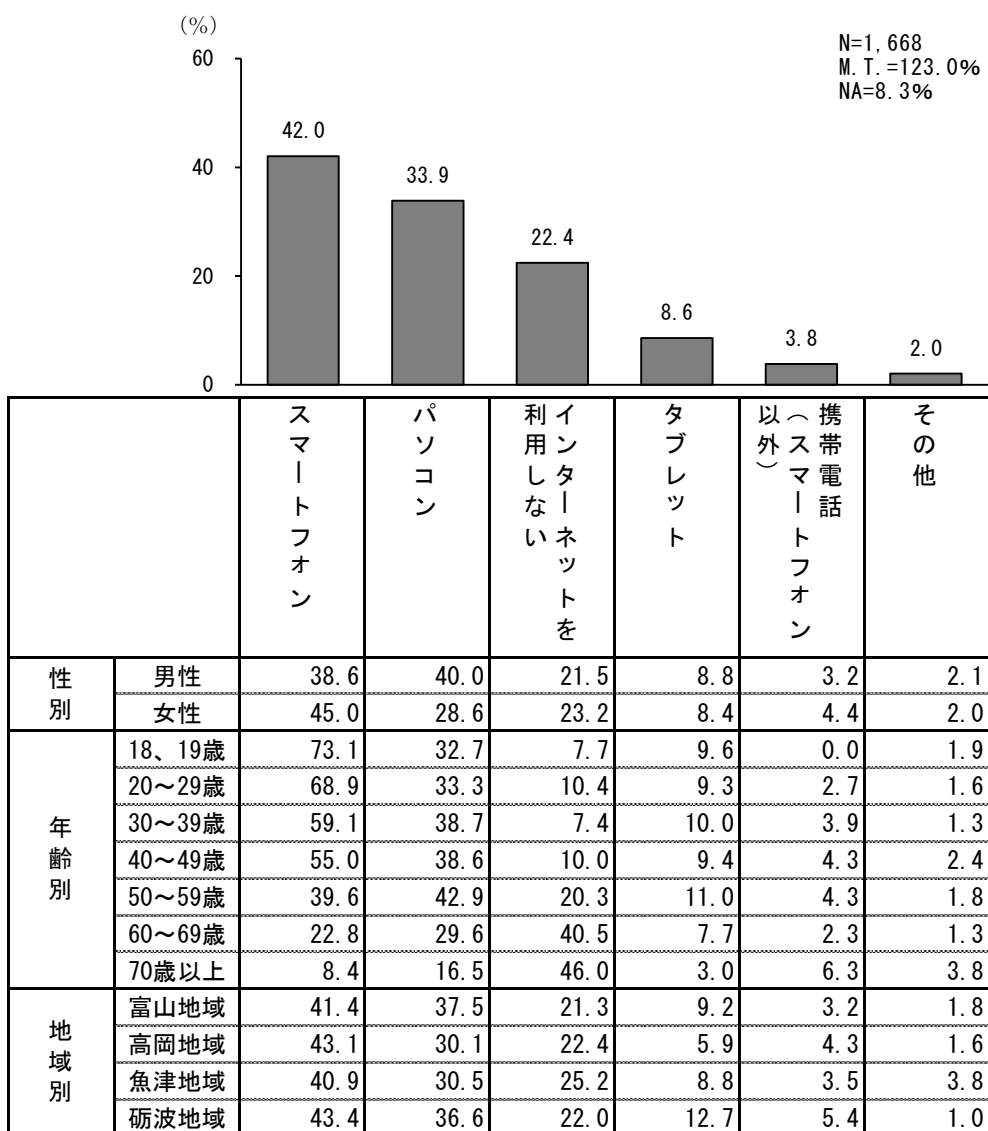
ネット記事や知人との情報交換 (4)
全く情報が得られていません。県政運営は実行しているのか、全く実感できません。
情報を得た事がない。
県が何をしているのかわからない。
見たことがない。(11)
特になし。(6)
関心がない。(3)

問 13-1 富山県のホームページを見る場合は、主に何でご覧になりたいですか。次の中から該当するものをいくつでも選んでください。

【 調査結果 】

- 富山県ホームページの閲覧方法をみると、「スマートフォン」が42.0%と最も多く、次いで「パソコン」33.9%、「インターネットを利用しない」22.4%の順となっている。(以下、図表 37)
- 男女別にみると、男性は「パソコン」が女性と比べて多くなっており、女性は「スマートフォン」が男性と比べて多くなっている。
- 年齢別にみると、「スマートフォン」は年齢が高くなるにつれ少なくなる傾向となっており、60歳以上は「インターネットを利用しない」が4割を超えている。
- 地域別にみると、砺波地域は「タブレット」が他の地域と比べて多くなっている。

図表 37 富山県ホームページの閲覧方法

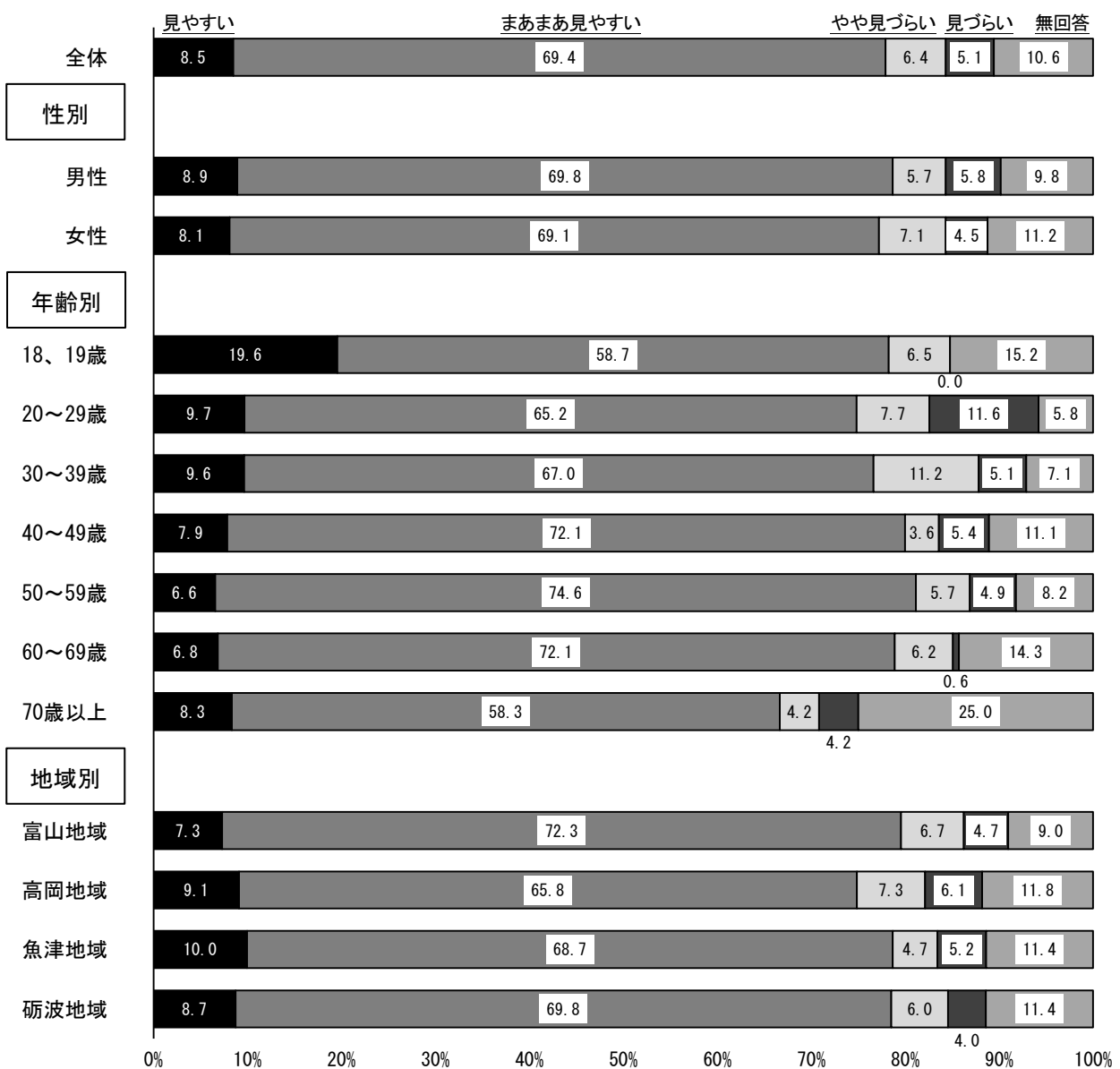


問 13-2 富山県のホームページは見やすいですか。次の中から1つお選びください。

【 調査結果 】

- 富山県ホームページの見やすさをみると、『見やすいと感じる』（「見やすい」と「まあまあ見やすい」を合算したもの）が8割弱を占めている。（以下、図表 38）
- 年齢別にみると、「20～29歳」、「30～39歳」が『見づらく感じる』（「やや見づらい」と「見づらい」を合算したもの）が他の年代に比べて高くなっている。

図表 38 富山県ホームページの見やすさ



<やや見づらいとする理由（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

文字が小さく、文章量が多すぎるため見づらい。（7）
ごちゃごちゃしている。（5）
行が詰まりすぎている。
1 ページあたりの情報量が多すぎる。（2）
行政・業界用語などの専門用語が多く、官庁的記述で見やすすくない。（3）
文字を羅列しているだけに見える。
文章での説明が多く、わかりづらい。（3）
イラストや図、写真等でわかりやすくしてほしい。（3）
親しみ感がうすい。
地味
スマートフォンで見るとは細かすぎる。（5）
求めている情報がどこにあるかわかりづらい。（6）
検索しても求めている情報にたどりつかない。（6）
該当する課がわかりづらく、検索できない。（3）
トップページで大きな分類分けがなく、探しづらい。
リンクがわかりづらい、ページが消えていることがある。
情報がバラバラ。
イベント情報が探しづらい。
サイト構成上、直感的サイトクローリングができない。

<見づらいとする理由（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

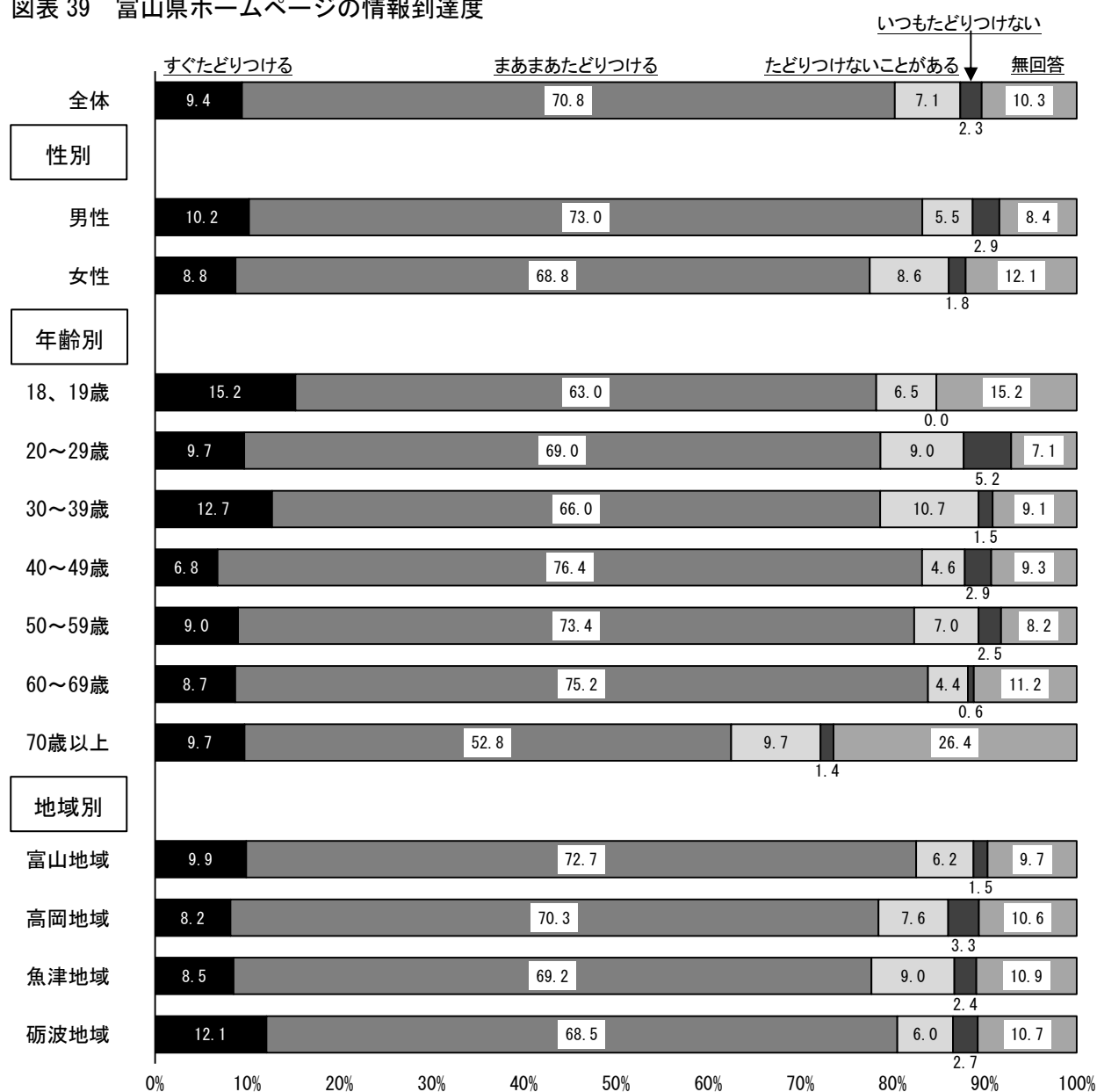
求めている情報がどこにあるかわかりづらい。
求めている情報にたどりつけない。（2）
ごちゃごちゃしている。（2）
情報が煩雑で、どこを見ればいいのかわからないので、必要な部分を見る前に閉じてしまう。
「催し物一覧」には観光向けではないセミナー等のイベントも含まれているため、目的に応じた分類をした方がわかりやすいと思う。
1 ページあたりの情報量が多すぎる。
項目、バナーが多すぎて、どこに何があるか一目で理解しづらい。
項目が小さくて見づらい。（2）
文字が小さい。
スマートフォンで見るとは細かすぎる。（3）
同一色（青色）の文字ばかりでわかりづらい。
文字を羅列しているだけに見える。
官庁的デザインで見やすすくない。
文章が専門用語等を使っているため難解。
部、課等の連絡先がわかりづらい。
関連部署がわかりづらい。
リンクが少ない。

問 13-3 富山県のホームページは、知りたい情報にすぐたどりつけますか。次の中から1つお選びください。

【 調査結果 】

- 富山県ホームページの情報到達度をみると、『たどりつけている』（「すぐたどりつける」と「まあまあたどりつける」を合算したもの）が約8割を占めている。（以下、図表 39）
- 男女別にみると、男性は『たどりつけている』が女性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「70歳以上」を除くすべての年代で『たどりつけている』が8割前後を占めているが、「70歳以上」は6割強と急激に低くなっている。

図表 39 富山県ホームページの情報到達度



<たどりつけないことがあるとする理由（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

どこにどんな情報があるかわかりづらい。（4）
情報が多すぎて、検索しづらい。（4）
どこの部署が担当なのかわかりづらい。（4）
部署がわかりづらい。
情報がまとまっていない。
レイアウトが見づらい。
細かすぎて見づらい。
項目が多く、わかりづらい。（2）
ディレクトリ分けが細かすぎる。
表示が小さい。
トップページの情報量が多いわりに、知りたいトピックスが選択肢になくたどり着けない。（2）
求めている情報にたどり着くまでにリンクを何度もとぶ必要がある。
求めている情報がどの項目なのかわからないことが多い。
何をキーワードにして検索すれば、情報にたどりつけるのかわからない。
求めている情報が載っていない。
過去に求めている情報が載っているページにたどりつけなかった。
富山県の最低賃金を調べた時に「労働・雇用」の項目から調べても見つけられなかった。石川県のホームページではたどりつけた。
今回の県政世論調査について調べたが、ホームページのどこに載っているかわからなかった。
グーグル等の検索エンジンを使った方が情報にたどりつきやすい。
イベント情報が探しにくい。
パソコンの取り扱いに不慣れ

<いつもたどりつけないとする理由（主なもの）>

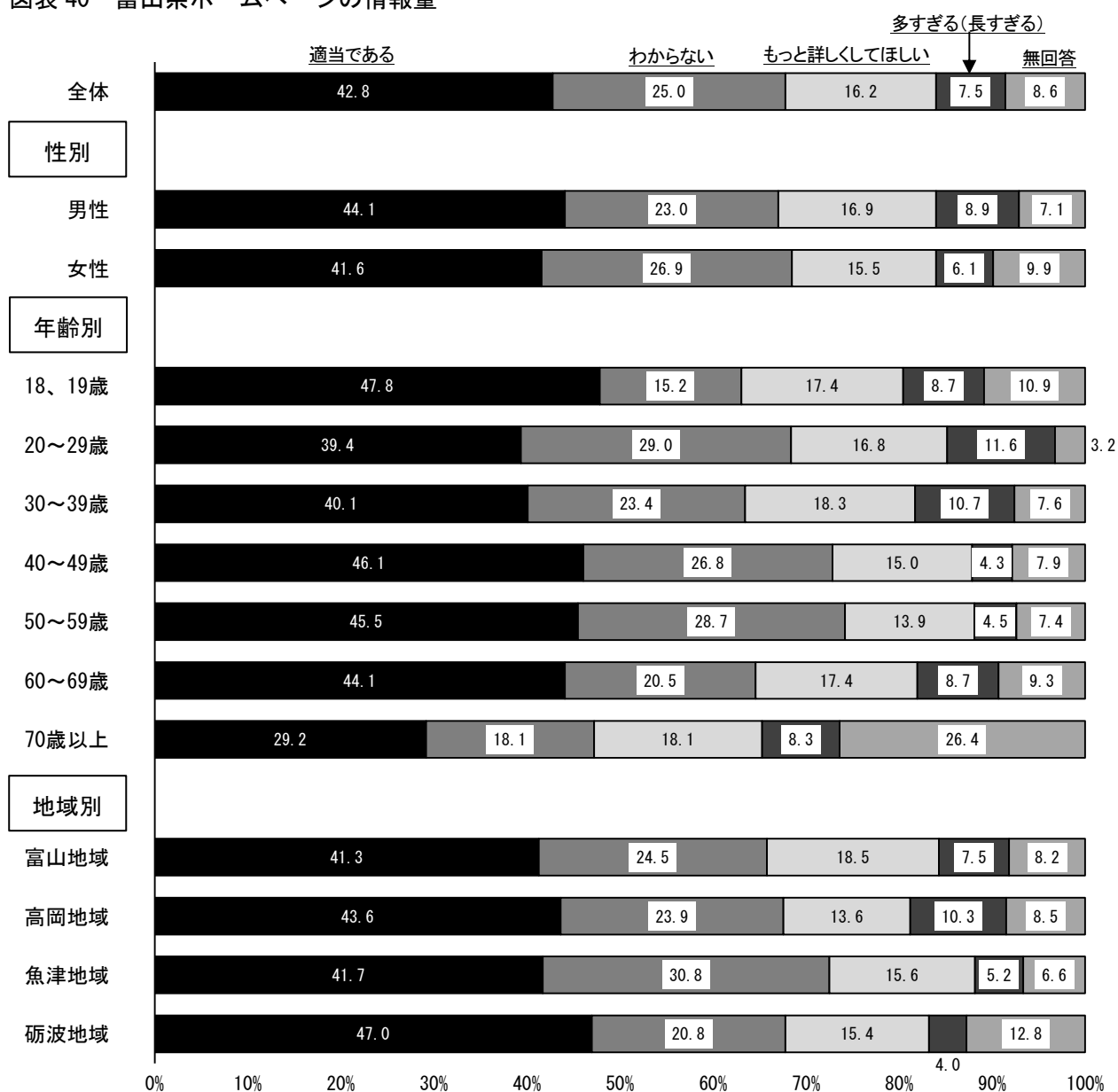
必要とする情報が載っていない。
レイアウト等のデザインが古い。

問 13-4 富山県のホームページの、各ページの情報量はいかがですか。次の中から1つお選びください。

【 調査結果 】

- 富山県ホームページの情報量をみると、「適当である」が 42.8%と最も高く、次いで「わからない」25.0%、「もっと詳しくしてほしい」16.2%の順となっている。(以下、図表 40)
- 年齢別にみると、「20～29 歳」、「30～39 歳」は「多すぎる (長すぎる)」が他の年代に比べて高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は「適当である」が他の地域に比べて高くなっている。

図表 40 富山県ホームページの情報量

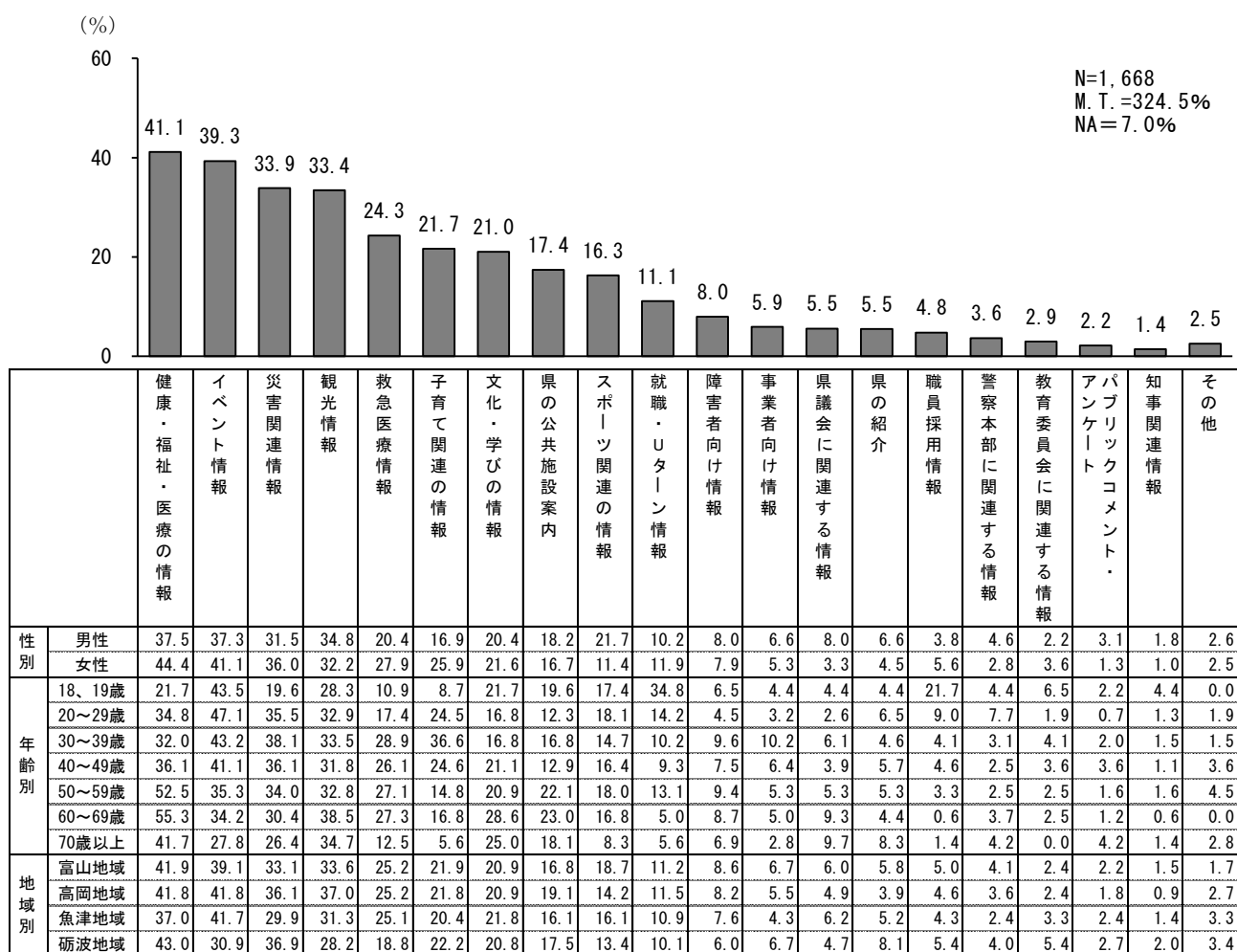


問 13-5 富山県のホームページで、今後充実してほしい情報は何か。次の中からいくつでもお選びください。

【 調査結果 】

- 富山県ホームページで今後充実してほしい情報をみると、「健康・福祉・医療の情報」が41.1%と最も高く、次いで「イベント情報」39.3%、「災害関連情報」33.9%の順となっている。(以下、図表41)
- 男女別にみると、男性は「スポーツ関連の情報」、「県議会に関連する情報」が女性と比べて高くなっており、女性は「健康・福祉・医療の情報」、「イベント情報」、「災害関連情報」、「救急医療情報」、「子育て関連の情報」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、50歳未満は「イベント情報」が、50歳以上は「健康・福祉・医療の情報」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は「イベント情報」、「観光情報」、「救急医療情報」が他の地域に比べて低くなっている。

図表 41 富山県ホームページで今後充実してほしい情報



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

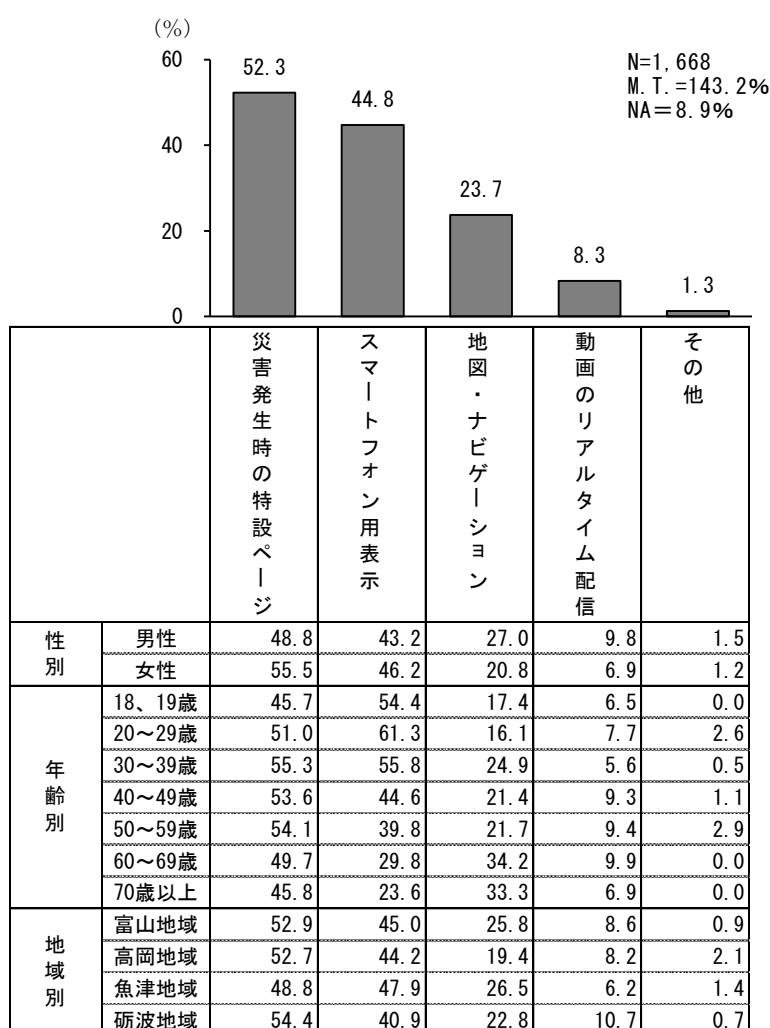
自然・環境保全
雇用者向けの情報
県内の主要な公共施設、交通機関、道路状況等の情報やライブカメラ等による情報の発信
税金の使われ方
政務活動費の使われ方（2）
各部長、課長の予定
公共事業の評価
施策ごとの市町村との分担
相談内容に応じた相談窓口の一覧
高齢者向けのサービス
事故・事件等の速報
どのような支援があるかわかりづらいため、わかりやすくしてほしい。
価値のある情報を創造して載せてほしい。
今のままで満足している。これ以上増やしても、かえって読みづらくなる。

問 13-6 富山県のホームページで、今後充実してほしい機能は何ですか。次の中からいくつでもお選びください。

【 調査結果 】

- 富山県ホームページで今後充実してほしい機能を見ると、「災害発生時の特設ページ」が52.3%と最も高く、次いで「スマートフォン用表示」44.8%、「地図・ナビゲーション」23.7%の順となっている。（以下、図表 42）
- 男女別にみると、女性は「災害発生時の特設ページ」が男性と比べて高く、男性は「地図・ナビゲーション」が女性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、40歳未満は「スマートフォン用表示」が、40歳以上は「災害発生時の特設ページ」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、魚津地域は「スマートフォン用表示」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 42 富山県ホームページで今後充実してほしい機能



＜その他意見（主なもの）＞（カッコ内の数字は同一意見の人数）

知事室ライブ中継
県民でも知らないことが多いので、観光客の役に立つ情報
子どもと遊びに行けるイベント情報
期待していない。（2）
特になし。（5）
わからない。

＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、ホームページの見やすさについては「見やすい」と「まあまあ見やすい」を合わせて約8割と高く評価されているが、ホームページを県政に関する情報源として活用している割合は県広報紙などと比較すると低い。

また、「災害発生時の特設ページ」や「スマートフォン用表示」など新たな情報提供体制の充実が求められている。

このことから、県では、今後、高齢者や外国人などあらゆるホームページユーザーの利便性を高めるとともに、災害情報サイトとの連携やスマートフォン用表示への対応など、情報発信力が高く即時性に優れたホームページを構築することで、県政情報のさらなる発信に努めてまいりたい。

(5) 3Rの取組みについて

<いま>

平成 28 年 5 月に本県で開催した「G 7 富山環境大臣会合」で採択された「富山物質循環フレームワーク」では、資源効率性の向上と 3 R の推進が掲げられており、本県としても積極的な取組みを進めている。

家庭ごみなどの一般廃棄物については、従来から市町村が収集し、リサイクルを進めてきたところであるが、さらなる 3 R を進めていくうえでは、小売店での資源回収など、県民の利便性の向上を図っていくことも必要になる。

本県では、全国に先駆けて平成 25 年度から「エコ・ストア」におけるトレイ、ペットボトルなどの店頭回収を開始するとともに、県単位では全国初のレジ袋無料配布廃止から 10 周年となる平成 30 年 10 月に本県で開催した「3 R 推進全国大会」に合わせ、県内すべての家電量販店と連携して小型家電の店頭回収を開始するなど、県民、事業者、行政が連携して、小売店における資源物の回収に取り組んでいる。

問 14 県では、平成 30 年 10 月に本県で「3 R 推進全国大会」が開催されることから、3 R のさらなる促進に取り組んでおり、小型家電については、市町村での回収だけでなく、家電量販店においても回収する仕組みを立ち上げ、リサイクルを進めているところです。

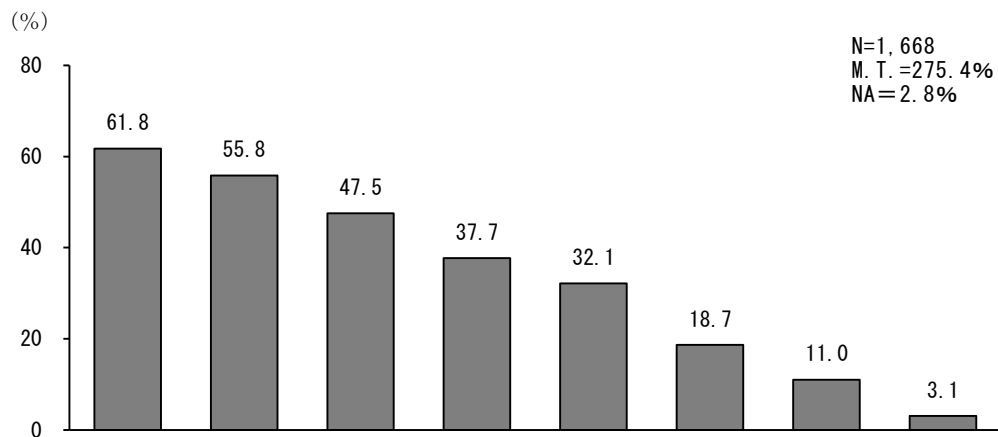
あなたは、小売店（スーパー、ホームセンター、家電量販店など）でどのような資源物が回収されたら、利用したいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

3 R とは、Reduce（リデュース：ごみを減らすこと）、Reuse（リユース：繰り返し使うこと）、Recycle（リサイクル：資源として再び利用すること）の 3 つの R の総称です。

【 調査結果 】

- 利用したい資源物の種類をみると、「小型家電、乾電池」が 61.8%と最も高く、次いで「ペットボトル、食品トレイ、紙パック」55.8%、「アルミ缶、ガラスびん」47.5%の順となっている。（以下、図表 43）
- 男女別にみると、女性はすべての資源物の種類で男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、40 歳未満は「ペットボトル、食品トレイ、紙パック」が最も高く、40 歳以上は「小型家電、乾電池」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、利用したい資源物の種類の傾向は同じで、砺波地域は他の地域と比べて高くなっている。

図表 43 利用したい資源物回収



		小型家電、乾電池	紙パック、ペットボトル、食品トレイ	アルミ缶、ガラスびん	古紙（新聞紙、雑誌）、段ボール	透明トレイ（たまごパックなど）	廃食用油（天ぷら油など）	特にない	その他
性別	男性	59.1	47.9	41.1	31.1	23.6	18.1	14.4	3.2
	女性	64.1	62.6	53.1	43.4	39.5	19.1	8.2	2.9
年齢別	18、19歳	48.1	59.6	40.4	40.4	30.8	19.2	15.4	1.9
	20～29歳	57.4	60.1	41.5	42.1	29.0	14.8	10.9	2.7
	30～39歳	58.3	59.6	51.7	44.4	28.7	16.5	9.6	5.2
	40～49歳	63.5	59.3	52.3	42.0	30.1	17.0	11.3	2.7
	50～59歳	65.0	55.5	49.7	36.5	37.1	18.1	9.5	2.2
	60～69歳	65.9	52.4	45.3	32.5	33.1	18.0	12.2	2.3
	70歳以上	59.1	48.1	43.0	30.0	32.9	27.4	11.8	4.2
地域別	富山地域	58.8	55.0	45.2	36.6	33.4	16.9	11.5	2.3
	高岡地域	63.2	55.5	45.9	37.4	32.1	20.1	12.0	4.3
	魚津地域	62.3	52.5	48.4	32.7	28.0	18.2	12.3	2.2
	砺波地域	66.8	64.4	57.6	49.8	34.6	21.5	5.4	3.9

<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

不要になった衣類（11）
大型家電（テレビ、エアコン等）（6）
古タイヤ（4）
消火器（3）
プラスチック（3）
不燃物（2）
不要になった子どものおもちゃ（2）
陶器、食器（2）
ナイフ、包丁等
ポット（電気ではない）
パソコン
自転車
ホイール
バッテリー
コンクリートブロック
木材
椅子
現在利用できる回収方法で足りている。（6）
回収の前に過剰な包装をなんとかしてほしい。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、小売店で回収してほしい資源物の種類として、「小型家電、乾電池」が全体で最も高く、次いで「ペットボトル、食品トレイ、紙パック」などが高くなっており、本県が進めてきた家電量販店における小型家電や「エコ・ストア」におけるトレイ、ペットボトルなどの店頭回収などの取組みについて普及啓発をさらに進め、3Rの拡大と定着につなげていく必要がある。

また、「アルミ缶、ガラスびん」や「古紙、段ボール」についても、小売店での回収に対するニーズが認められることから、今後、小売店や市町村などとも連携し、県民の利便性の向上とさらなるリサイクルの促進に向けて努めてまいりたい。

(6) 障害者福祉の充実について

<いま>

本県における障害者施策推進の基本的な計画である富山県障害者計画では、「すべての人が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し支え合い、地域の中で共に生きる『共生社会』を実現するとともに、障害者一人ひとりが住み慣れた地域で、自立し、安心して、いきいきと暮らすことができる幸せな富山を目指す」ことを基本理念に掲げている。

共生社会の実現のためには、障害者に対して周囲の人々が持つ意識上の障壁を取り除くことが重要であり、県では、県民の障害及び障害者に対する理解が広く浸透するよう、啓発・広報活動や学校、地域における福祉教育を推進するとともに、日常的なふれあいや交流、さまざまなボランティア活動が行われるよう、各種施策を展開してきたところである。

問 15 障害のある人が、住み慣れた地域で安心して生活していくためには、皆さんとの日常的なふれあいや交流の促進が必要です。

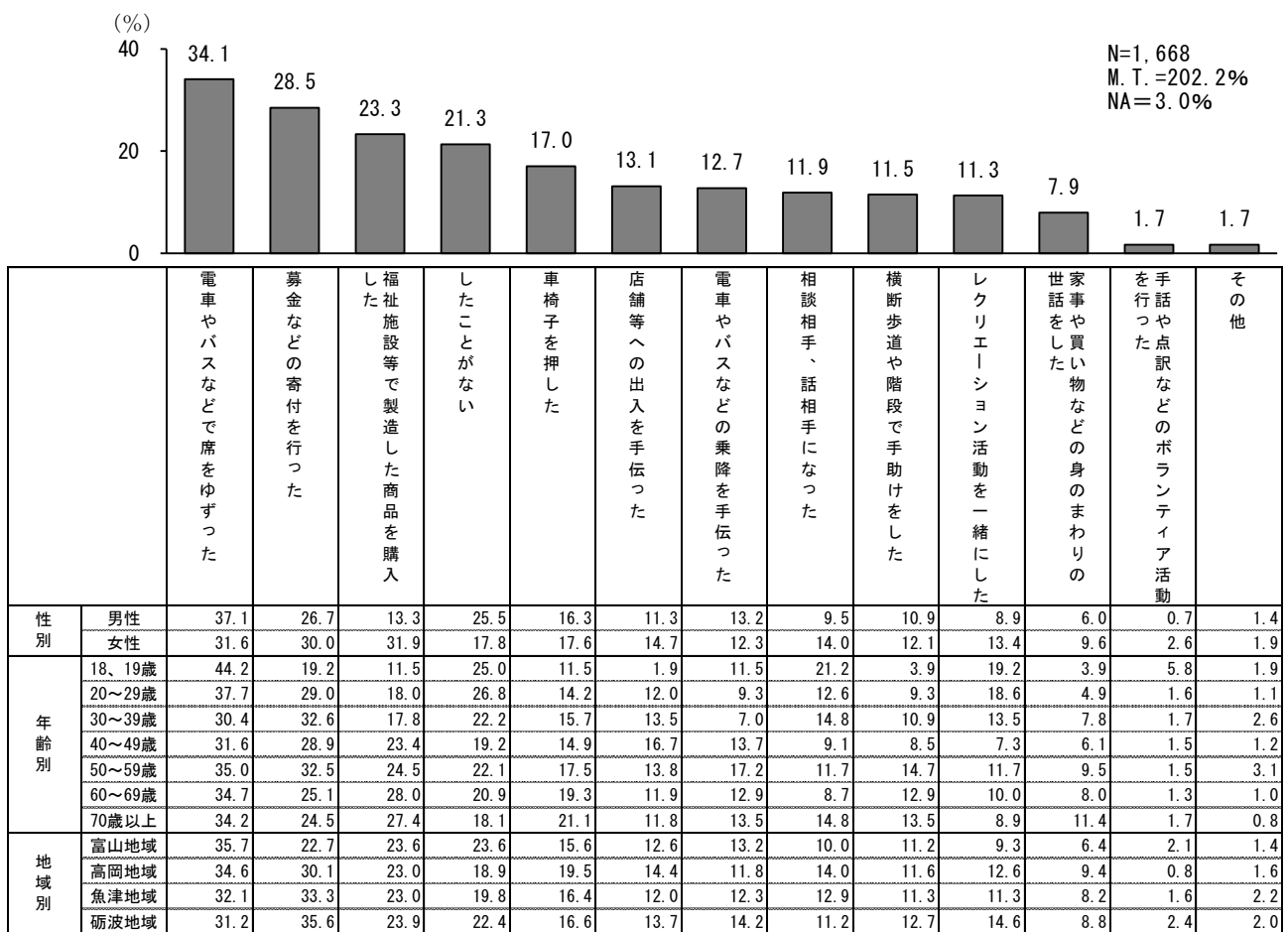
あなたはこれまでに障害のある人に対し、どのような交流や手助けをしたことがありますか。次の中からいくつでも選んでください。

「障害のある人」とは、身体障害、知的障害又は精神障害がある方に限らず、発達障害、高次脳機能障害などの障害のある方や難病の方を含みます。また、施設（特別養護老人ホーム等）に入所しておられる高齢者で障害のある方も念頭に置いてください。

【 調査結果 】

- 障害のある人に対し行った交流や手助けの内容をみると、「電車やバスなどで席をゆずった」が 34.1%と最も高く、次いで「募金などの寄付を行った」28.5%、「福祉施設等で製造した商品を購入した」23.3%の順となっている。（以下、図表 44）
- 男女別にみると、男性は「電車やバスなどで席をゆずった」、「したことがない」が女性と比べて高く、女性は「募金などの寄付を行った」、「福祉施設等で製造した商品を購入した」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「30～39 歳」を除くすべての年代で「電車やバスなどで席をゆずった」が最も高く、「30～39 歳」は「募金などの寄付を行った」が最も高くなっている。「福祉施設等で製造した商品を購入した」は年代が高くなるにつれ高い傾向にある。

図表 44 障害のある人に対し行った交流や手助け



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

家族として同居（5）	職業として。（2）
私自身、養護学校に通っていた。	大学での実習や研修
ホワイトボードを使って順序等を示した。	車に乗せてあげた。
視力が不自由な方を目的場所まで誘導した。	手の届かない所にある商品を取ってあげた。
電車の到着ホームが変更になったことを耳が不自由な学生さんに教えてあげた。	

<調査結果を受けて>

今回の調査では、障害のある人との交流や手助けを「したことがない」と回答した方の割合が21.3%と、前回調査（平成25年度）と比較してほぼ横ばいであった。

また、「交流や手助けをしたことがある」と回答した方の中でも「店舗等への出入を手伝った（13.1%）」、「電車やバスなどの乗降を手伝った（12.7%）」、「横断歩道や階段で手助けをした（11.5%）」といった項目を選択した方の割合が比較的少なく、障害のある人が日常生活を送る中での支援の手が十分に差し伸べられていない状況がうかがえる。

県では、平成31年度を計画期間の初年度とする新しい障害者計画を平成30年度中に策定する予定である。今回の調査結果も踏まえ、引き続き、障害や障害のある人に対する理解が広く浸透する施策や心のバリアフリーの推進に取り組み、年齢や障害の有無等にかかわらず、住み慣れた地域で安心して生活できる「とやま型地域共生社会」の構築を目指してまいりたい。

(7) 里親制度について

<いま>

何らかの事情により実親が育てられない子どもを含め、すべての子どもの育ちを保障する観点から、平成 28 年改正児童福祉法では、子どもが権利の主体であることや、実親による養育が困難であれば特別養子縁組や里親による養育を推進することが明確化された。この理念を実現するため、翌年国で示された「新しい社会的養育ビジョン」では、里親家庭で育てられる子どもの割合（里親委託率）を大幅に引き上げる目標が掲げられた。

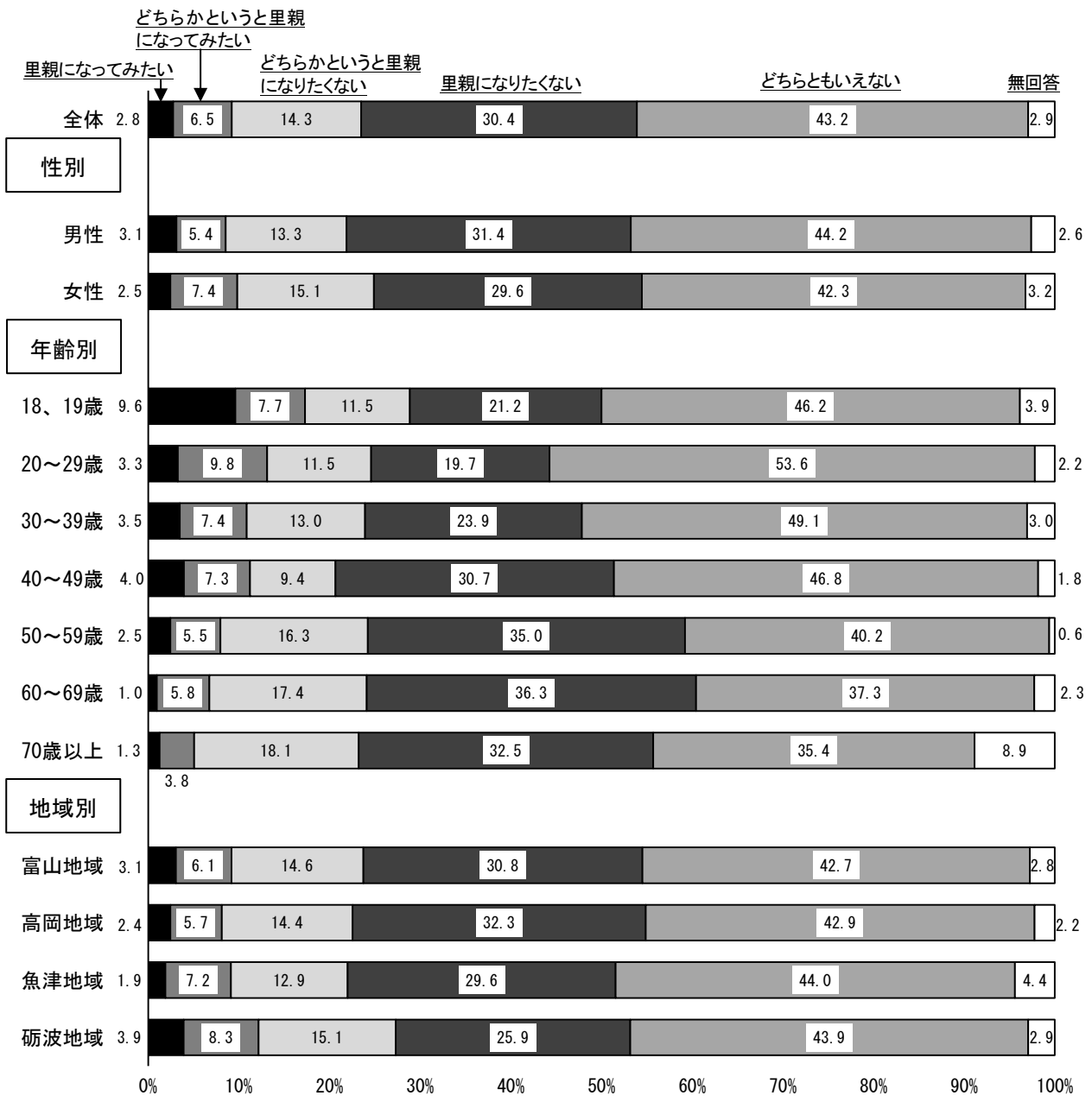
本県においては、平成 28 年 3 月に富山県「家庭的養護推進計画」を策定し、里親制度の普及啓発や里親の資質向上等に取り組み、里親委託を推進しているが、法改正等を受けて、計画を見直すこととしている。

問 16-1 さまざまな事情で実親の養育が受けられない子どもたちがいますが、あなたはこのような子どもたちを家庭的な環境で養育する「里親」になってみたいですか。

【 調査結果 】

- 里親になってみたいかをみると、『里親になる気持ちがある』（「里親になってみたい」と「どちらかというとり親になってみたい」を合算したもの）が 9.3%、『里親になる気持ちがない』（「里親になりたくない」と「どちらかというとり親になりたくない」を合算したもの）が 44.7%となっている。（以下、図表 45）
- 男女別にみると、男性は『里親になる気持ちがある』が女性と比べて低くなっている。
- 年齢別にみると、『里親になる気持ちがある』は年代が高くなるにつれ低い傾向にある。
- 地域別にみると、砺波地域は『里親になる気持ちがある』が他の地域と比べて高くなっている。

図表 45 里親になることへの意欲

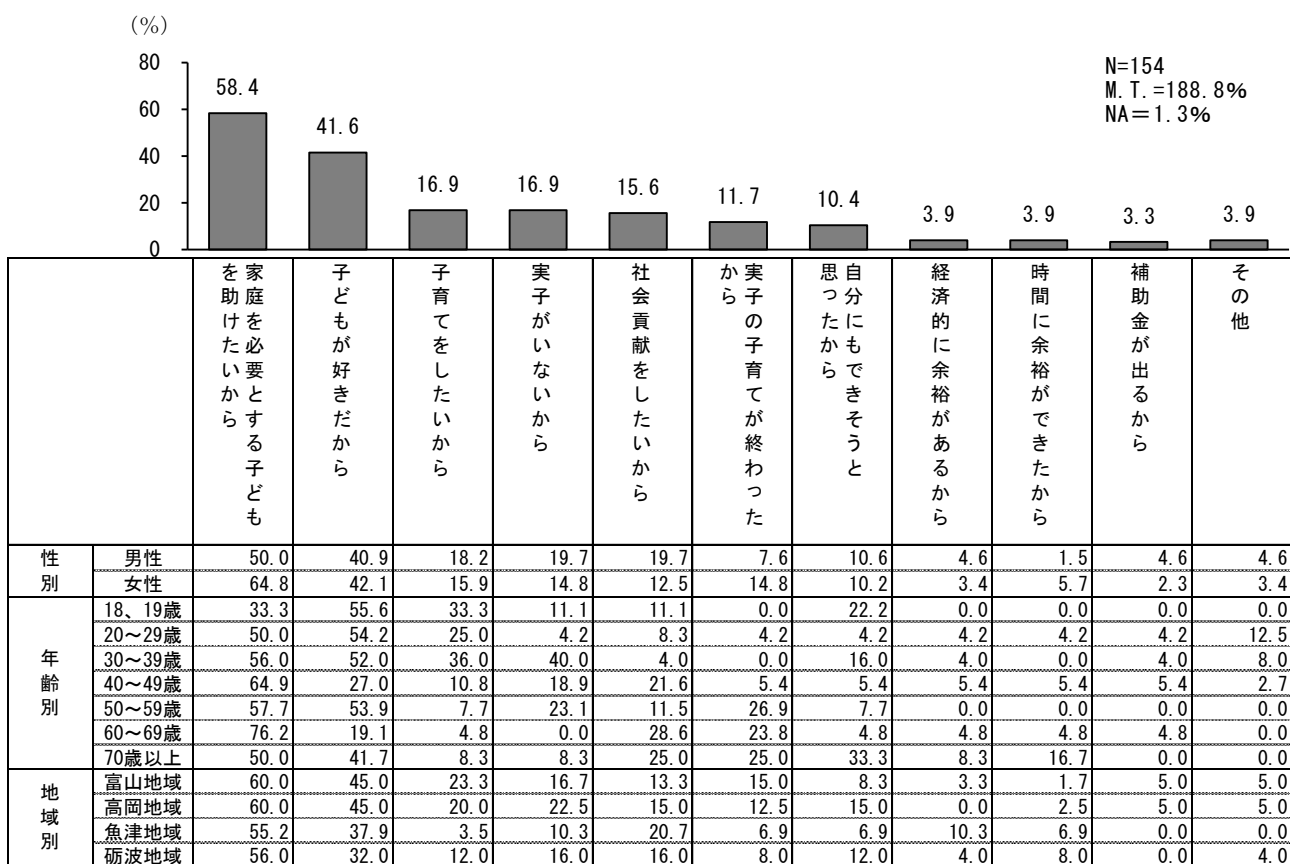


問 16-2 問 16-1 で「1. 里親になってみたい」、「2. どちらかというとき里親になってみたい」と回答された方にお聞きします。里親になってみたい理由として、あてはまるものすべてを選んでください。

【 調査結果 】

- 里親になってみたい理由をみると、「家庭を必要とする子どもを助きたいから」が 58.4%と最も高く、次いで「子どもが好きだから」41.6%、「子育てをしたいから」、「実子がないから」（ともに 16.9%）の順となっている。（以下、図表 46）
- 男女別にみると、男性は「実子がないから」、「社会貢献をしたいから」が女性と比べて高く、女性は「家庭を必要とする子どもを助きたいから」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、30 歳未満は「子どもが好きだから」が最も高く、30 歳以上は「家庭を必要とする子どもを助きたいから」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「家庭を必要とする子どもを助きたいから」が最も高く、次いで「子どもが好きだから」の順となっている。

図表 46 里親になってみたい理由



<その他意見（主なもの）>

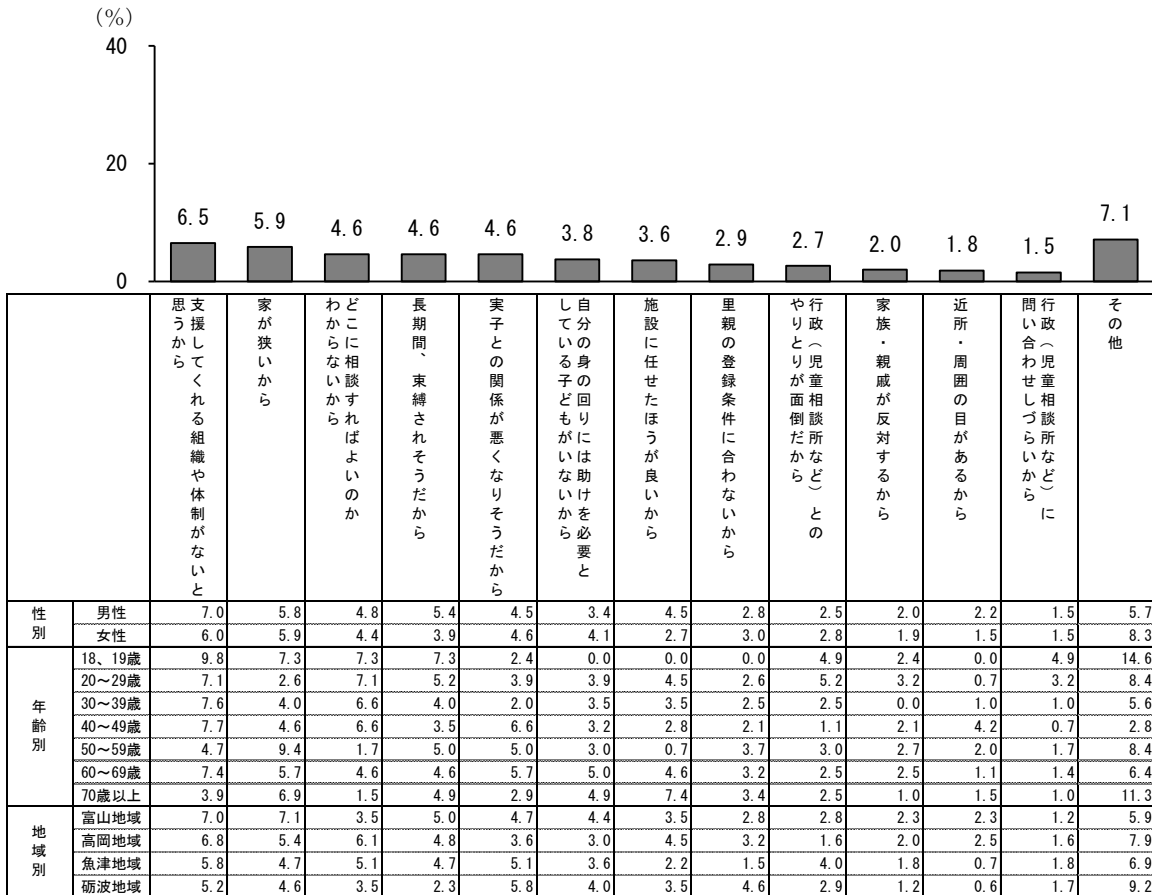
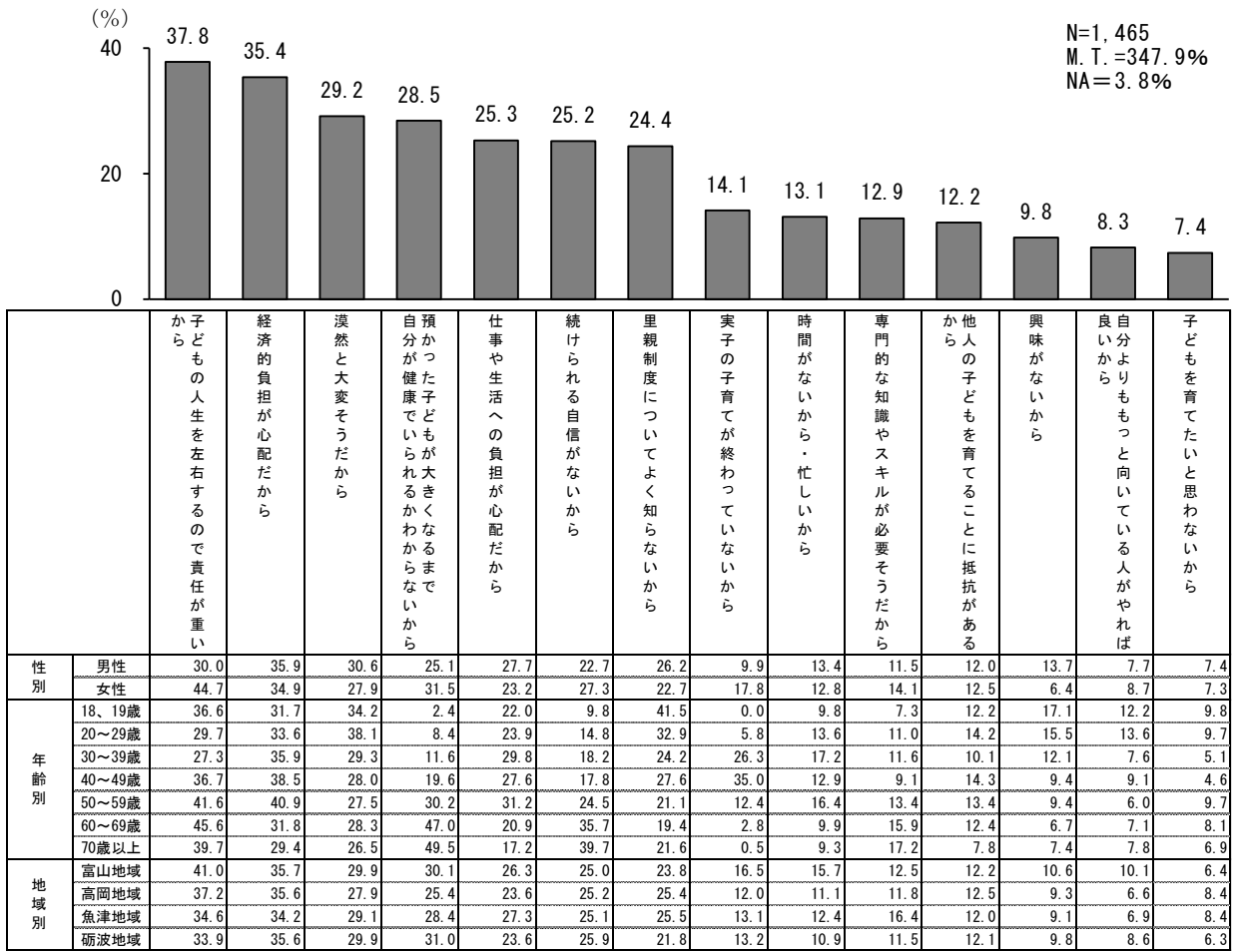
私自身が同じような環境で育ったため。
 出産を考える余裕がないが、二人目が欲しいため。
 子どもは欲しいが、痛い思いをして出産をしたくないから。

問 16-3 問 16-1 で「3. どちらかというとき里親になりたくない」、「4. 里親になりたくない」、「5. どちらとも言えない」と回答された方にお聞きします。里親になってみたいと思わない理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。

【 調査結果 】

- 里親になってみたいと思わない理由をみると、「子どもの人生を左右するので責任が重いから」が 37.8%と最も高く、次いで「経済的負担が心配だから」35.4%、「漠然と大変そうだから」29.2%の順となっている。(以下、図表 47)
- 男女別にみると、男性は「漠然と大変そうだから」、「仕事や生活への負担が心配だから」、「里親制度についてよく知らないから」、「興味がないから」が女性と比べて高く、女性は「子どもの人生を左右するので責任が重いから」、「預かった子どもが大きくなるまで自分が健康でいられるかわからないから」、「続けられる自信がないから」、「実子の子育てが終わっていないから」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19 歳」は「里親制度についてよく知らないから」が 41.5%と最も高く、60 歳以上は「預かった子どもが大きくなるまで自分が健康でいられるかわからないから」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域を除くすべての地域で「子どもの人生を左右するので責任が重いから」が最も高く、砺波地域は「経済的負担が心配だから」が最も高くなっている。

図表 47 里親になってみたいと思わない理由



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

高齢のため。(34)
家族の介護で手一杯。(7)
自身の健康上の理由(6)
子育ての経験がないため。(7)
既婚者ではないのでわからない。(3)
まだ学生で、自分のこれからのこともわからないから。(2)
まだ結婚するか、自分の子どもを授かるかが分からないから。
まだ子どもの事は考えられない。
実子と平等に接する自信がないため。
実子と仲良くできるか心配。
実子がやっとな手を離れたので、自身の生活を充実させたい。
実親と争いになりそうだから。
子どもは実親が育てるという考えだから。
実親の養育を受けられない子どもを減らすことに全力で取り組まなければ解決しないと思うから。
同居中の家族の同意や理解が必要であり、本人だけでなく、関わるものの人生に大きく影響すると思われ簡単に回答できる問題ではない。
自分の子どもも満足に育てられているのかわからないのに、他人の子はとても育てられない。

<調査結果を受けて>

今回の調査では、里親に「なってみたい」、「どちらかというとなってみたい」が9.3%にとどまり、大多数が「なりたくない」、「どちらかというとなりたくない」、もしくは、「どちらとも言えない」と回答している。

里親になってみたいと思わない理由については、「責任が重いから」といったものや経済面や健康面・仕事や生活への負担についての心配がある一方、「漠然と大変そうだから」や「里親制度についてよく知らないから」との回答も多数あり、里親制度について内容や支援体制等を知ることによって里親になってみたいか否かについての回答が変わる可能性もあると思われる。

このことから、里親に「なってみたい」と考えている方への周知とあわせ、里親制度について知らない方への制度や支援体制についての普及啓発を図ることで、里親のなり手を増やし、里親委託の推進に努めてまいりたい。

(8) 食品ロスの削減について

<いま>

日本では年間約 1,600 万トンの食品廃棄物が排出されている。そのうち、本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」は、年間約 646 万トンと試算され（平成 27 年度農林水産省推計）、資源・環境等の観点から大きな問題となっている。

平成 28 年 5 月に本県において開催された先進 7 カ国（G7）環境大臣会合において、食品や化石燃料を含むあらゆる資源の使用量の削減や循環的な利用の拡大を目指す「富山物質循環フレームワーク」が採択され、その中で、食品ロス・食品廃棄物の削減促進、効果的なリサイクルなどを着実に実施することとされた。

このため県でも、食品ロス・食品廃棄物の削減を進めるため、平成 29 年 5 月に有識者や事業者・消費者の関係団体などで構成する「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置し、関係団体が一丸となって県民総参加の運動として取り組んでいる。

問 17 平成 28 年 5 月に本県において開催された G 7 環境大臣会合において、食品や化石燃料を含むあらゆる資源の循環的な利用や使用量の削減を目指す「富山物質循環フレームワーク」が採択され、その中で、食品ロス・食品廃棄物の削減促進、効果的なリサイクルなどを着実に実施することとされました。

このため、県でも、平成 29 年 5 月に富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議を設置し、県民、事業者や消費者の関係団体などが一丸となって、食品ロス・食品廃棄物の削減に取り組む運動を展開しているところです。

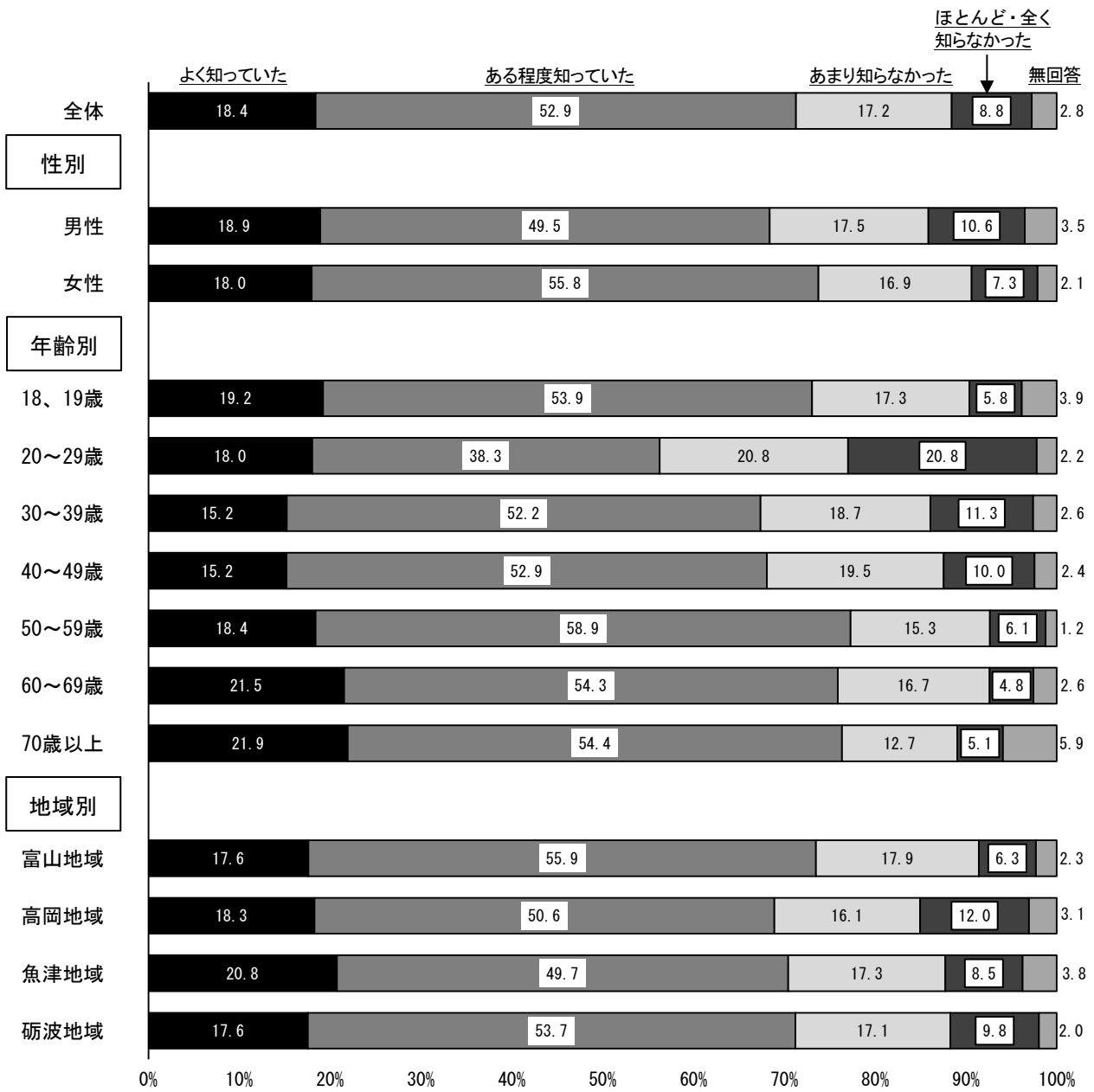
食品ロスに関して、以下の質問にお答えください。

あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。次の中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

【 調査結果 】

- 「食品ロス」が問題になっていることの認知度をみると、『知っていた』（「よく知っていた」、「ある程度知っていた」を合算したもの）が 7 割強となっている。（以下、図表 48）
- 男女別にみると、女性は『知っていた』が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、『知っていた』は年齢が高くなるにつれ認知度は高い傾向にあるが、「18、19 歳」の認知度は高くなっている。
- 地域別にみると『知っていた』は富山地域が最も高く、高岡地域が最も低くなっている。

図表 48 「食品ロス」が問題になっていることの認知度

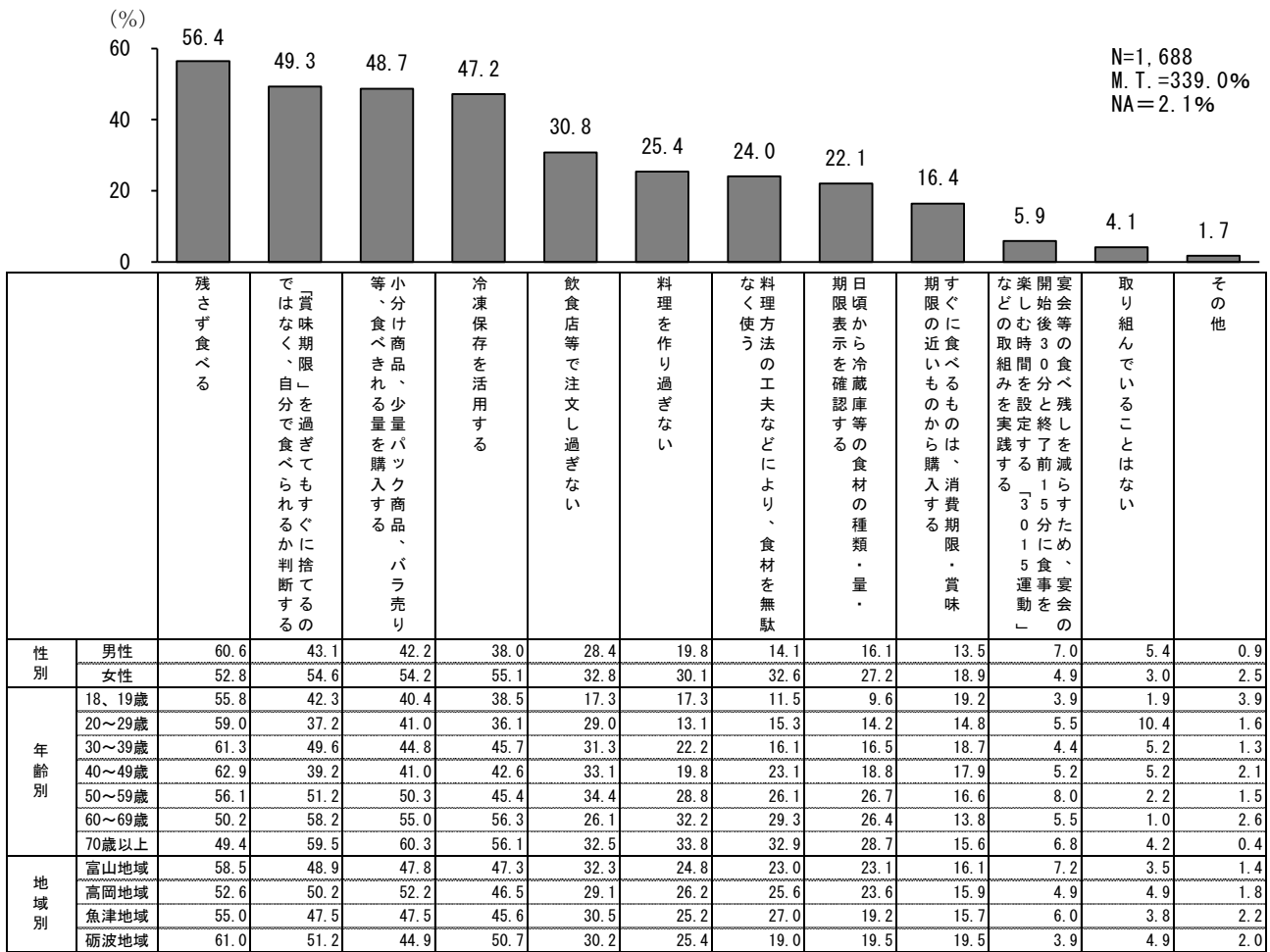


問 18 「食品ロス」の軽減につながる以下の工夫の中で、あなたが取り組んでいることはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

【 調査結果 】

- 「食品ロス」の軽減につながる取組みをみると、「残さず食べる」が 56.4%と最も高く、次いで『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」49.3%、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」48.7%の順となっている。(以下、図表 49)
- 男女別にみると、男性は「残さず食べる」、「宴会等の食べ残しを減らすため、宴会の開始後 30 分と終了前 15 分に食事を楽しむ時間を設定する『3015 運動』などの取組みを実践する」が女性と比べて高く、女性はそれを除いたすべての取組みが男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、比較的若い世代で「残さず食べる」が最も多く、年齢が高くなるにつれ、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」、「冷凍保存を活用する」が高い傾向にある。
「取り組んでいることはない」は、「20～29 歳」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「残さず食べる」が最も高くなっている。

図表 49 「食品ロス」の軽減につながる取組み



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

生ごみは出来る限りコンポストに入れ堆肥にしている。（2）
たくさんある時は、人にあげて食べてもらう。（2）
早めに他の方に譲る（野菜、冠婚葬祭の引き出物など）。
衛生的には好ましくないが、場所、物によってはお店の人に言って、持ち帰りする。
残った料理や食材などを別の料理にリメイクする。（3）
一週間分メニューを考えて必要な分だけ買う。
まとめ買いをしない、冷蔵庫をいっぱいにしない。

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせた「食品ロスが問題となっていることを知っていた」人の割合は約71%で昨年度(約65%)に比べ6ポイントアップし、各年代において認知度が向上してきている。特に10代の伸びが著しく(43%→73%)、若年層への働きかけが有効とみられ、今後、未就学児や小学生など幼少期からの働きかけも行ってまいりたい。

また、食品ロスの軽減につながる取組みの中で、「すぐに食べるものは、消費期限・賞味期限の近いものから購入する」、「宴会時の食べ残しを減らすため、宴会の開始後30分と終了前15分に食事を楽しむ時間を設定する『3015運動』などの取組みを実践する」と回答した人の割合が低いことから、期限の近接した商品の優先購入促進や宴会時等の食べきり運動の一層の推進に取り組んでまいりたい。

(9) 犯罪の予防について

<いま>

富山県の刑法犯認知件数は、平成13年をピークに16年連続で減少し、平成29年は戦後最少を更新、平成30年も減少傾向が続いている。

しかし、児童虐待や子ども・女性に対する声掛け、つきまとい事案が増加傾向にあるとともに、ストーカー・DV事案も高止まり傾向にあるほか、振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺の被害は高齢者が半数以上を占めるなど、子ども、女性、高齢者を取り巻く犯罪情勢は依然として厳しい状況である。

県警察では、犯罪発生実態等を踏まえたパトロールの実施など、犯罪抑止と検挙の両面で活動を強化するとともに、官民一体となった特殊詐欺対策など各種取組みを推進している。

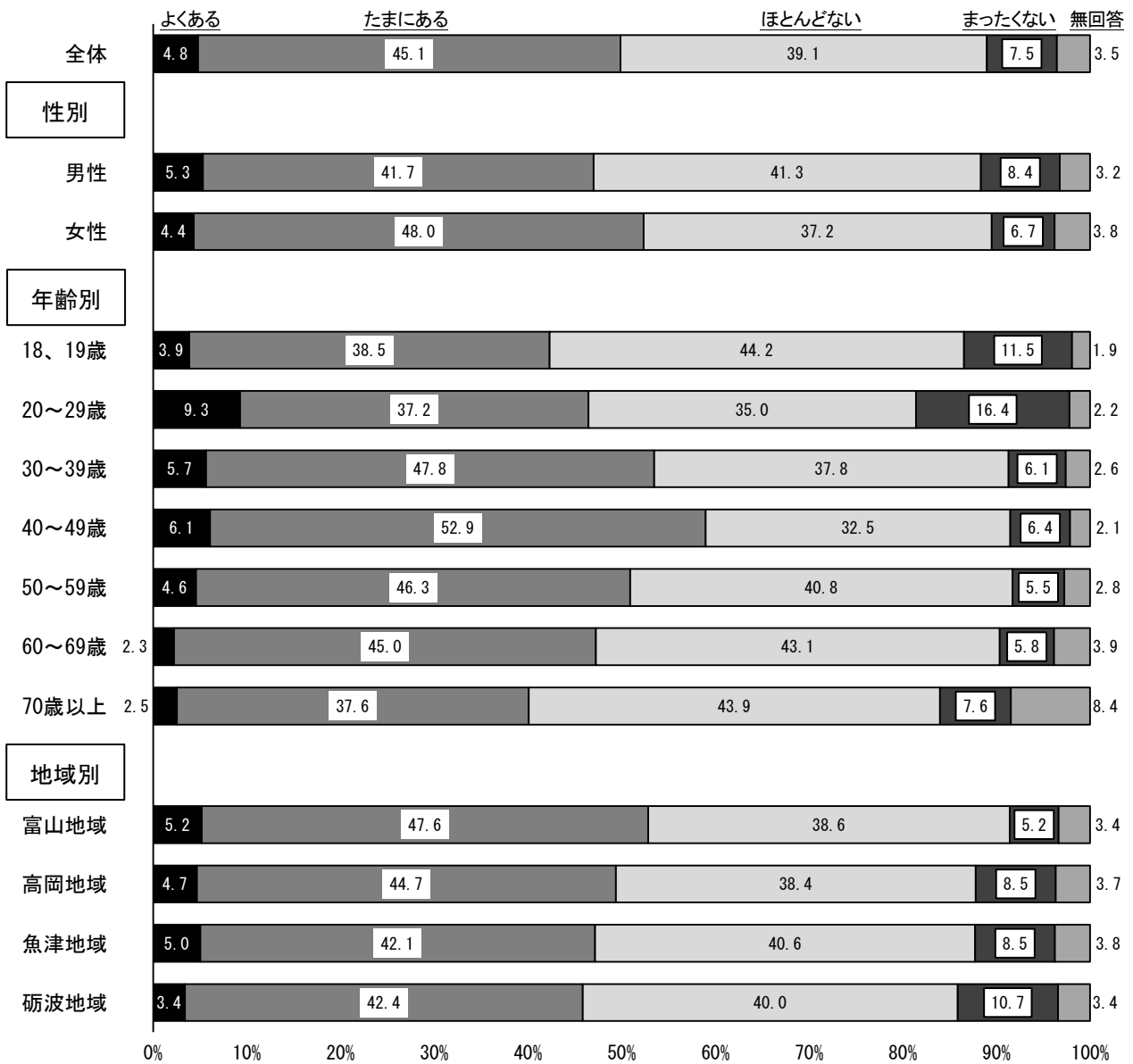
また、「県安全なまちづくり条例」に基づき、県、市町村や関係機関・団体と連携を図りながら、防犯パトロール隊などの防犯ボランティアに対する防犯情報の提供、活動に対する支援・顕彰や定期的な研修会の開催など各種指導・支援活動に努めている。

問19-1 あなたは、自分や家族が、犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 犯罪に遭遇する不安をみると、『不安がある』（「よくある」と「たまにある」を合算したもの）が約5割となっている。（以下、図表50）
- 男女別にみると、女性は『不安がある』が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、『不安がある』は「40～49歳」が最も高く、それを境に年代が離れるにつれ低くなっている。
- 地域別にみると、富山地域は『不安がある』が他の地域と比べて高くなっている。

図表 50 犯罪に遭遇する不安

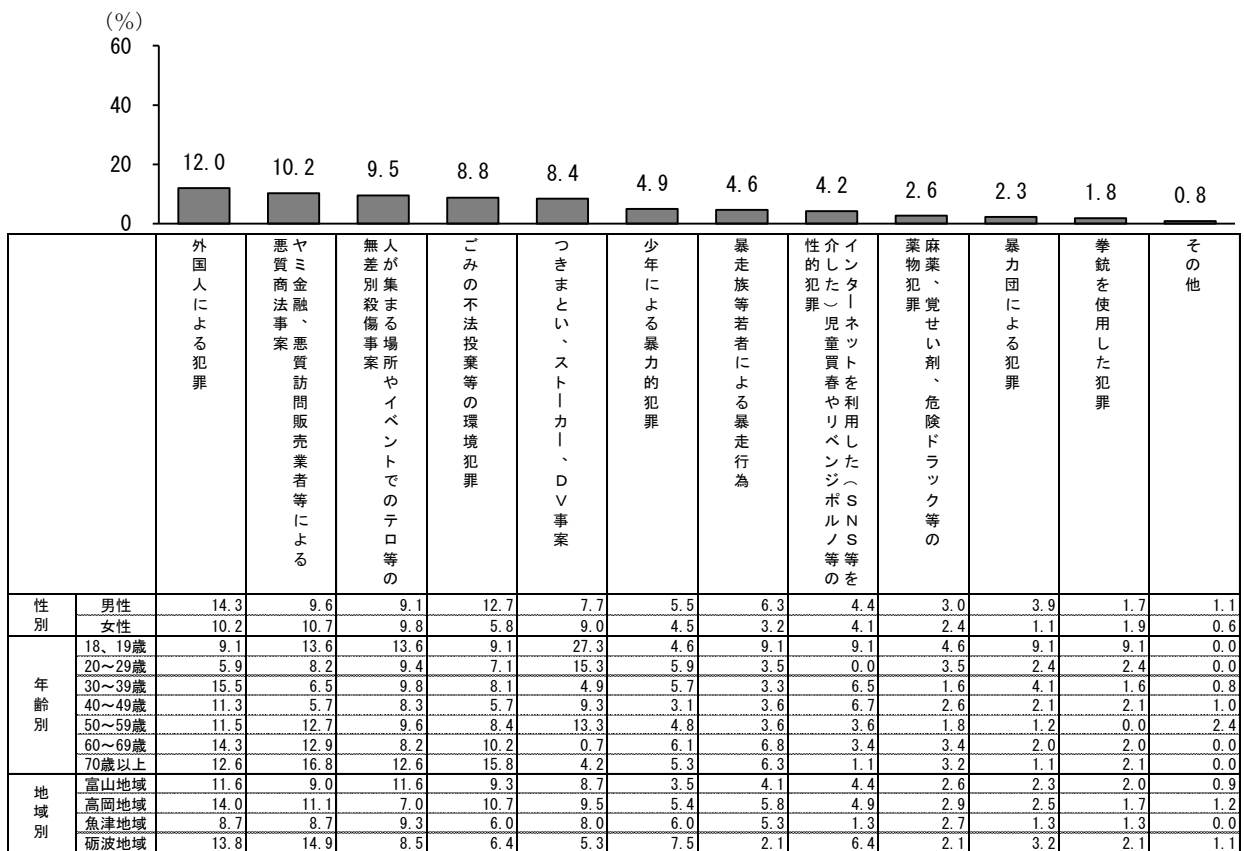
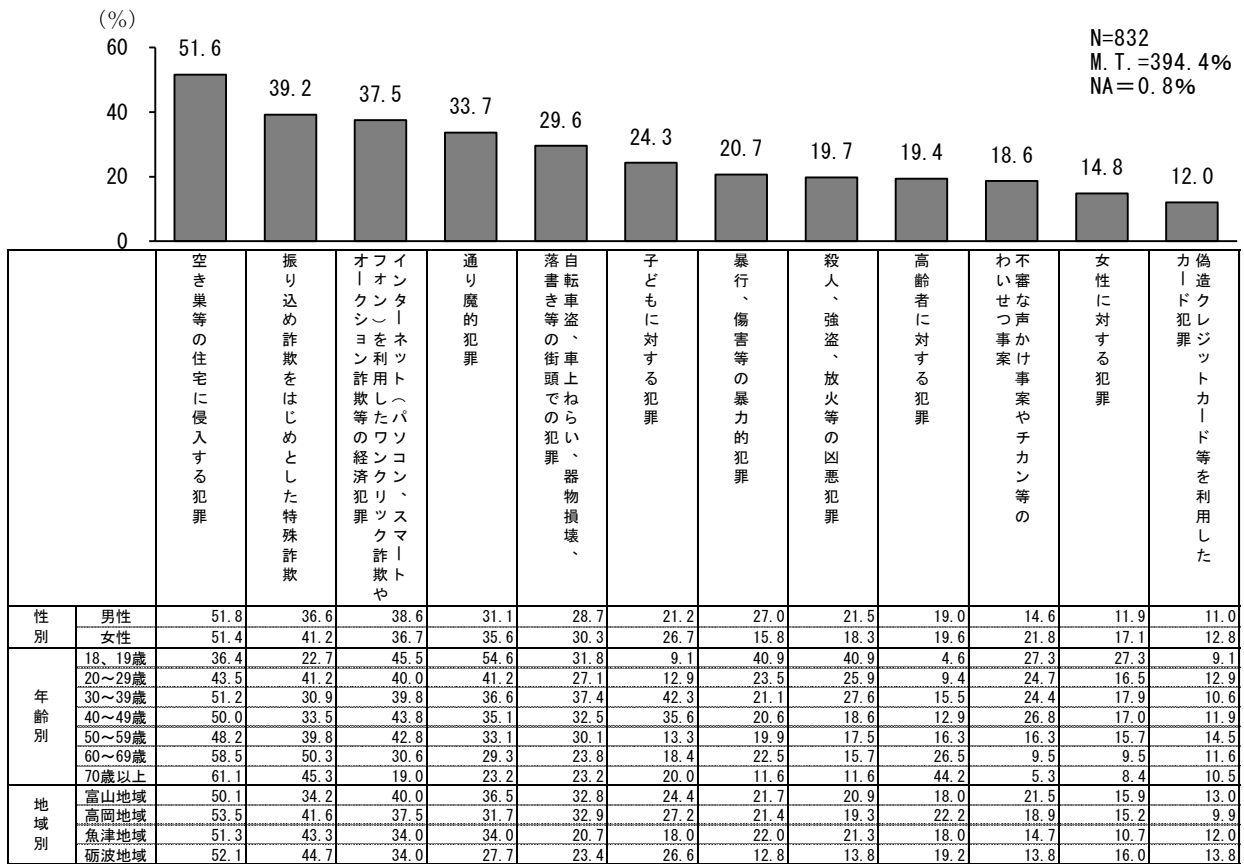


問 19-2 問 19-1 で「1. よくある」「2. たまにある」と回答された方にお聞きします。どのような犯罪に不安を感じますか。次の中から5つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 不安を感じる犯罪をみると、「空き巣等の住宅に侵入する犯罪」が 51.6%と最も高く、次いで「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」39.2%、「インターネット（パソコン、スマートフォン）を利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」37.5%の順となっている。（以下、図表 51）
- 男女別にみると、男性は「暴行、傷害等の暴力的犯罪」、「ごみの不法投棄等の環境犯罪」、「外国人による犯罪」等が女性と比べて高く、女性は「不審な声かけ事案やチカン等のわいせつ事案」、「子どもに対する犯罪」、「女性に対する犯罪」等が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19 歳」を除くすべての年代で「空き巣等の住宅に侵入する犯罪」が最も高く、「18、19 歳」は「通り魔的犯罪」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「空き巣等の住宅に侵入する犯罪」が 5 割を超え最も高くなっている。

図表 51 不安を感じる犯罪



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

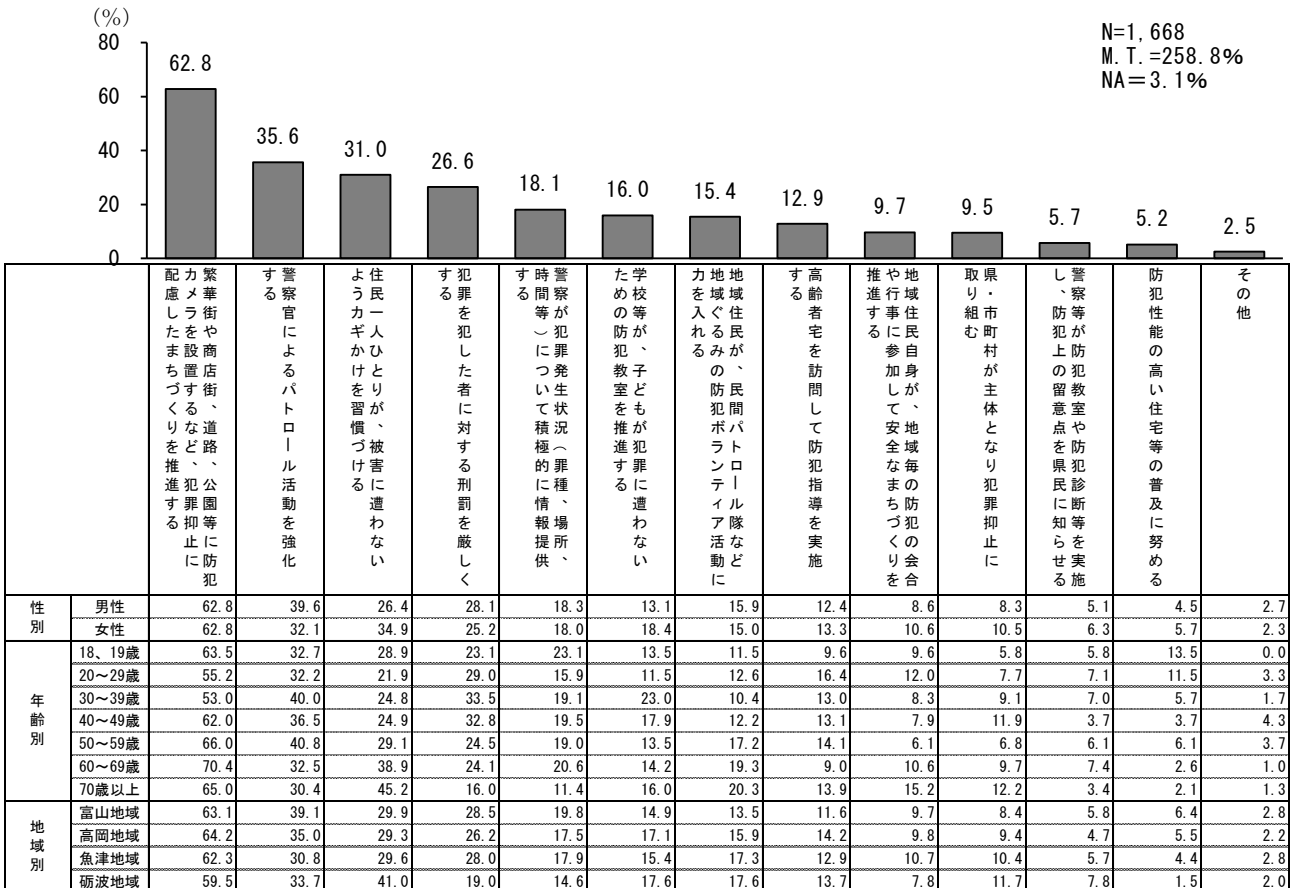
あおり運転などの交通ルールを無視した犯罪（3）	商店街が被害にあうこと
言葉の暴力	誘拐

問 20 富山県内の犯罪の認知件数は 10 年前に比べて大幅に減少（H19 は 10,648 件、H29 は 5,330 件）していますが、今後更に犯罪を減らすためには、どうすればよいと思いますか。次の中から特に重要と思われるものを3つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 犯罪を減少させる方法をみると、「繁華街や商店街、道路、公園等に防犯カメラを設置するなど、犯罪抑止に配慮したまちづくりを推進する」が 62.8%と最も高く、次いで「警察官によるパトロール活動を強化する」35.6%、「住民一人ひとりが、被害に遭わないようカギかけを習慣づける」31.0%の順となっている。（以下、図表 52）
- 男女別にみると、男性は「警察官によるパトロール活動を強化する」が女性と比べて高く、女性は「住民一人ひとりが、被害に遭わないようカギかけを習慣づける」、「学校等が、子どもが犯罪に遭わないための防犯教室を推進する」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「繁華街や商店街、道路、公園等に防犯カメラを設置するなど、犯罪抑止に配慮したまちづくりを推進する」が最も高くなっている。また、20～40 歳台は、「犯罪を犯した者に対する刑罰を厳しくする」が他の年代と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「繁華街や商店街、道路、公園等に防犯カメラを設置するなど、犯罪抑止に配慮したまちづくりを推進する」が最も高くなっている。また、砺波地域は、「住民一人ひとりが、被害に遭わないようカギかけを習慣づける」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 52 犯罪を減少させる方法



<その他意見（主なもの）>（カッコ内の数字は同一意見の人数）

子どもや青少年が犯罪をおこさないための教育や相談環境の充実（5）
普段からの地域住民の交流の活性化（4）
警察官の資質の向上（4）
もっと住民の気持ちを聞いてもらえる環境を作してほしい。
世間や周囲の人に不満を持つ人に犯罪を起こすまでに到らせないための相談や見守り活動
未成年であっても犯罪の内容によって刑罰を受けさせるようにする。
犯罪を起こそうと思わない程度に収入があるような景気があること
過去の性犯罪者、凶悪犯罪者の住所氏名の公開
飲酒検問を多くする。
市街地以外は夜間、街灯が少なく夜歩くのがこわいので照明を増やしてほしい。
一般の家屋にも防犯カメラ設置推進（希望者）。付けやすい価格ならなお良い。
外国人の犯罪の手口を教えてほしい。多く住んでいてよく見かけるので不安。
何かあった時の的確な反撃方法を教える。
不審な事（不審者の出没、動物の変死等）の情報を警察に提供する体制づくり、又それを地域住民にメール等で情報提供する（まだ犯罪になる前でも）。
社会的弱者（LGBT、障害者等）に対する差別や偏見を失くしていく全体的な意識改革も必要と思う。誰にとっても生きやすい社会、寛容な社会に向かう事で抑止、減少へと向かうのではないか。
無理しなくてよい。現下の減少をよろこびつつ日々油断しないこと。

<調査結果を受けて>

前回調査結果（平成 28 年）より不安を感じる人が若干減少したものの、不安を感じる犯罪については、「特殊詐欺事案」、「インターネットを利用した詐欺」は前回よりも 10 ポイント以上増加したほか、「子どもに対する犯罪」、「女性に対する犯罪」、「つきまとい、ストーカー、DV事案」の 3 項目で合計が 47.5%に達している。

また、犯罪を減らすために必要な取組みについては、前回調査同様、「犯罪抑止に配慮したまちづくり」が 1 位であった。

これらのことから、「特殊詐欺被害防止対策」として、広報啓発活動や各種水際対策の強化などを推進するほか、「インターネット犯罪対策」として、サイバー犯罪に対する捜査を強化するとともに、官民一体となったサイバーセキュリティ対策を推進していく。また、「女性・子どもの安全対策」として、学校・関係団体等との一層の連携により、通学路等における警戒活動の強化や情報の共有を図るとともに、声掛けなどの前兆事案に対する先制的な対処により、女性・子どもの安全を確保していく。

今後も、県民の身近で発生する犯罪抑止のため、県や関係機関・団体と連携し、多様な犯罪抑止対策を講じてまいりたい。

3 意識調査

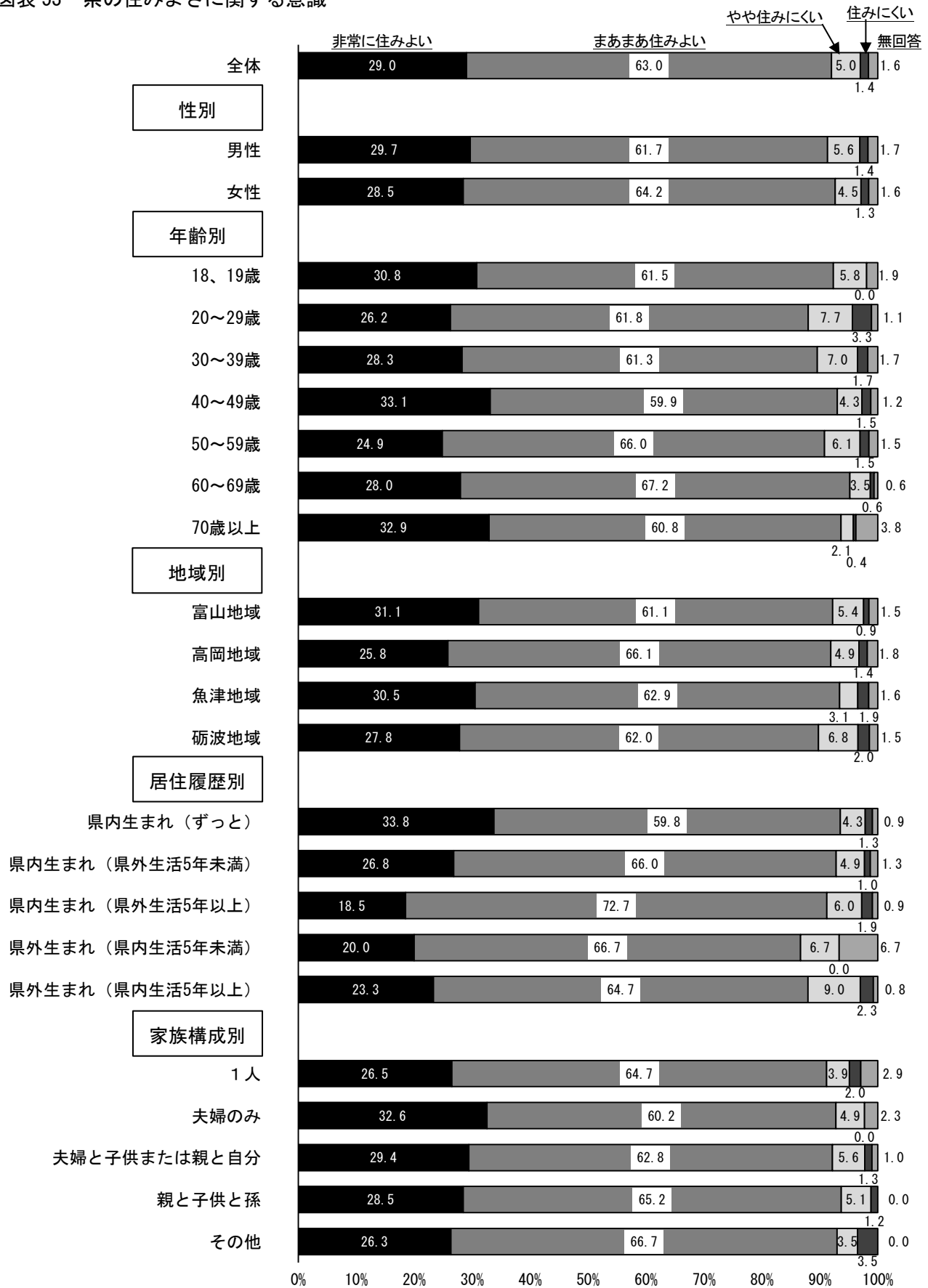
問 21 次の設問について、あなたが普段どのように感じられたり、どのように思ったりされているか
お聞かせください。

(1) あなたは、富山県は住みよい県だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 富山県は住みよい県だと思うかについてみると、「非常に住みよい」29.0%と「まあまあ住みよい」63.0%を合わせて、9割強が『住みよい』としている。(以下、図表 53)
- 男女別にみると、男女ともに9割強が『住みよい』としている。
- 年齢別にみると、「20～29歳」と「30～39歳」で『住みよい』が他の年代に比べて低くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は『住みよい』が他の地域と比べてやや低くなっている。
- 居住履歴別にみると、県内出身者は『住みよい』が9割強となっており、特に、生まれてからずっと県内に住んでいる人では「非常に住みよい」が3割を超えている。一方、県外出身者は『住みよい』がやや低い。
- 家族構成別にみると、すべての区分で『住みよい』が9割強となっている。

図表 53 県の住みよさに関する意識

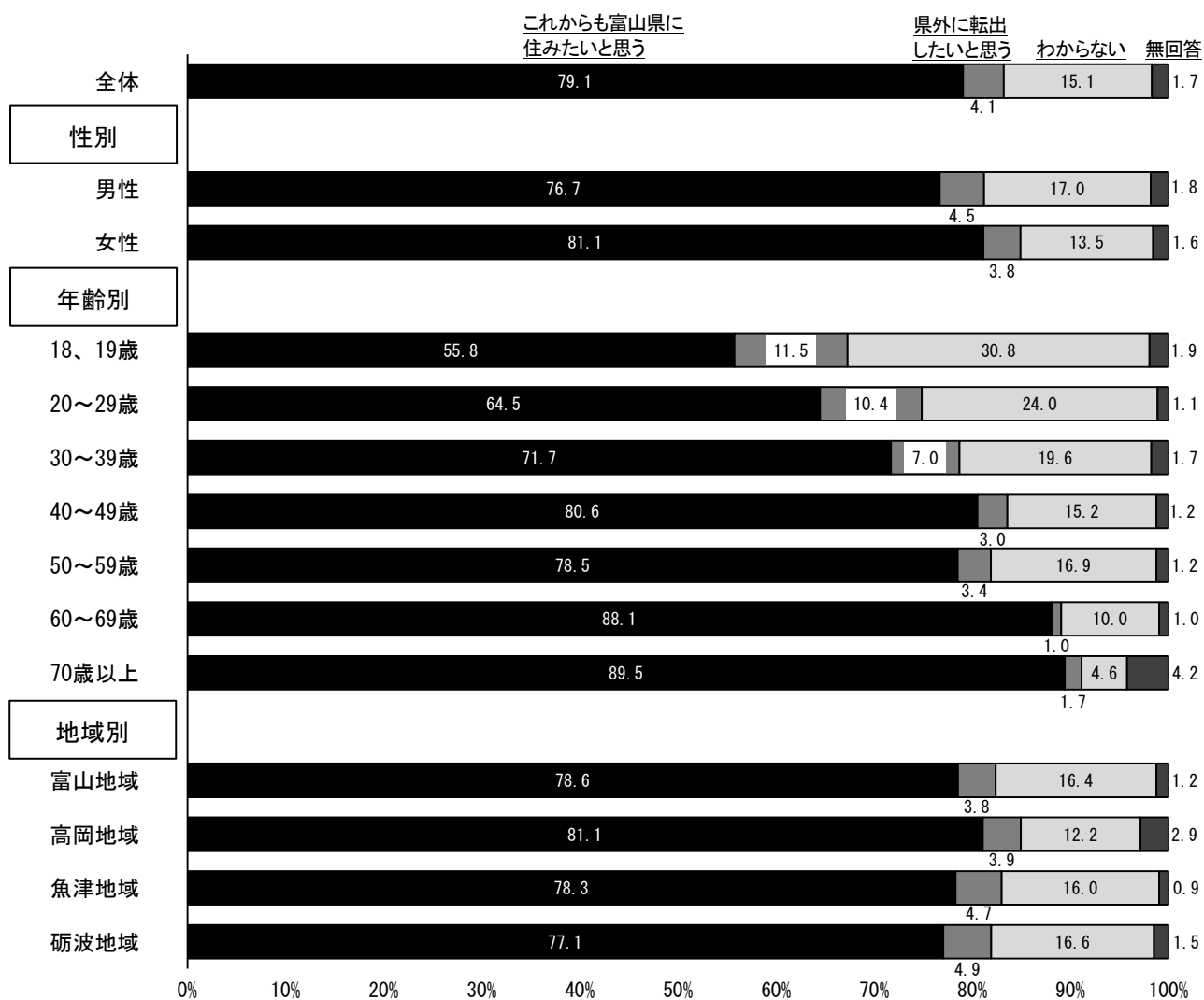


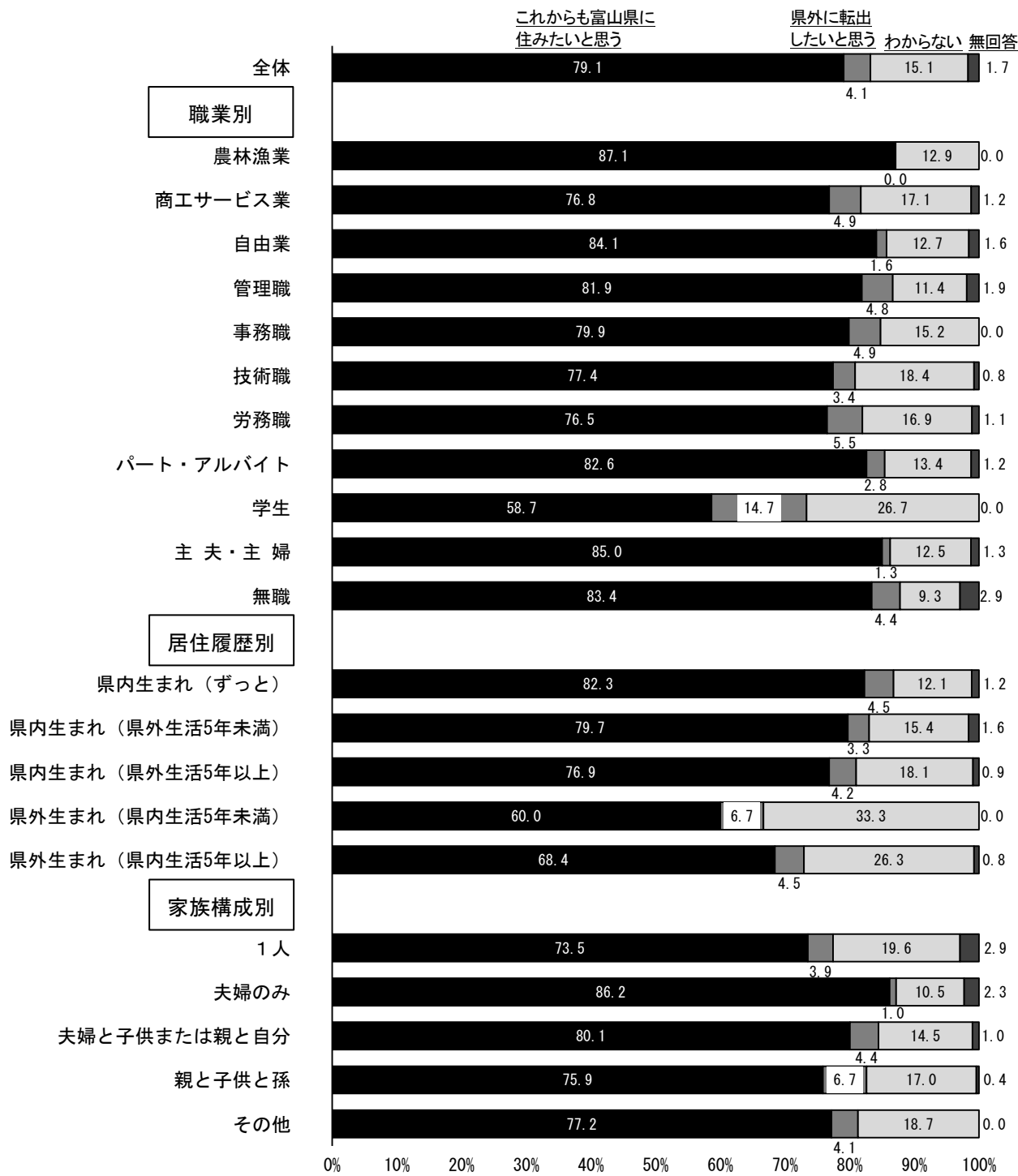
(2) これからも富山県に住みたいと思われませんか。次の中から1つ選んでください。(通学、転勤等により県外に転出される予定がある方についても、ご自身の意識としてお答えください。)

【 調査結果 】

- これからも富山県に住みたいと思うかについてみると、「これからも富山県に住みたいと思う」が79.1%、「県外に転出したいと思う」が4.1%、「わからない」が15.1%となっている。(以下、図表54)
- 男女別にみると、「これからも富山県に住みたいと思う」は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、年代が高くなるにつれ「これからも富山県に住みたいと思う」が高い傾向にあり、60歳以上は9割弱となっている。
- 職業別にみると、「学生」は「これからも富山県に住みたいと思う」が58.7%と他の職業と比べて低くなっている。
- 居住履歴別にみると、県内出身者の場合は「これからも富山県に住みたいと思う」が7割を超えているのに比べ、県外出身者の場合は低く、特に県内生活5年未満では6割となっている。

図表54 県内での継続居住意向



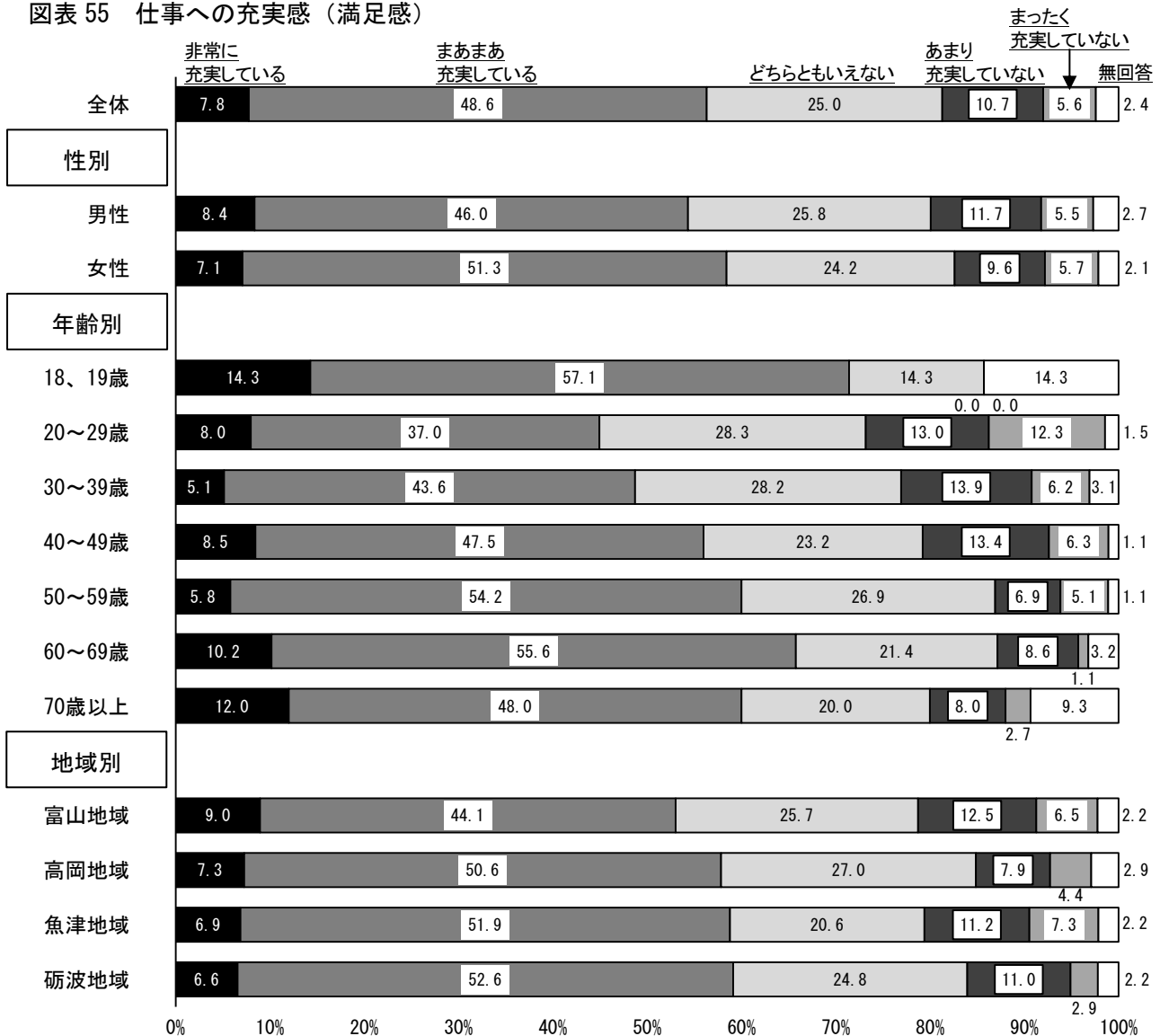


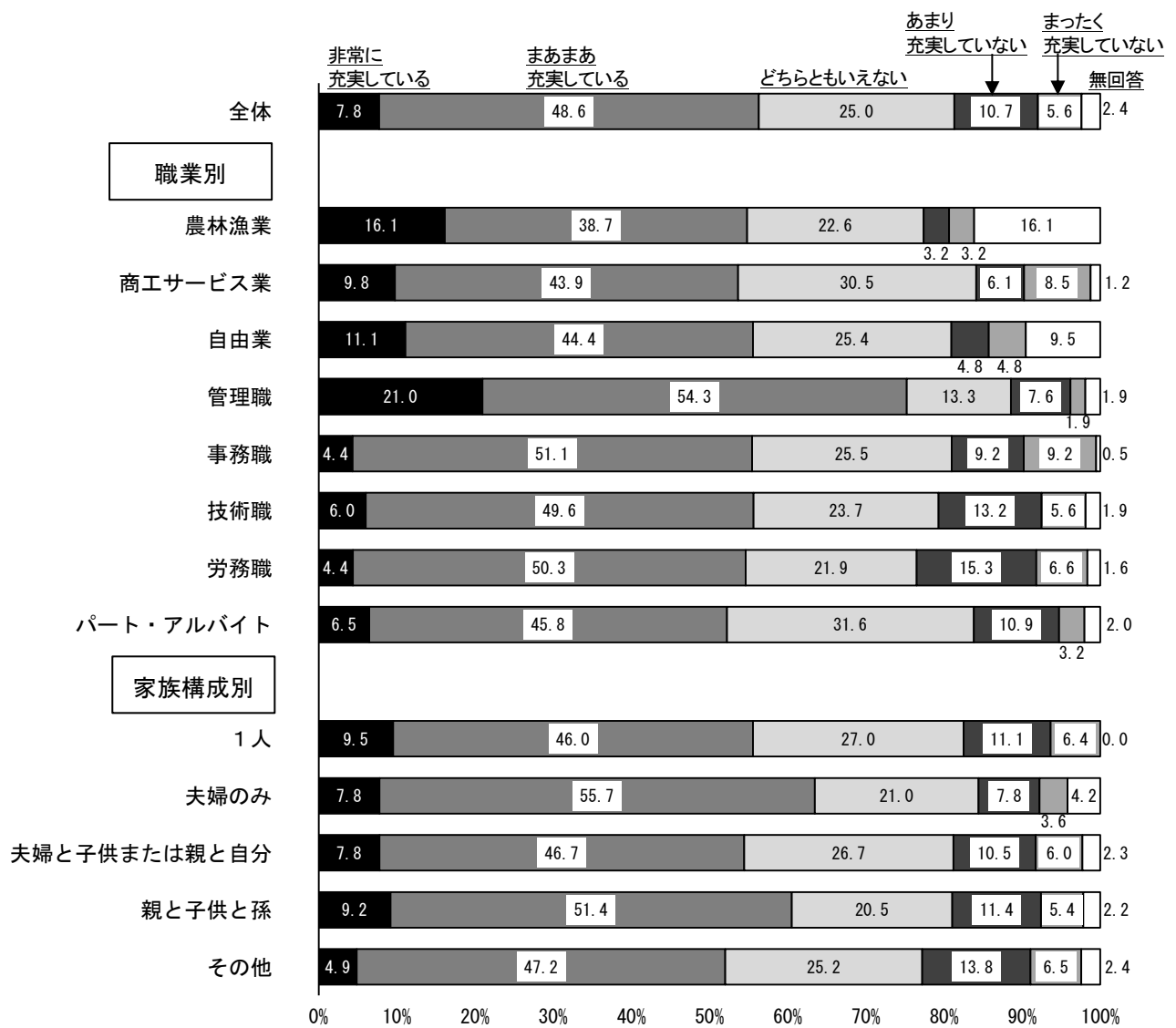
(3) 仕事をなさっている方にお聞きします。あなたは、仕事に充実感（満足感）を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 仕事に充実感（満足感）を感じているかについてみると、「非常に充実している」7.8%と「まあまあ充実している」48.6%を合わせて、56.4%が『充実感がある』としている。一方、「あまり充実していない」10.7%と「まったく充実していない」5.6%を合わせて、16.3%が『充実感がない』としている。（以下、図表 55）
- 男女別にみると、『充実感がある』は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、『充実感がある』は「18、19歳」が最も高く、「20～29歳」が最も低い。そこから「60～69歳」にかけては年代とともに高くなる傾向にある。
- 地域別にみると、『充実感がある』は富山地域がやや低くなっている。
- 職業別にみると、『充実感がある』は「管理職」が特に高くなっている。

図表 55 仕事への充実感（満足感）



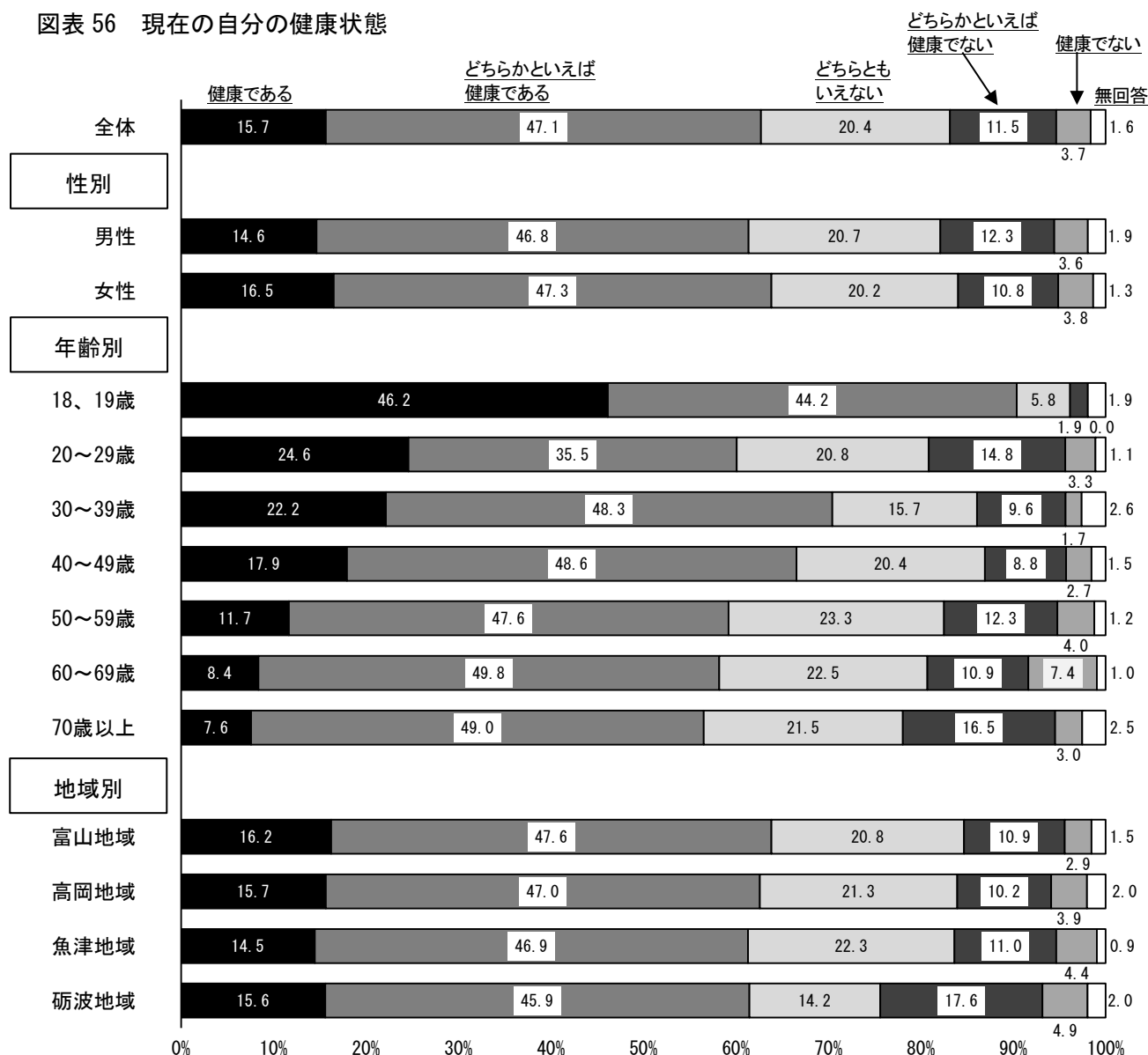


(4) あなたは、自分の今の健康状態をどのように感じていますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 現在の自分の健康状態についてみると、「健康である」15.7%と「どちらかといえば健康である」47.1%を合わせて、『健康であると感じている』割合は62.8%となっている。一方、「どちらかといえば健康でない」11.5%と「健康でない」3.7%を合わせて、『健康でないと感じている』割合は15.2%となっている。(以下、図表56)
- 男女別にみると、『健康であると感じている』は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、「健康である」は年齢が高くなるにつれ低い傾向にある。
- 地域別にみると、富山地域は『健康であると感じている』が他の地域と比べてやや高くなっている。

図表 56 現在の自分の健康状態

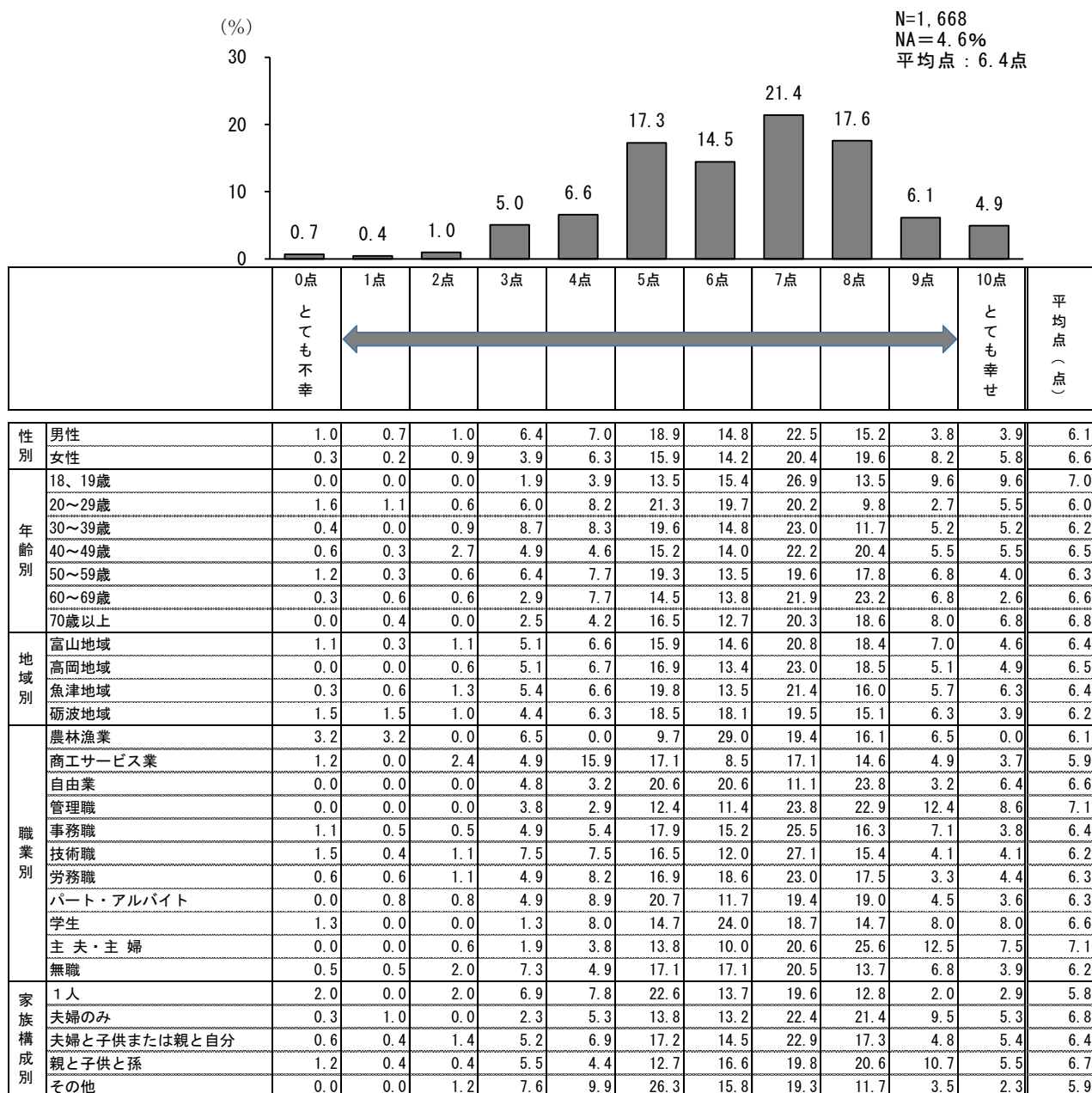


(5) 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。次の中から数字を1つだけ選んでください。

【 調査結果 】

- 現在どの程度幸せかについて10点満点で点数化してみると、「7点」が21.4%と最も高く、次いで「8点」17.6%、「5点」17.3%の順となっており、全体の平均点は6.4点となっている。
(以下、図表57)
- 平均点を男女別にみると、女性のほうが高くなっている。
- 平均点を年齢別にみると、「18、19歳」が最も高く、「20～29歳」が最も低くなっている。
- 平均点を職業別にみると、「管理職」、「主婦・主夫」が高く、「商工サービス業」、「農林漁業」が低くなっている。
- 平均点を家族構成別にみると、「夫婦のみ」が最も高く、「1人」が最も低くなっている。

図表57 主観的幸福感

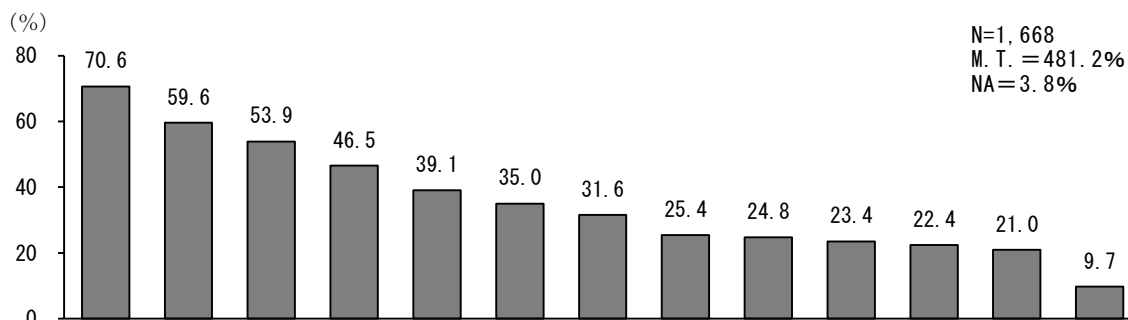


(6) あなたご自身の幸福感を判断する際に、重視するものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

【 調査結果 】

- 幸福感を判断する際に重視するものについて見ると、「健康状況」が70.6%と最も高く、次いで「家計の状況(所得・消費)」59.6%、「家族関係」53.9%の順となっている。(以下、図表58)
- 男女別にみると、女性は「家族関係」、「精神的なゆとり」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19歳」は「友人関係」、「20～29歳」は「精神的なゆとり」、30歳以上は「健康状況」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、上位4項目の順位はすべての地域で同じとなっている。

図表58 幸福感の判断基準



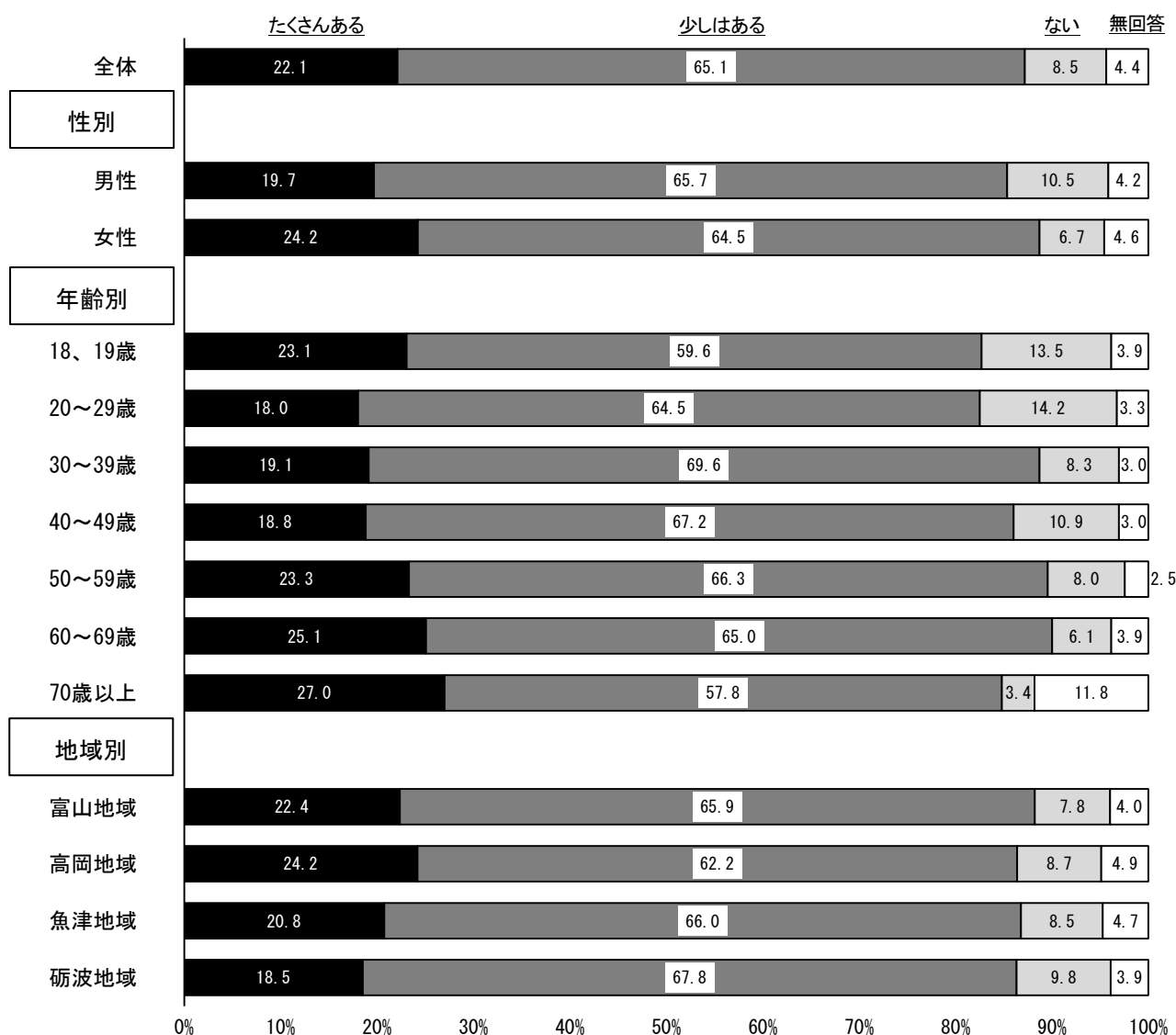
		健康状況	(家計の状況(所得・消費))	家族関係	精神的なゆとり	良好な生活環境	自由な時間	友人関係	(就業状況の有無・安定)	の趣味、社会貢献など	仕事の充実度	充実した余暇	職場の人間関係	と地域のコミュニティ
性別	男性	67.4	57.4	46.5	39.8	34.3	34.8	27.3	25.8	26.6	24.2	21.8	19.3	9.8
	女性	73.4	61.5	60.3	52.3	43.2	35.2	35.3	25.1	23.2	22.8	23.0	22.4	9.6
年齢別	18、19歳	42.3	40.4	42.3	50.0	36.5	46.2	55.8	19.2	32.7	11.5	30.8	15.4	3.9
	20～29歳	45.9	51.4	44.3	53.6	38.3	53.0	48.1	24.0	33.3	28.4	33.3	32.8	6.0
	30～39歳	70.0	61.3	56.1	62.2	43.9	49.6	38.3	38.7	30.4	34.8	31.3	33.9	8.7
	40～49歳	72.0	66.0	59.9	45.6	38.3	32.8	28.6	32.2	21.3	32.2	23.1	28.3	7.0
	50～59歳	74.9	66.6	56.8	49.4	35.0	31.6	24.9	31.9	24.9	25.2	19.6	20.3	7.4
	60～69歳	81.4	57.2	52.7	39.9	41.5	26.7	22.2	15.8	18.7	15.4	17.0	11.3	11.6
	70歳以上	74.7	53.2	51.1	31.2	39.2	23.2	32.9	9.3	23.6	7.2	13.5	4.2	19.4
地域別	富山地域	73.4	62.3	56.1	49.2	41.5	34.5	32.6	26.2	25.6	23.7	22.7	20.5	9.5
	高岡地域	69.1	60.8	52.6	44.5	37.8	33.5	31.3	24.8	22.8	21.3	22.6	21.8	8.9
	魚津地域	70.1	53.1	51.6	45.3	34.0	36.8	31.5	23.9	26.7	24.5	22.6	21.1	10.1
	砺波地域	66.3	58.1	53.7	44.9	42.4	37.6	29.3	26.8	23.9	25.9	21.0	20.5	11.7

(7) 県内には、自然、歴史、文化、特産品など多くの魅力や地域資源がありますが、県外の知人、友人等に自信をもって紹介したり、奨めたりできるものがありますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 県外の知人等に自信をもって紹介できる県内の魅力や地域資源の有無についてみると、「たくさんある」22.1%と「少しはある」65.1%を合わせて、9割弱が『ある』としている。(以下、図表 59)
- 男女別にみると、「たくさんある」は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、「ない」は30歳未満が高くなっている。
- 地域別にみると、「たくさんある」は砺波地域が最も低くなっている。

図表 59 県の魅力や地域資源の有無

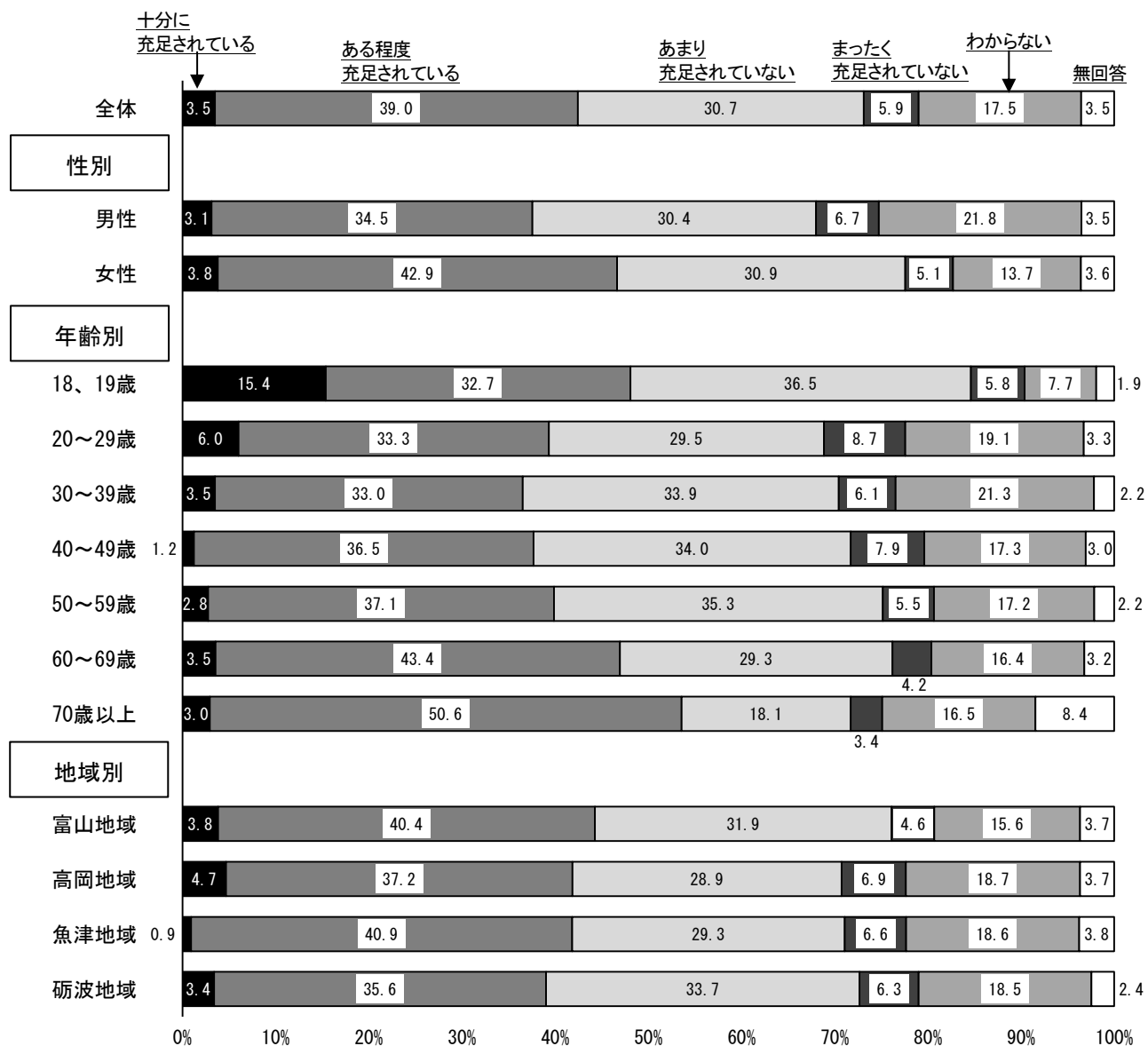


(8) あなたは、県内において、音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会が充足されていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 県内で芸術文化に親しむ機会が充足されていると思うかについてみると、「十分に充足されている」3.5%と「ある程度充足されている」39.0%を合わせて、42.5%が『充足されている』としている。(以下、図表 60)
- 男女別にみると、『充足されている』は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、『充足されている』は、30歳以上は年齢が高くなるにつれ高い傾向にある。
- 地域別にみると、『充足されている』は富山地域が最も高くなっている。

図表 60 県内で芸術文化に親しむ機会

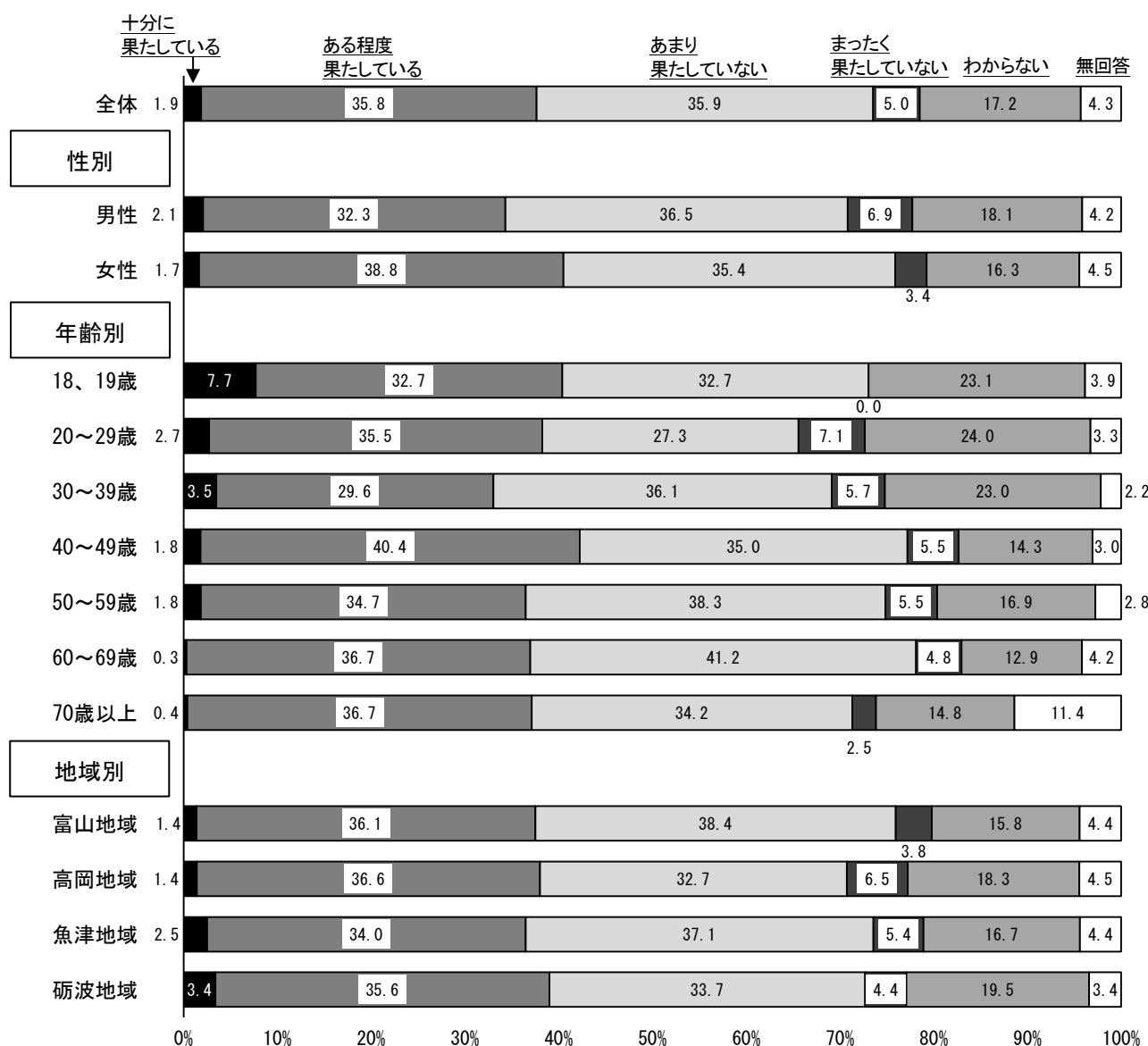


(9) 最近の家庭は、しつけや望ましい生活習慣づくりなど、子どもの教育において、役割を果たしていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 家庭が子どもの教育において、役割を果たしていると思うかについてみると、「十分に果たしている」1.9%と「ある程度果たしている」35.8%を合わせて、『果たしている』とする割合は37.7%となっている。(以下、図表 61)
- 男女別にみると、『果たしている』は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、『果たしている』は「40～49歳」が最も高く、「30～39歳」が最も低くなっている。
- 地域別にみると、『果たしている』は砺波地域がやや高くなっている。

図表 61 家庭が子どもの教育に果たす役割

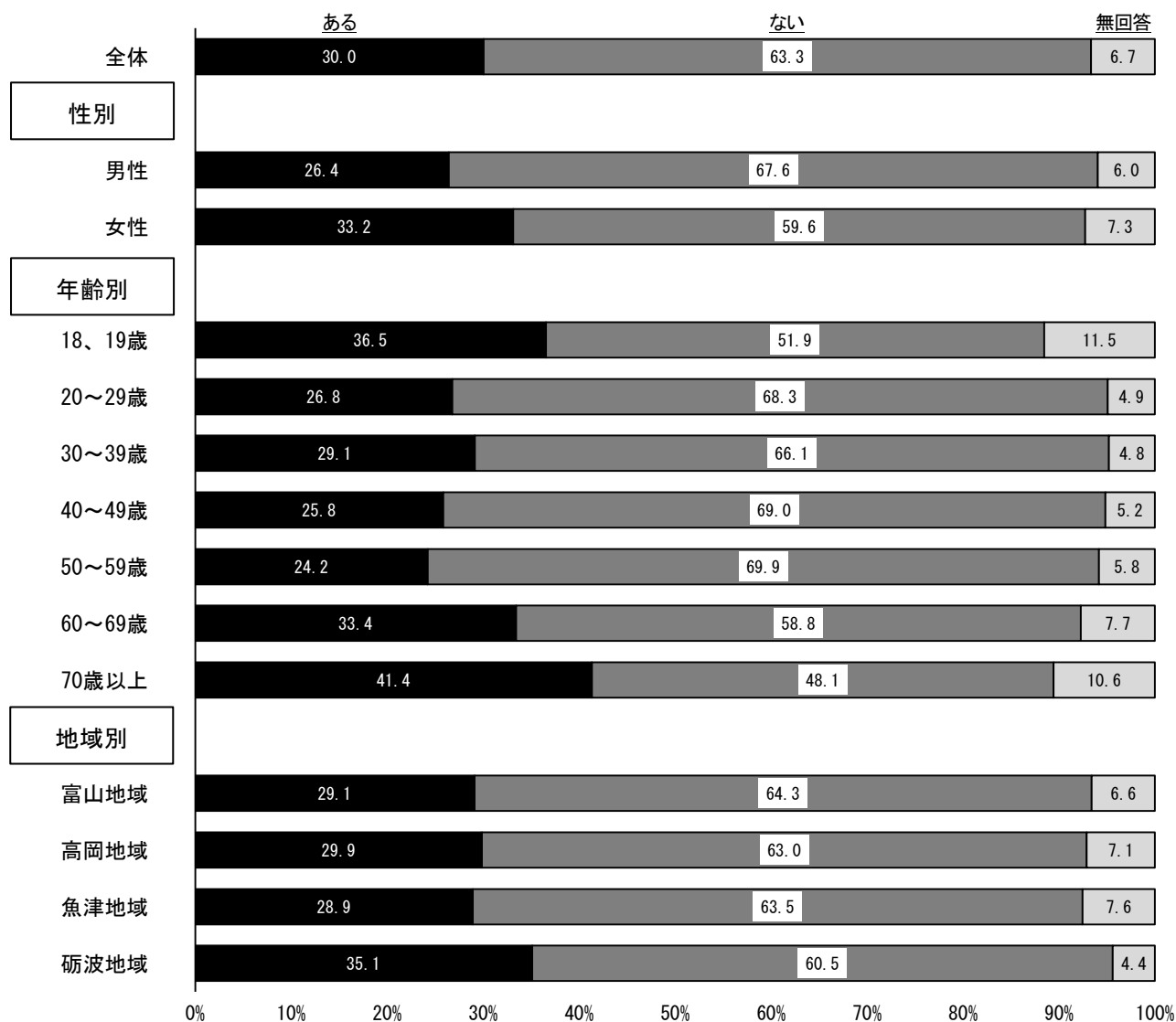


(10) あなたは、過去1年間に、生涯学習を行ったことがありますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 過去1年間に生涯学習を行ったことがあるかについてみると、「ある」が30.0%、「ない」が63.3%となっている。(以下、図表62)
- 男女別にみると、「ある」は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、「ある」は「18、19歳」、「70歳以上」が高くなっている。
- 地域別にみると、「ある」は砺波地域が最も高くなっている。

図表62 過去1年間の生涯学習の実施状況

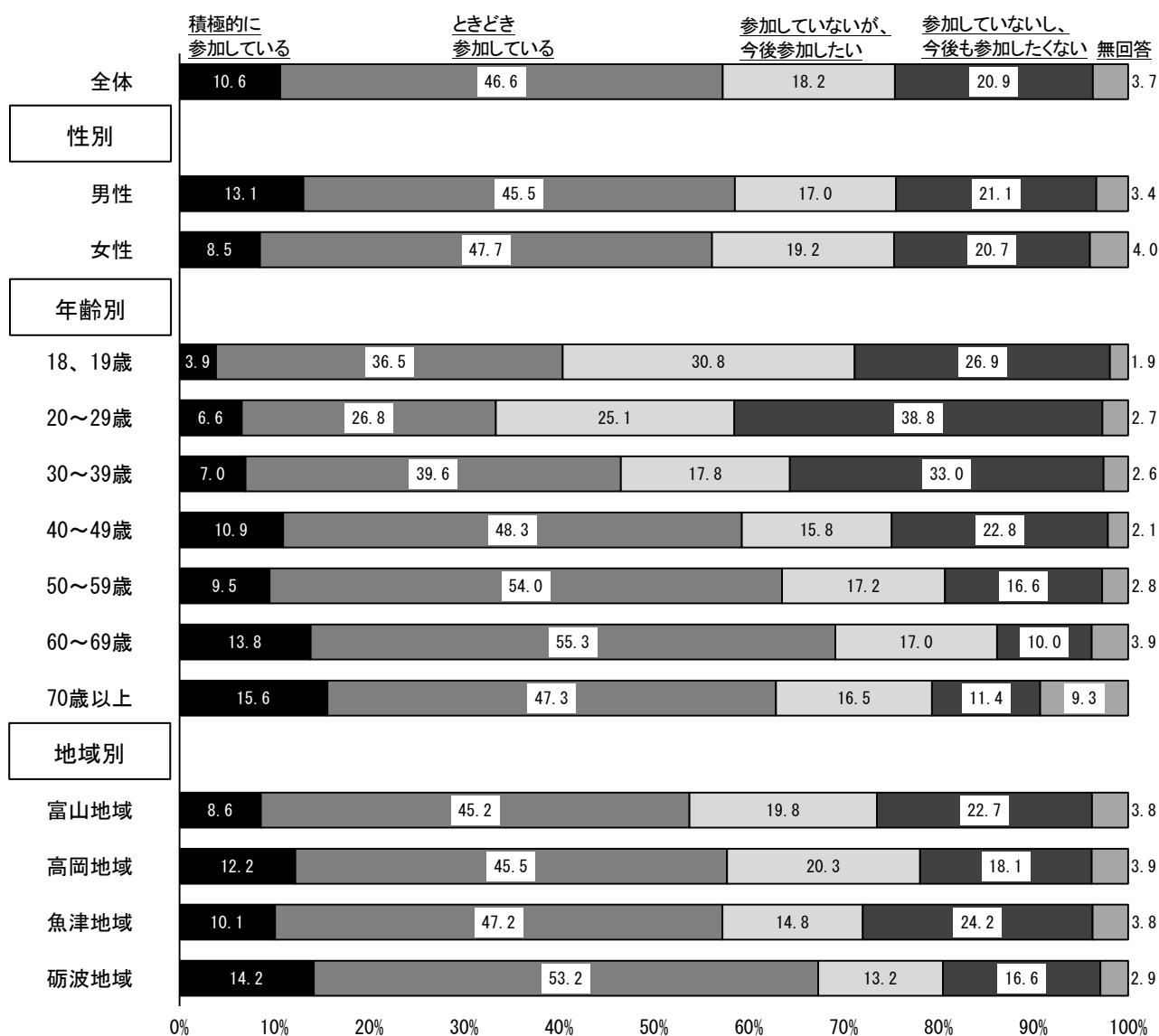


(11) あなたが住んでいる地域の活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 地域活動への参加状況を見ると、「積極的に参加している」10.6%と「ときどき参加している」46.6%を合わせて、『参加している』割合は57.2%となっている。一方、「参加していないし、今後も参加したくない」は20.9%となっている。(以下、図表63)
- 男女別にみると、「積極的に参加している」は男性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、「20～29歳」は『参加している』が他の年代に比べて低く、また「参加していないし、今後も参加したくない」が他の年代に比べて高くなっている。
- 地域別にみると、『参加している』は砺波地域が特に高くなっている。

図表 63 地域活動への参加状況



(12) あなたが住んでいる地域の景観をどのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 自分が住む地域の景観をどのように思うかをみると、「美しいと思う」が40.5%、「どちらともいえない」が49.6%、「美しいと思わない」が6.7%となっている。(以下、図表 64)
- 男女別にみると、「美しいと思う」は女性のほうが高くなっている。
- 年齢別にみると、「美しいと思う」は「18、19歳」が最も高く、「50～59歳」が最も低くなっている。
- 地域別にみると、「美しいと思う」は砺波地域が最も高くなっている。

図表 64 居住地域の景観

